2023（令和５）年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団

2023年度事業報告書目次

ページ

◆　法　　人　・・・・・・・・・・・　1
神戸聖隷歴史資料館　・・・・・・・・・・・　24
◆　但馬地区
平生園　・・・・・・・・・・・　27
わらしべ　・・・・・・・・・・・　33
さくらの苑　・・・・・・・・・・・　39
恵生園　・・・・・・・・・・・　44
真生園　・・・・・・・・・・・　50
和生園　・・・・・・・・・・・　56
北但広域療育センター　・・・・・・・・・・・　64
エスポワールこじか　・・・・・・・・・・・　69
◆　神戸地区
神戸聖生園　・・・・・・・・・・・　74
　グループホームせいれいやまて　・・・・・・・・・・・　79
　グループホームたいのはた東　・・・・・・・・・・・　83
神戸愛生園　・・・・・・・・・・・　86
きたすま障害者相談支援センター　・・・・・・・・・・・　90
　神戸聖隷総合相談センター　・・・・・・・・・・・　97
神戸友生園　・・・・・・・・・・・　102
　グループホーム南落合　・・・・・・・・・・・　109
神戸光生園　・・・・・・・・・・・　113
　グループホームみなみたもん　・・・・・・・・・・・　118
　グループホームふくだ　・・・・・・・・・・・　122
神戸明生園　・・・・・・・・・・・　126
　ケアホームきたすま　・・・・・・・・・・・　130
神戸市立ワークセンターひょうご　・・・・・・・・・・・　133
　しごとサポート中部
　神戸障害者就業・生活支援センター
　障害者雇用就業・定着拡大推進事業
グループホームアリエッタ北須磨　・・・・・・・・・・・　145
ひょうご障害者相談支援センター　・・・・・・・・・・・　149
　神戸市障害者基幹相談支援センター
　神戸市発達障害者中部相談窓口
ひょうごデイサービスセンター　・・・・・・・・・・・　159
神戸市立自立センターひょうご　・・・・・・・・・・・　165
ワークセンターわかまつ　・・・・・・・・・・・　172
せいれいやさかだい　・・・・・・・・・・・　176
　グループホームのぞみ　・・・・・・・・・・・　184
◆　事業実績　・・・・・・・・・・・　189
◆　施設整備実績　・・・・・・・・・・・　191

２０２３年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
理事長　水 野　雄 二

「今泣いている人々は、幸いである。あなたがたは笑うようになる。」
（ルカによる福音書6：21b）

1.はじめに

長く続くコロナ禍も2023年5月から感染分類が第2類から第5類に変更され、社会全体はウィズコロナへと大きくシフトチェンジしました。しかしながら、2023年度は、コロナウイルスの終息には及ばず、依然として感染症の影響を強く受けながら施設運営を続ける一年となりました。

2年を超えるウクライナ戦争、イスラエルによるガザ地区侵攻など、世界における戦争はマスメディアによって生々しく伝えられ、日本においても漠然とした平和への不安が押し寄せました。また、2024年元旦に発災した能登半島地震など大規模自然災害への不安も現実味を帯びてきました。そして、急激な物価高騰による生活不安など、私たちは多くの不安を抱えたままで毎日の生活を過ごしています。そのような中、社会福祉法人も時代から大きなチャレンジを受け、事業の多様化、サービスの質向上、人材確保など引き続く課題を意識しながら、日々の支援の業に勤しむ一年を過ごしてきました。

神戸聖隷福祉事業団は、2023年度から2025年度までの3か年を第5期中期計画として、新しい組織体制の下で2023年度をスタートさせました。そのビジョンに「私たちは、今日までの歩みに誇りをもって地域社会・利用者・職員のしあわせを次の半世紀につないでいきます」を掲げ、来る2025年の創業50年に向かって事業を進めました。法人の中期計画にも挙げられた神戸愛生園の建替えプロジェクトチームや創業50周年実行委員会も新たに立ち上がり、中期計画の実行に向けての歩みが始まっています。

また、第5中計の基本的な考え方を「中期計画の中心は施設計画である」とし、各施設が自己完結を目指し努力を重ねると共に、常任理事をグループサポーターとした応援協力体制を整え、施設それぞれの中期計画を完遂できるような動きを始めました。同時に、法人全体の推進役として「QOL委員会」「財務委員会」「人事委員会」「広報委員会」の4つの委員会が山積する法人課題に取り組み、「経営諮問委員会」では次代の経営層養成を意識した新たな委員を加えて、特に「人材の発掘と確保」を1年のテーマとして施策を採択し、実行に移してきました。しかし、人員確保の厳しさ、またコロナの影響による利用率や給付費の減少に伴う財務の不安定さなど、目標達成まではまだ途上にあり、2024年度に引き継がれていきます。

世界、日本、地域社会にあって、多くの人々が今なお、様々な状況の中で生きづらさや悲しみ、恐怖や不安を持ち続け、涙を流しておられます。しかし神戸聖隷では、コロナの収束によって開催された神戸での「第42回おいでやすカーニバル」に、また但馬での「感謝祭」に、多くのご利用者、地域の方々、職員らが集い、笑顔で一日を過ごすことができました。私たちは「笑うようになる」社会、施設、人間関係の構築をめざして更に歩みを継続していきます。

2．2023年度の事業報告について

財務委員会

年度当初は各事業所の事業計画と予算に挙げられている利用人数と給付費収入について、目標数値に近い状況で推移しました。5月より2類相当から5類へ移行した新型コロナですが、6月以降入所施設でのクラスターの発生により短期入所者や通所利用者の利用停止を余儀なくされ、加えて通所施設ではクラスターとはならないものの利用自粛が顕著にみられ、今年度の目標達成状況については非常に厳しい状況となりました。

また、各事業所での定員割れとその後の空床が埋まらず、関係機関等への積極的な連携強化を試みてきましたが、円滑な利用者確保にはつながりませんでした。あわせて、職員体制も不安定な状況が続き、予定していた加算取得に支障をきたすのみならず、減算対象となる事業所もみられました。

財務委員会では、毎月の利用人数と給付費収入の達成状況を集計し差異分析の把握に努め、目標と実績に乖離の見られる事業所の管理職へのフィードバックにより施設運営への意識を高めつつ、グループサポーターによる支援を継続して行うことで、加算取得により経営改善した事業もありましたが、法人全体としては大きな改善にはつながりませんでした。

職員の働き方についても、管理職の超過勤務の把握や、70歳までの就業機会の確保についての情報収集を行いながら、11月に実施した課長研修では労務管理とタイムマネジメントについての学びの機会を持つことで、全職員が働きやすい環境を整備するための意識改革に努めました。

（久木田憲彦）

1．推進状況（財務委員会）

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
コロナ減収からの脱却（安定的な事業収入の確保）（財務の視点）	各施設の収支状況の分析と運営方針の検証	①各事業の目標値に対する月次実績チェック	ｱ) 毎月の実績を集計し、目標と実績の乖離の大きい事業所を把握・分析し介入 ｲ) 内部監査実施事業所等への加算算定取得支援を実施	◎
		①経常増減差額率が低い施設の運営改善へ担当理事と施設長が取組	ｱ) 前年度決算の経常増減差額率の集計 ｲ) WAM平均値比較を法人単位と事業種別での一覧表・グラフを作成し常任理事会で事業種別での比較を提案 ｳ) 全体施設長会で事業種別平均値について説明	○
	適正な積立金の確保	①長期的な修繕（建替）・設備更新の計画策定	ｱ) 2017年度以降の全拠点の積立状況一覧表を作成し常任理事会で共有	△
職員処遇の更なる充実（財務の視点）	管理職時間外手当の対応	①管理職の意識改革への取組みと業務の見直しの実施	ｱ) 毎月の管理職の超過勤務時間数を集計し常任理事会で報告 ｲ) 課長研修にて「労務管理」「タイムマネジメント」をテーマとして意識改革を促す ｳ) 手当支給については未実施	△
	リーダー手当の検討	①リーダー手当支給に関する妥当性の検証	ｱ) 全事業所のリーダー配置状況を確認 ｲ) 具体的な取り組みには至らず	△
定年延長対策（財務の視点）	70歳までの就業機会確保（努力義務）への対応	①社労士の助言をもとに経営諮問委員会にて検討	ｱ) 高年齢者雇用安定法の情報収集と制度把握を実施 ｲ) 社労士への問い合わせは未実施	△

QOL 委員会

第 5 期中期計画の実行計画「神戸聖隷品質のサービスの向上」を目指した 1 年目が過ぎました。サービスの向上のために今何が必要なのか、欠けているものは何かを手探りの状態から始め、ほんの少し方向が見えた気がします。法人財産のキャリアのある職員により 5 分野（①相談、②就労、③知的、④児童、⑤介護）のチームを立ち上げ QOL 専門研修計画を作成しました。次年度はその力を借りて幅広い職員に知識や技術を伝える機会を作り、講師役・受講者両面の育成を図り、利用者支援の質の担保を継続させる土台を築きます。

QOL の継続事項である虐待防止チェックリスト年 2 回実施や虐待・不適切ケア評価基準表に基づく事例学習会の実施を通して、職員個々への早期対応、また、虐待・不適切ケアに対する施設内の共通理解を図ることができています。

外部評価として、第三者評価を 4 施設が受審しました。また、満足度調査では全施設が利用される方の声を聴き、その思いに応えるべく対応をホームページに公表しました。

事故ヒヤリハットは件数などを事業報告にて確認することで施設の傾向などを知ることが出来、施設内外で共有していますが、減少へ向けた PDCA の確立には至っていません。

また、「先端技術等情報収集」としては「聖隷福祉事業団」を見学させていただき、ICT 導入の基本的考えなど学ばせていただきましたが、施設への情報提供にとどまり業務改善に向けた積極的な導入よりむしろ導入後の評価が課題として上がっています。

成年後見制度活用推進委員会は、課長を中心に年 4 回、今後の活動方針の協議、各班活動状況報告及び各施設の制度活用の状況報告などを行いました。2023 年度の成年後見制度推進活動実績調査表は下記へ付けています。しかし、現場の全課長参加による会議は、現場の人手不足・コロナ対応や報酬改定への対応に追われるなど厳しいこともあり、次年度の活動内容を決めきるところまでには至りませんでした。

1.推進状況（QOL 委員会）

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
最適な支援の提供（顧客の視点）	神戸聖隷品質のサービスの向上	①QOL 研修プラン及び先進技術等の研究 ②施設 QOL 委員と共にサービスの強み・弱みの把握と評価の実施	① ｱ）先端技術等情報収集と評価 ・聖隷福祉事業団見学（5 月） ・業務改善、機器評価アンケート実施（1 月） ・チーム会議（6・9・12・3 月）	△
			ｲ）QOL 主体の研修プラン作成 ・QOL 専門研修 2024 年度開始 ・①相談、②就労、③知的、④児童、⑤介護の 5 チームメンバーによる実施計画作成	◎
			② ｱ）第三者評価受審 4 施設 ・さくらの苑、神戸友生園 ワークセンターひょうご 神戸明生園	◎
			ｲ）虐待防止チェックリスト ・1 回目実施 9/1～9/20 ・2 回目実施 2/1～2/20	◎
			ｳ）虐待・不適切ケア評価基準表に基づく事例学習会（全施設 9 月～1 月実施） ・判定基準表運用チームによる研修未実施	○
			ｴ）事故報告・リスクマネジメント等 ・2022 年度事故ヒヤリハット件数集計報告、施設長会で共有 ・ワークフロー事故報告シート作成（8 月使用開始） ・事業報告（半期から）に事故、ヒヤリの件数記入欄追加	△
			ｵ）満足度調査 ・10 月～11 月全施設実施 ・ホームページに公表	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
			ｶ) 接遇の向上 ・接遇チーム会議（5回） ・接遇キャンペーン3回実施 テーマ「話し方」9/4～9/17 テーマ「聞き方」11/6～11/19 テーマ「健康管理」2/5～2/18 ・卓上カレンダー制作検討	◎
基幹施設の老朽化対策（業務プロセスの視点）	付加価値のある施設改修計画の策定	各施設の改修計画の洗い出し 改修に伴う付加価値について検討	ｱ) 未実施	×
事業の確実な継続（業務プロセスの視点）	法人内BCPの施設事業所間協力体制の構築	法人内協力体制の組立て	ｱ) 全施設BCP（感染、災害）作成確認のみ	△

2023年度 神戸聖隷福祉事業団 成年後見制度推進活動実績調査

【神戸地区】 調査実施日 2024年3月

	事業所名	担当者	2023年3月31日の状況						各事業所の実態（今見えている状況） 2024年3月31日の状況						2023年4月～2024年3月に後見等が終了した人数	成年後見の必要性（職員見立て）		
			利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計		制度活用の必要性がある方	特に緊急性を要す人	特記事項
1	神戸聖生園(GH含む)	岩城 州吾	62	5	0	0	0	5	59	6	0	0	0	6	0	0	0	
2	せいれいやさかだい	三原 洋平	37	7	2	0	0	9	39	7	2	0	0	9	0	8	0	
3	神戸愛生園	山崎 浩司	46	17	2	0	3	22	47	18	2	0	0	20	5	1	0	
4	神戸友生園	津々木謙一	43	1	1	0	0	2	41	1	1	0	0	2	0	2	0	
5	神戸光生園(GH含む)	大川 博啓	96	10	1	1	0	12	95	10	1	1	0	12	0	14	2	
6	神戸明生園(GH含む)	北場 恒彦	75	25	0	0	0	25	75	28	0	0	0	28	0	8	3	入所、通所合わせて75名になりますが、ご家族、ご本人の高齢化により、金銭の管理が困難になって来ています。まだ、ご利用者自身の体力の低下もありますので、後見になり得る方の存在が必要になって来ています。
7	ワークセンターひょうご	畑中 浩成	18	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	
8	自立センターひょうご	佐原 義人	60	3	1	0	0	4	61	3	1	0	0	4	0	4	0	
9	多機能型デイセンターひょうご	宮本裕佳子	75	5	2	1	0	8	68	4	2	1	0	7	1	10	2	ご夫婦で利用されている方の世話人が高齢になり、今まで通りのことが出来なくなってきている。財産管理等を第三者の後見人に委ねていく必要性を感じている。 全体的に親が高齢になり、財産管理、身上観護共に難しくなってきている。
	インクルージョンひょうご	宮本裕佳子	18	1	0	0	0	1	18	1	0	0	0	1	0	2	0	両親が高齢で、兄弟がいても別世帯。今後を見据え後見制度の必要性を感じている。
10	ワークセンターわかまつ	服部まゆみ	38	3	0	1	0	4	39	3	0	1	0	4	0	14	9	ご両親のどちらかが認知症であったり、介護が必要な方や、片親の方、親がご高齢などについて必要性を感じています。
			568	77	9	3	3	92	563	81	9	3	0	93	6	63	16	
11	きたすま障害者相談支援ｾﾝﾀｰ	三木 卓也	523	11	9	0	1	21	593	11	10	0	1	22	0	14	2	
12	神戸聖隷総合相談センター	三木 卓也	309	20	4	1	0	25	303	20	4	1	0	25	0	17	7	
13	ひょうご障害者相談支援ｾﾝﾀｰ	桜間 悦子	757	3	4	5	0	12	752	3	4	5	0	12	0	1	0	長年金銭管理をしていた知人が高齢になり、制度の利用を検討している。
	※支援ｾﾝﾀｰは相談内容から必要と思われる数を挙げる		1589	34	17	6	1	58	1648	34	18	6	1	59	0	32	9	

【但馬地区】

	事業所名	担当者	2023年3月31日の状況						各事業所の実態（今見えている状況） 2024年3月31日の状況						2023年4月～2024年3月に後見等が終了した人数	成年後見の必要性（職員見立て）		
			利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計		制度活用の必要性がある方	特に緊急性を要す人	特記事項
14	恵生園	嵯峨山泰弘	67	6	5	0	3	14	57	6	4	0	2	12	2	1	0	緊急を要す方は今のところおられません。ご親族と協議して、しっかり了解を頂いた上で制度利用を進めていく予定としています。
15	真生園	中島 竜太 近藤 咲美	60	6	1	0	0	7	50	5	1	0	0	6	1	4	0	・利用者が亡くなられた際に後見人が葬儀の手配と遠方の家族の方へ連絡等をして頂きました。 ・成年後見が付いていられない方で生前に司法書士と葬儀等執り行いの契約を交わされており、死後に動いて頂けた。 ・家族より成年後見制度の相談（2件）を受け司法書士に相談を行うが、手続き・費用等を考えて申し立てを保留されました。制度活用の必要性がある方でもご家族の理解が難しい実状があります。
16	和生園(GH含む)	山根 由夫	40	1	0	0	1	2	35	1	0	0	1	2	0	10	1	＜和生園＞家人による金銭管理が疑わしいと思われるケースが有るが確証はなし。制度利用を含めた対応が必要であるが、慎重にならざる得ないケース ＜GH＞69歳女性利用者（DV被害）→実兄との関係性は良好であるが、本人が将来を何処で過ごされるのかと言う事によって、補助・保佐等活用を検討する必要性のあるケースあり ＜その他＞家族対象に困りごと調査を行うと、何人かのご家族から「親亡き後が心配」との思いを抱えられている。そこには、親の心情から「親亡き後が心配」との思いが強く、具体的に後見制度利用自体が「親亡き後の心配」を解決するとは言い難い状況が伺えている。 ・客観的に将来を見据えて後見制度利用について、推進委員と本人、家族の温度差は大きい（制度活用を行わなくても生活していける現実と、本人・家族共に困っても何とかなっている現実がある為か…）また、本人、家族自体が将来を見据えた支援が必要と考えるケースもあるが、将来を見通していない（分からない）家族もおられる状態
17	平生園	柴垣 奏二	60	1	0	0	0	1	60	1	0	0	0	1	0	0	0	特になし
18	さくらの苑	越智 奏之	29	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	
19	グループホームわらしべ	奥田 勝	18	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	・ご本人、ご家族より成年後見制度に関する問い合わせ無し。 ・新規入居時に制度について簡単ではあるが説明をしている。
20	北但広域療育センター	稲津 慎也	13	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	
			287	14	6	0	4	24	263	13	5	0	3	21	3	15	1	

制度活用の必要性のある方とは

①ご本人の判断能力が不十分で下記の状況にある方。
・擁護者（親、兄弟、子等）或いは周囲から権利侵害を受ける可能性のある方。
・親の判断能力が低下している、あるいは高齢・病気がち等である。且つ兄弟・姉妹がいない、あるいは疎遠な状況にある方。
②ご本人が必要と思っておられる方。

緊急性を要すとは

擁護者（親、兄弟、子等）あるいは周囲から権利侵害を受ける可能性が高い、あるいは既に受けている方。

※上記内容が当てはまればカウントして頂き、特記事項欄に詳細を記載してください。

人事委員会

福祉人材の確保の取り組みのうち、学校訪問については昨年度の 55 校（述べ 65 回）に対し、今年度は 17 校（述べ 22 回）に留まりました。訪問先、訪問回数については前年度の約 3 割程度と大幅に減少してしまいましたが、訪問活動を担当者だけでなく理事や経営諮問委員の施設長なども分担して行うことで法人全体としての課題であることの共通認識に繋がりました。

就職フェアについては例年参加している「福祉の就職総合フェア」など福祉に特化したイベントへの出展のほか自治体が主催する企業向けの各種イベントなどにも積極的に参加し、就活生との接点となる機会をできるだけ確保することに努めました。イベント参加にあたっては若い世代の職員の派遣について各施設からの積極的な協力を得て、学校訪問と同じく法人全体としての取り組みに繋がりました。また、インターンシップを再開しそのアナウンスのためのパンフレットも作成しました。

新卒採用については事務職 2 名、支援職 6 名の計 8 名（内、高卒生 1 名）で昨年度の 7 名を上回ることはできましたが、8 名のうち支援職・介護職の希望者は 6 名で予定数 10 名には届きませんでした。また、今年度の新卒者から但馬・神戸各地区に限定した「エリア正規採用制度」を導入しましたが、高卒生を除く 7 名中 5 名が「神戸地区希望者」という結果となり、但馬地区における人材の確保が今後の課題となりました。

人材の育成に関わる法人内研修については、例年実施している各階層別の研修のほかコロナ禍で中断していたタイへの海外研修を 4 年ぶりに再開しました。さらに今回は法人と連携協定を結んでいる神戸常盤大学からの学生も受け入れ参加者にとっては目の前の人に寄り添う「福祉のこころ」を学ぶ貴重な機会となりました。

（有川洋司）

1.推進状況（人事委員会）

<table>
<tr><th>重点実施項目</th><th>実行計画</th><th>2023年度計画</th><th>実施状況</th><th>達成度</th></tr>
<tr><td rowspan="5">職場（施設）の活性化(学習と成長の視点)</td><td>管理職のワークライフバランスの向上</td><td>①管理職の意識改革と管理職業務の見直し</td><td>ｱ) 2022年度課長超過勤務調査実施</td><td>×</td></tr>
<tr><td>昇進・昇格意欲の醸成</td><td>①昇任・昇格規程の見直し</td><td>ｱ) 未着手</td><td>×</td></tr>
<tr><td>契約職員休日希望制の導入</td><td>①条件、メリット、デメリットの検討</td><td>ｱ) 未着手</td><td>×</td></tr>
<tr><td>各事業所における適正な役職者数の配置</td><td>①役職者数配置案の検討</td><td>ｱ) 未着手</td><td>×</td></tr>
<tr><td>業務の標準化</td><td>①事務職員業務マニュアルの策定</td><td>ｱ) 未着手</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">人材育成・確保・定着（学習と成長の視点）</td><td>採用戦略による採用活動の実行</td><td>①採用戦略の立案
②採用活動の実施
③インターンシップの実施</td><td>①
ｱ) 経営諮問委員会において採用要件緩和、高卒採用拡大、新たな制度の導入などについて検討・立案
②
ｱ) 大学訪問実施　17校　述べ22回
ｲ) 各種採用イベントへの参加　10件
③
ｱ) 受け入れ　4人　述べ日数　16日
ｲ))パンフレット作成</td><td>○</td></tr>
<tr><td>研修による人材育成の強化</td><td>①育成プランの検討と策定
②実習担当者を対象とした研修の実施</td><td>①
ｱ) 年間計画に基づき階層別研修実施
ｲ) 育成プラン策定については未着手
②
ｱ) 未着手</td><td>△</td></tr>
<tr><td>女性管理職の育成</td><td>①研修への派遣と様々なロールモデルの提示</td><td>ｱ) 兵庫県立男女共同参画センター、女性活躍推進センター、ひょうご仕事と生活センターなど関係機関と打ち合わせは行ったが具体的な取り組みには至らず</td><td>△</td></tr>
</table>

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
	子育て・介護世代応援プランの策定	①役職者を中心とした検討委員会の発足	ｱ) ひょうご仕事と生活センターと打ち合わせは行ったが具体的な取り組みには至らず	△
	早期（入職後3年以内）離職防止のための対策実施	①現状の認識と課題の共有 （法人全体と各配属先） ②メンターのサポート	① ｱ）2020年度～2022年度の入職者の離職状況について調査。登用を除く新採用職員24名中6名が離職。 ② ｱ）未着手	△

広報委員会

社会福祉法人の責務である「地域公益活動」はしっかりと定着し、各地域で「ほっとかへんネット」(社会福祉法人連絡協議会)が発足されどの施設もいずれかに所属しており、様々な活動を行っています。本来業務以外としての負担はありますが、分野の異なる他法人との事業間の交流や情報収集ができ、これまでになかった連携体制が取れるなどの利点も多くあります。今後も地域の方に社会福祉法人の役割を知っていただく活動が広がるよう法人として支援を継続します。新年早々に能登半島が大きな震災被害に見舞われ、職員派遣の要請があり職員 1 名が現地支援に赴きました。法人内での但馬・神戸間の相互支援及び法人全体の事業継続についての体制構築が未着手ですが、早々に取り組む課題と認識しています。

神戸聖隷オアシス「Tunagari」の更なる機能拡大として「子どもの居場所・学習支援と食事支援」を計画しており、2023 年度は開催場所の周知のために 3 月に「プレイベント」を行い、次年度の開催予定日のお知らせを配布しました。まずは夏休みなどの長期休暇中に実施する予定で、近隣の学生ボランティアにも協力いただきます。地域交流の場としての一歩が踏み出せました。

法人広報誌として「職員報」12 号、13 号及び「洗足」32 号、33 号を発行しました。また法人ホームページのリニューアルに取り組み次年度には新たなホームページとなります。

1.推進状況（広報委員会）

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
地域と共に歩む法人へ (地域公益の視点)	地域で活躍する施設人材の送り出し	①施設毎の行動機会の調査と活動計画策定	ｱ) 各施設の地域での活動について調査を実施し共有したが、新たな活動計画の策定には至らず	○
	Tunagari 、神戸聖隷総合相談センターの機能発揮	①両事業の設置計画に揚げた機能を全面的に実施	ｱ) Tunagari を「子どもの居場所・学習支援、食事支援」として活用するために 2024 年度からの計画を策定。周知のために 「プレイベント」を実施（3 月）	◎
	ほっとかへんネット・自立支援協議会法人連携リード	①協力体制の確立（参加継続と役員・実行部員就任）	ｱ) 各施設で地域のほっとかへんネットに加盟し役割を担っている事を確認。積極的な役員就任とはならず	△
	自然災害時等の対外協力活動の展開・各地区ほっとかへんネットへの協力	①各地域のほっとかへんネット協力体制案組立（DWAT 協力体制確立）	ｱ) 法人単位としての自然災害時の対外協力体制の構築は未着手	×
一人も残さない支援 (地域公益の視点)	法人内多種多様な分野が集結し、地域住民の派生的な支援要請に応じる	①法人内地域課題検討会の実施による課題の共有と協議	ｱ) 未着手	×
	課題を抱える地域住民の自立と社会参加支援受入れ	①依頼事業の受入フロー整備	ｱ) 予期せずして妊産婦となった方への支援機関へ就労機会の提案を行ったが実施には至らず。具体的なフロー整備は未着手	△

３．主な式典

（1）辞令交付式

2023 年 4 月 3 日（月）、2020 年度以来新型コロナウイルス感染症感染状況を踏まえてオンラインにて開催してきた辞令交付式を集合式にてシーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催し、新採用職員 20 名（うち登用者 9 名）、昇任者 24 名、異動者 3 名（課長 3 名）に辞令を交付しました。開会礼拝では、神戸愛生伝道所竹内富久恵牧師からメッセージをいただきました。

（2）創業 48 年記念式典

2023 年 6 月 23 日（金）辞令交付式と同様にシーサイドホテル舞子ビラ神戸にて集合式で開催しました。開会にあたって 2022 年 4 月 2 日～2023 年 4 月 1 日の間にご逝去された 54 名のご利用者を覚え、永眠者記念礼拝をもち、多聞福音教会吉川潤牧師からメッセージをいただきました。その後、水野理事長から永年勤続者に表彰状と記念品が授与されました。対象者は勤続 10 年表彰者 16 名、20 年表彰者 10 名、30 年表彰者 3 名、勤続 40 年表彰者 2 名です。また、記念として須磨区社会福祉協議会理事長の小池弘三須磨寺貫主から講話をいただきました。

４．主要会議

（1）評議員選任・解任委員会（2023 年 4 月 18 日開催）

上杉徹氏（社会福祉法人神戸真生塾理事長）、長井慎吾氏（菱神テクニカ㈱常務取締役、神戸市手をつなぐ育成会理事）が評議員に選任されました。

（2）評議員会

ｱ）第 135 回評議員会（2023 年 6 月 17 日開催）

①議長選任の件、② 議事録署名人選任の件、③次期役員の選任の件、④役員及び評議員の報酬等に関する規程別表の改定の件、報告①2022 年度事業報告の件、報告②2022 年度計算関係書類及び財産目録の報告の件、報告③2022 年度計算関係書類に係る独立監査法人の監査報告の件、報告④2022 年度事業報告等にかかる監事監査結果の承認の件、報告⑤2022 年度期中監事監査の記録の件、報告⑥2023 年度会計監査人による監査計画等の件、報告⑦2023 年度役員賠償責任保険加入の件

（3）理事会

ｱ）第 230 回理事会（2023 年 4 月 1 日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③業務執行理事（常務理事）選定の件、④役職嘱託職員年俸増額の件、⑤役職嘱託職員目標達成度評価結果の期末賞与との連動の件、⑥グループホームたいのはた東指導監査改善報告書の提出の件

ｲ）第 231 回理事会（2023 年 6 月 1 日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③定時評議員会に報告する 2022 年度事業報告（案）の承認の件、④定時評議員会に報告する 2022 年度計算関係書類及び財産目録の承認の件、⑤定時評議員会に報告する 2022 年度事業報告及び計算関係書類に係る監事監

査結果の承認の件、⑥定時評議員会で承認を求める 2023 年度会計監査人選任と監事同意の件、⑦定時評議員会で承認を求める次期役員の選出及び次期監事選任に関する監事同意の件、⑧役員及び評議員の報酬等に関する規程別表の改定の件、⑨第 135 回定時評議員会の招集事項の決定の件、⑩8 月に 60 歳に到達する施設長の嘱託施設長契約締結の件、⑪グループホームアリエッタ北須磨事業運営にかかる改善報告の件

ｳ) 第 232 回理事会（2023 年 6 月 17 日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③理事長選定の件、④業務執行理事選定の件、⑤元法人職員からの損害賠償請求の件

ｴ) 第 233 回理事会（2023 年 9 月 14 日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③エスポワールこじか指定管理更新の件、④職員紹介制度規程創設の件、⑤評議員選任・解任委員会運営細則改定の件、⑥1,000 万円を超える寄付金受納の件

ｵ) 第 234 回理事会（2023 年 11 月 16 日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③育児・介護休業規程及び嘱託職員・臨時雇用者・パートタイマーの各就業規則の一部改定の件、④神戸光生園社会福祉施設等施設整備費国庫補助金申請の件、⑤障害福祉サービス事業運営に係る指導監査改善報告書提出の件、⑥神戸明生園屋内カビ除去工事実施の件、報告①2023 年度上半期事業報告、報告②2023 年度中間決算報告、報告③係争事案の件

ｶ) 第 235 回理事会（2024 年 1 月 20 日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③神戸光生園社会福祉等施設整備費国庫補助金申請の件、④就業規則一部改定の件、⑤正職員給与規程・嘱託職員給与規程一部改定の件、⑥電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程制定の件、⑦2023 年度資金運用の件、報告①2023 年度期中監事監査報告、報告②特別養護老人ホーム平生園運営指導結果について

ｷ) 第 236 回理事会（2024 年 3 月 14 日）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2023 年度第 2 次補正予算案の件、④2024 年度事業計画案の件、⑤2024 年度予算案の件、⑥2024 年度施設長人事案の件、⑦就業規則一部改定の件、⑧正規職員給与規程・嘱託職員給与規程・契約職員就業規則・パートタイマー就業規則一部改定の件、⑨2024 年度資金運用の件、⑩役員賠償責任保険加入の件、⑪障害福祉サービス事業運営に係る指導監査改善報告書提出の件、報告①理事業務執行状況報告、報告②指定障害福祉サービス事業者等に対する実地指導結果報告、報告③障害者相談支援事業に係る消費税課税取扱い報告、報告④係争事案報告の件、報告⑤エスポワールこじか指定管理決定について

(4) 経営諮問委員会

ｱ) 第 1 回（2023 年 4 月 5 日開催）

①2023 年度経営諮問員会の持ち方について、②人材確保と採用条件について

ｲ) 第 2 回（2023 年 5 月 10 日開催）

①人材確保について（継続）、②全体施設長会の持ち方について、③新任施設長・事務長・課長研修について、④「R5 年階層別女性社員等研修」について、⑤海外（タイ）研

修について、⑥5類移行後の新型コロナウイルス感染症に関する取扱いについて
ｳ) 第3回（2023年6月7日開催）
①職員の名称について、②オンコール対応業者（ドクターメイト）の導入について、③課長研修について
ｴ) 第4回（2023年7月5日開催）
①「オンコール対応」に対する法人の基本方針について、②「オンコール対応」手当額の検討について、③職員紹介の協力に対する報奨の支給に関する規程（案）について
ｵ) 第5回（2023年8月2日開催）
①人事評価制度の再構築について、②ホームページリニューアル検討委員会メンバー推薦のお願い、③2023年度課長研修プログラムの検討について、④2023年度最低賃金引上げ目安額について（共有）
ｶ) 第6回（2023年9月6日開催）
①神戸聖隷福祉事業団創業50周年記念事業実行委員会の発足について、②人事評価制度の再構築について、③2023年度課長研修プログラムの検討について、④ホームページリニューアル検討委員会メンバーの推薦について、⑤理念講演会の開催について、⑥「令和6年度に向けた障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る基本指針の見直し」情報共有
ｷ) 第7回（2023年10月4日開催）
①オンコール対応手当額について、②「臨時職員」名称変更について、③正規職員の随時採用に向けて、④正規職員採用条件（運転免許保持）の緩和に向けて
ｸ) 第8回（2024年11月1日開催）
①正規職員の随時採用に向けて、②正規職員採用条件（運転免許保持）の緩和に向けて、③経営諮問委員会半年の振返りについて、④人事考課について
ｹ) 第9回（2023年12月6日開催）
①正規職員随時採用制度について、②正規職員採用条件（運転免許保持）の緩和に向けて、③課長研修について、④障害者への合理的配慮の義務化について、⑤人事評価Navigatorデモについて
ｺ) 第10回（2024年1月10日）
①「能登半島地震」支援について、②正規職員随時採用制度について、③中卒者の正規職員登用について、④マイナ保険証の管理について
ｻ) 第11回（2024年2月7日）
①成年後見制度における法人の役割等について、②オンコール対応の状況について、③2024年度年間聖句案について、④介護職員処遇改善支援補助金の活用について、⑤2024年度SMBCオンラインセミナーの継続について、⑥創業49周年記念式典の会場等について、⑦パート職員から臨時職員に契約変更した場合の賞与の取り扱いについて、⑧「能登半島地震」支援について、⑨NDソフトウェア_取材依頼への対応について
ｼ) 第12回（2024年3月6日）
①能登半島第1次緊急募金の募金先について、②次世代育成支援対策推進法と女性活躍推進法に基づく次期一般雇用主行動計画の策定について、③令和5年度福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金、ベースアップ加算への対応について、④パート職員から臨時職員に契約変更した場合の賞与の取り扱いについて、⑤2024年度法人内部研修計画案年

間予定について、⑥2024 年度人事考課について

(5) 第 5 期中期計画実現会議

ｱ) 第 1 回実現会議（2023 年 6 月 28 日開催）

各拠点WEB会議方式にて、理事、施設長、課長の参加にて開催。計画推進にあたっての苦労、困難性をグループに分かれて共有し、解消へのヒントを探りました。

ｲ) 第 2 回（通算第 2 回）実現会議（2023 年 9 月 27 日開催）

各拠点 WEB 会議方式で、理事、施設長、課長の参加にて開催。6/28 のグループ検討を経て変更した計画や進捗状況について共有しました。

ｳ) 第 3 回（通算第 3 回）実現会議（2024 年 3 月 27 日開催）

各拠点WEB会議方式で、理事、施設長、課長の参加にて開催。特に進捗が滞っている計画について、その原因と改善への取組を共有しました。

5．新型コロナウイルス感染症への対応

(1) 5 類感染症に移行後の感染防止に対する方針の発出

新型コロナウイスル感染症が 2023 年 5 月 8 日付けで感染症法上の 5 類感染症に移行されることをうけ、2023 年 5 月 2 日付で『「新型コロナウイルス感染症」の感染症法上の位置づけの変更を受けての法人の感染防止に対する方針について』を発出し、ご利用者、職員が感染した場合の療養期間ならびに通所再利用と職場復帰時の対応方針を発出しました。

(2) 新型コロナウイルス感染症連絡会議への移行

2020 年 3 月に設置した「新型コロナウイルス感染症対策本部」を 2023 年 5 月 7 日付で解散し、新たに「新型コロナウイルス感染症連絡会議」を同年 5 月 8 日付けで設置しました。2024 年 3 月末までに 6 回の会議を開催し、情報共有と法人対応について引き続き検討しました。

(3)『新型コロナウイルス感染症感染防止に対する方針について』の発出

5 類感染症への移行後、従来の感染症対策を一律に講じるのではなく、活動場面に応じた対策がより求められていることを踏まえ、2023 年 7 月 19 日付で「新型コロナウイルス感染症感染防止に対する方針について」を発出し、厚生労働省が示す「発症日（無症状の場合は検体採取日）を 0 日目として 5 日間、かつ発熱や喉の痛みなどの症状が軽快し 1 日が経過するまで自宅待機」の遵守の確認に加え、ウイルスを排出しているといわれる発症後 7 日から 10 日間の対応については、各施設・事業所それぞれの状況に応じた判断に委ねることとしました。また、職員が感染した場合には、安心して休養できるよう就業規則上の特別休暇の取扱いについて改めて周知をしました。

(4)『夏休み・お盆など移動や会食が多くなる時期の新型コロナウイルス感染症感染防止のお願い』の発出

2023 年 7 月 24 日～30 日の 1 週間に兵庫県内の医療機関 199 か所から報告があった感染者は 2,795 人で 1 か所平均 14.05 人と 9 週連続増となり、第 8 波のピーク（2022 年 12 月 19 日～25 日）の 14.19 人に匹敵する感染状況となったこと、そして夏休みやお盆で移動や会食が多くなる時期を迎えることを踏まえ、感染リスクが高まる 5 つの場面の確認と基本的な感染防止策徹底のお願いを 2023 年 8 月 10 付で発出しました。

(5) 感染状況について

2023 年 6 月から 7 月にかけて、真生園でご利用者 24 名、職員 18 名、恵生園でご利用者 19 名、職員 4 名が感染するクラスターが発生しました。いずれもゾーニング対策等の感染防止に向けた取組みの徹底により比較的早期に収束し、重症化されたご利用者もおられませんでした。

(6)「高齢者福祉施設等における新型コロナウイルス感染症対応に関する研修動画」の視聴について

11 月 8 日付けで神戸大学及び兵庫県医師会の協力により作成された感染症対策にかかる研修動画が兵庫県から配信されたことをうけ、連絡会議での視聴および各施設へ案内を行いました。

６．出来した事案

2023 年 9 月に職員 1 名のマイナンバー情報漏洩の恐れがある事案が発覚したため、当該職員に謝罪し、経緯・原因・改善取組み・今後の対応について説明を行ないました。

７．地域貢献・交流

(1) 各施設の事業計画「地域貢献の視点」の実施状況

（但馬地区）

・但馬地区共通

- ほっとかへんネット朝来設立総会（9 月）
- サイエンスキャンプ（5 月・8 月・2 月）但馬総合事務所
- 神戸聖隷グラウンドゴルフ大会（6 月）
- さくら川、真生園渡り廊下の川清掃等（6 月）
- 福祉体験学習 山口小学校 4 年生　視覚障がいの説明・アイマスク体験（7 月）
- 同　和田山高等学校「生活と福祉」2 年次「車椅子体験」（9 月）
- 同　朝来中学校 1 年「視覚障害体験」（10 月）
- 同　中川小学校 3，4 年「車椅子体験」（10 月）
- 同　和田山中学校　（11 月）
- 同　山口小学校「車椅子体験」（11 月）
- 同　生野中学校「視覚障害者体験・点字学習」（12 月）
- 同　山口小学校「視覚障害者体験」（2 月）
- 「感謝祭」を地域住民参加にて開催　（11 月）
- 普通救命救急講習会・AED 講習、心肺蘇生法（南但消防本部救急係）（2 月）

・恵生園
- あったかプラザ：市民・利用者作品展示（4～9 月）
- あったかプラザ：恵生園事業紹介イベントと相談会企画（9 月）
  イベント実施（ゲーム・体操・事業紹介）（11 月）
- 能登震災、災害ボランティア派遣（主任 1 名）（2 月）
- 盲ろう者の集いへの参加（3 月）

・真生園
- 入浴設備貸出試行（5 月・6 月）
- 衣類雑貨の移動販売利用(5 月）
- 壁面作品の施設外掲示（4 月）
- 外部作品展への出展（2 名）
- フェイスブック更新（7 月・9 月）
- 「がっせぇアート展」開催出展（10～11 月）

・和生園
- 地域清掃活動実施（4～3 月　月 2 回）
- 朝来市指定ゴミ袋販売許可を申請、窓口販売を開始（7 月）
- 農産物窓口販売の実施
- 地域の資源ごみ回収協力（車両と職員協力）（5 月）
- 地区行事準備委員会に参画(9 月）
- 朝来市民一斉クリーン作戦に合わせて園周辺の除草作業実施（5 月）

・平生園
- ホームページ内容確認と更新の検討(6 月・7 月）
- 機関誌「ひなたぼっこ」作成編集実施(8・9 月）
- 日高高等学校 1 年実習受入（デイサービス）（10 月）
- ほっとかへんネットあさご代表者会議参加（3 月）

・さくらの苑
- さくらカフェ実施（大植病院より出前講座実施）（9 月）
- さくらの苑と地域合同の避難訓練協力を依頼（5 月）
- サポート施設の説明会を実施（7 月）
- 福祉村の 7 つの施設と南但消防本部合同でさくらの苑にて福祉村合同避難訓練を実施（9 月）
- 上町ミニデイ参加、（4,6,7,12,1,2,月）
- ミニデイバス旅行に職員 2 名参加(5 月）
- 上町ミニデイをさくらの苑で開催（9 月）
- 日高高等学校 1 年実習受入（特養）（11 月）

・わらしべ
- 日高高等学校実習受け入れ 1 名（6 月）
- 認知症サポーター養成講座（秋葉台）へ職員派遣（7 月）
- 認知症キャラバンメイト養成講座 1 名終了（7 月）
- キャラバンメイト連絡会参加・3 名（9,2 月）

・東河小学校５年生キッズサポーター養成講座に職員４名派遣（２月）
・北但広域療育センター
・新温泉町の放課後デイサービスと情報交換会の準備（10 月開催予定）
・児童発達支援放課後デイサービスアンケートの実施（9 月）と集計完了（12 月）
・地域に向けた研修会開催（12 月）に向け委員会を中心に準備(5・6・8・9 月)
・「風まつり」開催　51 組参加（10 月）
・エスポワールこじか
・依頼に応じて園校訪問･療育参観の実施・13 件
・養父市･朝来市･香美町自立支援協議会・実務者会議に 42 回参加
・子育て支援研修受入（11,12 月）
・2 市 1 町実務者会議参加（3 月）

（神戸地区）
・神戸聖生園
・地域「ことぶき喫茶」への参加、３B 体操・太極拳活動再開（4～3 月）
・友が丘地区清掃を毎週 1 回実施(4･5･6･8･9・10・11 月)
・竜が台ゴミステーション清掃作業を毎週月曜日に実施（4～3 月）
・神戸市バスの協力で実車を使用した「乗車マナー講習会」を実施（6 月）
・HUG＋展へ 25 点の作品応募（6～9 月）
・「おいでやすカーニバル」を地域に開放して開催（友が丘 4 施設共同・9 月）
・神戸愛生園
・おいでやすカーニバル委員会実施・開催（5～9 月）
・ボランティア再開について協議（9 月）
・啓明学院ボランティア再開（計 17 回／年）
・六甲学院ボランティア受入（4 回／年）
・フェイスブック・インスタグラム更新(4･5･6･7･8･9 月)
・Tunagari で「栄養の日」イベント実施
・機関誌「神愛 40 周年記念号」作成(9 月)、発行（3 月）
・地域イベント「こんにちはカーニバル」に利用者・職員各 2 名参加（3 月）
・きたすま障害者相談支援センター
・須磨区自立支援協議会の運営(全体会 5 月・運営委員会開催 5･8 月)
・就労支援部会　定例会開催(7・9・11・1・3 月)
・事業所見学会を企画・実施（9 月)、事業所交流会を実施（2 月)
・すまいんど部会　妙法寺川さくらまつり（4 月)、すまるしぇ開催（毎月)、コープ×すまるしぇ開催（毎月)・定例会（毎月)
・まなぼー部会　定例会開催(4・7・8 月)、須磨・長田・兵庫合同相談支援部会の開催（9 月)
・ともいき部会　定例会開催(4･6･8・10・12・3 月)
・親子部会　定例会(5･6 月)「すまっこナビ説明会」(7 月)「不器用さを持つ子どもへの理解と支援」(9 月) 講演会準備と実施

・相談支援部会　3区合同相談支援部会(9月)定例会(4・7・8・10・11・12・2月)
・発達の気になる子を持つ保護者向けｸﾞﾙｰﾌﾟﾋﾟｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ実施(5･6･7･9・3月)
・ほっとかへんネット須磨　全体会（5月），実務者会（9月)、実務者会研修チーム打ち合わせ出席(9月)
・神戸学院大学1名・神戸女子大学2名実習受入（10月）
・「すましあ」手づくり広場開催（11月）

・神戸聖隷総合相談センター
・「Tunagari～あつまり処」運営(4～3月、週3日)
・ほっとかへんネット須磨　全体会（5月），実務者会（9月)、実務者会研修チーム打ち合わせ出席(9～2月)
・北須磨団地自治会地域支え愛学習会に参加（5月）
・栄養の日イベントを神戸愛生園栄養士と協働で開催（8月）
・子ども学習支援の居場所活用に向けて須磨区社協、北須磨団地自治会を訪問（7・9月）
・「Tunagari～あつまり処」子どもの居場所プレイベント開催（3月）

・神戸友生園
・神戸総合医療福祉専門学校前期実習受け入れ（5～７月）
・「すまるしぇ」参加(4月)、「神戸まつり」「須磨音楽の森」参加（5月）「友高祭」出店（6月）
・福祉体験学習（ワークキャンプ）各1名受け入れ（7月・8月）
・民生委員10名見学会実施（9月）
・おいでやすカーニバル実行委員会出席・開催(5･6･7･8･9月)
・トライやるウイーク受入・太山寺中学校、友が丘中学校3名（11月）

・神戸光生園
・西舞子小学校へ交流会の計画について趣旨説明（7月）
・舞子中学校・西舞子小学校の校門から歩道までの清掃実施（8月）
・ボランティア再募集の為垂水区ボランティアセンターを訪問（8月）
・ひかりマルシェで地域交流実施(4･5･6･7･8･9月)、サマーフェスタ実施（7月）
・NPO法人birth神戸主催イベントへ和太鼓出演（9月）
・「防災イベント」開催（神戸市消防音楽隊・AED講習・神戸学院防災女子)（11月）
・ほっとかへんねっと垂水「ベルデ名谷祭り」参加（11月）

・神戸明生園
・シルバーカレッジからのボランティア受け入れを検討（6月）
・神戸市医師会　北区医療介護サポートセンターの取り組みに参加（1・2月）

・ワークセンターひょうご
(神戸市障害者就労推進センター・神戸障害者就業･生活支援センター
・障害者雇用就業･定着拡大推進事業)
・見学受け入れ　神戸市障害福祉課（6月)、JICA・スリランカ政府団（6月）
神戸マツダ・兵庫区役所実習生・エコール神戸・参議院厚生労働委員会（8月）
兵庫大学社福実習生、須磨区自立支援協議会（9月）

・地域清掃活動実施(4 月・6 月・10 月)
・須磨海岸ビーチクリーン活動へ参加（5 月）
・令和 5 年度障害者職業生活相談員資格認定講習（講師派遣）(9 月)
・ジョブコーチ養成研修（講師派遣）(9 月)
・トライやるウイーク 1 名受入（11 月）
・須磨ノ浦学園実習 2 名受入（1 月）

・ひょうご障害者相談支援センター
（神戸市基幹相談支援センター・発達障害者中部相談窓口）
・荒田地区防災訓練に参加（5 月）
・見守り支援事業・台風接近に伴い、16 名の対象者に安否確認、注意喚起（8 月）
・見守り支援員連絡会開催（4・6・8 月）
・兵庫区保健福祉センター地域包括支援センター連絡会（9 月）
・ほっとかへんネット兵庫総会は台風により書面（6 月）実務者会施設見学（7 月）
・同・相談・災害プロジェクトにそれぞれ参加（共に 8 月・9 月）
・身体知的相談員連絡会の開催（4 月・8 月）
・自立支援協議会の運営、総会（5 月）運営委員会（4・6・8 月）
・発達障害者の理解と啓発、研修会・アンケート調査（8・9 月）
・荒田地区防災訓練・ふれあいワークショップ開催（10 月）
・ほっとかへんネット兵庫相談プロジェクト（10・11・2 月）・出張相談会（10 月）
・ほっとかへんネット兵庫災害プロジェクト（11 月）同災害研修（12 月）
・ほっとかへんネット兵庫炊き出し、相談イベント（3 月）

・ひょうごデイサービスセンター
・キャナルタウンイースト自治会役員会に参加（4・5・7 月）
・自治会役員から現状の課題をヒアリング（6 月）
・ゴミ置き場の段ボール、古紙の整理について協議（7 月）
・自治会役員より整理方法のレクチャー（8 月）
・自治会段ボール庫の整理（10 月～3 月）
・トライやるウイーク受入・須佐野中学校、吉田中学校、兵庫中学校 6 名（11 月）

・自立センターひょうご
・よつば寄席第 1 回を実施、42 名の地域住民が参加（7 月）
・地域清掃活動実施（4・5・6・9・10・11・12 月）
・神戸女子大学 2 名実習受入（10 月）
・トライやるウイーク受入・須佐野中学校 2 名（11 月）
・よつば寄席第 2 回を実施、37 名の地域住民が参加（12 月）
・神戸マツダの花壇の植え替え（12 月）

・ワークセンターわかまつ
・大正筋商店街企画　夜市参加（7 月）
・須磨区自立支援協議会総会（5 月）長田区自立支援協議会総会（6 月）
・ほっとかへんネット長田総会（5 月）
・認知症カフェの実施(4～1 月)

・長田区防災部会出席（6・9月）
・新長田北地区防災訓練参加（10月）
・ほっとかへんネット長田広報活動参加（10・11月）
・「にげよう！プロジェクト避難訓練」利用者・職員参加（11月）

・せいれいやさかだい
・北須磨団地自治会地域清掃日に友が丘事業所周辺･友が丘敷地清掃実施(6月)
・北須磨団地自治会「すくすく・さくら・寿喫茶」に利用者･職員で参加(4～2月)
・北須磨団地自治会「ふるさと祭り」に職員4名参加協力（8月）
・バス停留所等の地域清掃を友が丘事業所が実施（週1回)
・北須磨団地自治会「安心安全コミュニティ像の集い」施設長代表参加(8月)
・トライやるウイークで友が丘中学校1名受入（11月）

8．広報他

（1）機関誌「洗足」発行

第32号を2023年9月1日に発行

第33号を2024年2月1日に発行

（2）Facebook と Instagram による各施設と各部会の情報発信

「私の推し」「私の癒し」など職員のオフの姿を中心に、2024年3月末までに両SNSで合わせて176回の投稿を実施。登録者数575人。

（3）職員報「KOBE SEIREI」発行

ｱ)vol.12（2023年8月1日）

①理事長からのエール、②特集「医務の人々～現場を支える優しく、心強い力～」、③第5期中期計画スタートー退任理事・新任理事紹介ー④職員のページ「新入職員紹介」・牧師先生からのメッセージ

ｲ)vol.13（2024年2月1日）

①理事長からのエール、②特集「命を支える“おいしい”力～「厨房」の人々～」③第5期中期計画スタートー各委員会より報告ー、④職員のページ「海外研修タイ再開！研修報告速報」「特定技能外国人・ネパールからようこそ」・牧師先生からのメッセージ

9．その他

（1）神戸愛生園建替プロジェクト委員会の発足

2024年に開設42年を迎える神戸愛生園の建替プロジェクト委員会を発足させ、計6回の委員会を開催しました。住環境の充実、知的障害者、精神障害者の受入れ、リハビリテーションの充実を基本構想におき、今日的な入所施設の役割も見据えつつ検討を重ねました。

（2）創業50周年記念事業実行委員会の発足

来る創業50周年（2025年6月22日）に向け、「感謝と希望」をテーマに記念事業を執

り行うために委員会を発足させました。今年度は、社会福祉法人イエス団賀川記念館館長・生活協同組合コープこうべ理事長の馬場一郎さんを迎え、「ミッションからアクションへ」とのテーマで理念講演会を開催しました。

(3) 令和6年能登半島地震への支援活動

兵庫県からの要請を受け、2024年2月2日から2月9日までの8日間、石川県金沢市の1.5次避難所における夜間の介護等支援のために職員を派遣しました。また緊急募金を行い、珠洲市に寄付させていただきました。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　神戸聖隷歴史資料館
管理者　久木田　憲彦

神戸聖隷歴史資料館の基本方針

1. 収集・整理・保存を通して、創始の思いを学び、そして後世に伝えます。
2. 調査研究を通して法人の特色を発信します。
3. 歴史資料の展示を職員研修に積極的に活用して、職員のモチベーションを高めます。
4. 社会福祉事業の不透明な将来に向けた逞しい展開を考える場にします。

第 5 期中期計画のビジョン

私たちは 今日までの歩みに誇りをもって 地域社会・利用者・職員のしあわせを 次の半世紀につないでいきます

2023 年度の事業報告について

2023 年度に入り、新型コロナウイルス感染症は 2 類相当から 5 類となりましたが、各施設では数多くの感染者が確認されおり、加えて資料館玄関前の電柱地中化工事の影響を受け、広報活動や作品展示に支障をきたしました。

ギャラリーの利用促進については、新たに朝来市内で制作活動をされている書道の展示に加え、書道教室も開催されました。また、市内の小学生の繊細な折り紙の展示も行われ、来館者の増加につながりました。しかし、当初計画していた各施設の利用者作品展については、コロナ感染の影響もあり真生園・わらしべの展示しか実施することができませんでした。

学習と成長の視点では、毎年のさくらの苑新規採用職員の見学に加え、神戸明生園職員の見学があり顧問の講話も行っていただき、法人の歴史についての学びの場を提供しました。

地域公益の視点では、8 月の台風 7 号の襲来時や 9 月の地区一斉避難訓練の際に指定緊急避難場所として提供しました。また、竹田城下町中サイエンスキャンプの開催については、会場提供とスタッフの協力を行い、地域の子供たちやご家族に歴史資料館の存在を認知していただく機会としました。

開設して 7 年経過しており、汚れの目立つフロアのクリーニングを実施し、館内の環境整備に努めるとともに、次年度、法人創業 50 周年を迎えるにあたり、展示スペースの改善についての検討を始めています。

1．推進状況

（1）理念の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
歴史資料館の広報活動の充実	あったかプラザとの連携	①両施設にパンフレットの設置、展示案内を掲示	ｱ）両施設に展示関連の広告を掲示	○
		①両施設の担当者が情報を共有 ②出展者に互いの施設を紹介し、両施設で同様の展示を実施	① ｱ）互いの施設の展示情報を共有 ② ｱ）未実施	△
	ギャラリーの利用促進	①地域住民・関係者への広報活動 ②施設利用者の作品展を開催し、施設利用者の活動を発信	① ｱ）作品展示の広告を作成 地域住民へ配布 ｲ）己書悦美道場展示（8月） ｳ）小学生の折り紙展示（2～3月） ② ｱ）真生園利用者作品展（4・3月） ｲ）わらしべ利用者作品展 （11～1月）	○
	インターネットを活用した広報活動	①ホームページにて最新情報を発信	ｱ）ギャラリースペース作品展示募集案内、作品展示案内を発信	△
工事関係書類・広報誌の管理	工事関係書類・広報誌の管理	①工事関係書類（契約書等）、広報誌を適切に保存管理する	ｱ）書庫整理実施 ｲ）各施設広報誌を収集・保管 ｳ）展示資料の一部入替実施	○

（2）人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	上期実施状況	達成度
学習機会の提供	法人の歴史勉強会等の開催	①歴史勉強会・職員研修の開催の場を提供	ｱ）さくらの苑職員見学（4月） ｲ）神戸明生園職員見学（9月） ｳ）キリスト教福祉基礎講座 （9・10・11月）	○

(3) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域社会との連携	地域防災への協力	①「指定緊急避難場所」として地域防災に協力	ｱ) 台風7号により竹田中町区指定緊急避難場所設置（8月） ｲ) 朝来市防災訓練（9月）	○
	「但馬よろず福祉相談所」の利用促進	①相談体制（事業所間連携・相談バックアップ等）の構築 ②成年後見制度活用推進委員会との連携	① ｱ) 相談実績なし ② ｱ) 未実施	×
	場所の開放	①地域住民の皆様の集会・イベント等会場として場所を開放	ｱ) 竹田町中サイエンスキャンプ実施 5/20：21名、/21：15名参加 8/19：23名、/20：18名参加 11/11：23名、/12：26名参加 2/17：24名、/18：27名参加 （来館児童･保護者数:延177名） ｲ) 己書体験会実施（8月） ｳ) 小学生の折り紙展示へ家族・知人多数見学（3月）	○

２．出来した事案

(1) 特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　平生園
施設長　松本　雄二

平生園の基本方針

1. ご利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. ご利用者を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. ご利用者にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（活きる）施設を目指します。

第 5 期中期計画のビジョン

平生園に関わる全ての人に、ゆとりある豊かな暮らしの提供を目指します

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画の初年度は、特に 3 つの重点実施項目に取組みました。

「人材育成・確保」では、4 月採用の新任職員 1 名は全ての変則勤務に、昨年 2 月採用した特定技能外国人の 2 名は深夜勤務を除くすべての勤務に就くまでに成長し一連の業務を熟すことができています。今後はより丁寧に、ご利用者個々を大切にする支援にも繋げていきます。

「ICT 機器を活用推進しサービスの質の維持・向上を図る」は、眠りスキャン 3 台の追加導入に加えインカム導入の検討や下半期に立て続けに発生した転倒事故を受け、見守りセンサー・カメラなど業者による説明会を実施し、安心安全な支援と業務効率化等のため検討を行いました。インカムは機器の利便性が園での使用に合致しないなどいずれも今年度の導入は見送りましたが、引き続き ICT 機器の活用について考え進めていきます。

「看取り介護の充実」は、家族アンケートの共有とデスカンファレンスを実施し更なる支援の充実に努めました。ターミナル学習会や看取り介助の手順書、指針の更新等も行っています。また、真生園診療所医師不在の体制として近隣の医療センターの協力のもと切れ目のない医療の提供と、真生園診療所医師・平生園看護師の体制変更に伴い、夜間緊急時医務体制変更の可視化を図り、ご家族の安心と職員が不安なく支援できる体制に努めました。

平生園では、今年度もご利用者の新型コロナウイルス感染症の罹患者は無く“持ち込まない”という徹底した対応ができました。次年度義務化される業務継続計画の作成も完了し、次年度は訓練に活用し必要な見直し等を行い実用性のあるものに更新いたします。

設備面では、空調機・給湯器の修繕、下半期はエレベーターの修繕も実施しました。

1. 事業概要

開設年月日：1991 年 11 月 11 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
特別養護老人ホーム　（第 1 種）	介護老人福祉施設	60 名	要介護高齢者
老人短期入所事業　　（第 2 種）	短期入所生活介護	空床型	要介護・要支援 高齢者

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
目標管理制度で職能向上を目指す	目標管理面談の実施	①毎月の面談による進捗確認と育成	ｱ）一次考課者、課長、施設長による進捗確認と助言などの実施（5～11 月） ｲ）フィードバック面接を実施（2 月）	○
エルダー制度の再構築	指導方法の再確認とエルダー制度の運用	①指導方法の再確認 ②学習会の実施・育成	① ｱ）指導方法の確認とニーズ調査（4.5 月） ｲ）エルダー受入手順、使用書式説明（11 月） ② ｱ）学習会実施：虐待防止（4.9 月）身体拘束（6.12 月）、認知症（7 月）、事故防止・緊急時対応（8 月）、ターミナル（10 月）、感染症（11 月）	○
職員（外国人労働者）の確保・育成	計画的な人材確保と育成	①指導計画の作成と進捗管理 ②職員の確保	① ｱ）日勤業務進捗状況確認表・状況報告書・指導確認書・実施記録などを活用し進捗確認を実施（4～9 月） ｲ）担当利用者情報収集シート作成（4 月） ｳ）真生園との情報共有実施（5.8 月） ｴ）認知症基礎研修受講（7 月） ｵ）個別相談実施(1 月、2 月） ｶ）普通救急救命講座受講（2 月） ② ｱ）ハローワーク和田山にて就職面接相談会実施（7 月） ｲ）新規学卒求人説明会の参加・学校訪問など実施（5.7 月）	○
職員のスキルの向上	短時間研修の導入検討(導入)・伝達研修	①短時間研修の検討、導入 ②伝達研修の実施 ③身体拘束、虐待防止への取り組み ④但馬長寿の郷 PT との連携・指導受講（4 回/年)	① ｱ）未実施 ② ｱ）介護技術向上のための伝達研修実施（6.8.10.11 月） ③ ｱ）身体拘束解除検討委員会（4.8.11.2 月） ｲ）虐待防止学習会実施（4.9 月） ｳ）身体拘束学習会実施（5.12 月） ｴ）身体拘束の一部解除（7 月：1 名） ｵ）身体拘束(4 本柵）開始（1 月：1 名） ｶ）身体拘束の全解除（8.2 月：各 1 名） ｷ）虐待不適切ケア判定基準表学習会開催（12 月） ④ ｱ）人材派遣事業受講（5.7.10.12 月）	○

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
医療専門職の確保・維持・強化	医務会議の開催	①医務会議の開催（4 回/年） ②施設情報の共有と課題の抽出	① ｱ）医務会議 2 回/年開催変更 未実施（さくらの苑デイサービス新型コロナウイルス感染・真生園　恵生園看護師不参加の為）（8.9 月） ② ｱ）真生園、さくらの苑、平生園夜間対応（看取り）会議実施（4 月） ｲ）竹田地区入所施設（真生園・恵生園・さくらの苑・平生園）に医療の体制（夜間対応）、施設状況などについて情報共有の実施（4.5.7.10.2 月） 夜間の医師来園時間の見直しによるマニュアル見直し（5.9 月）	△
業務の効率化と安全を重視したマニュアル作成・更新	マニュアルの見直し業務の無駄をなくす	①マニュアルの更新(1 回/年) ②安全対策の検討・実施	① ｱ）マニュアルの確認（4 月） マニュアルの見直し、更新（10.11.2 月） ② ｱ）職制会にて安全対策会議実施（5～3 月） ｲ）BCP（感染症）再確認（7 月）	○
広報活動の継続と積極的発信	広報誌、フェイスブック、ホームページの更新による魅力ある施設の情報の発信	①ホームページの更新と Facebook の投稿 ②広報誌発行（2 回/年）	① ｱ）Facebook 投稿（7 月：3 名　11 月：1 名　12 月：1 名　2 月：1 名） ｲ）ホームページの内容確認と訂正箇所の確認・一部更新（6.7.2 月） ② ｱ）広報誌「ひなたぼっこ」原案作成編集（8.9 月）10 月発行、3 月発行分は次年度 4 月発行。	△

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
ICT 機器の活用推進しサービスの質の維持、向上を図る	ICT 機器の活用と新たな機器の導入・検討（事故減少、職員の連携強化）	①ICT 機器の活用推進（設置方法のマニュアル作成と管理者の育成） ②新機器導入検討（インカム等）	① ｱ）センサーベッド、眠りスキャン使用手順書の作成（9 月） ｲ）眠りスキャン研修動画視聴（6 月） ② ｱ）インカム導入施設見学の連絡調整と実施（4.5 月） ｲ）デモンストレーションの実施（7 月） ｳ）導入アンケート実施・集計。今年度の導入は見送り決定（8～9 月） ｴ）見守りカメラ（Kizkia-Knight）のデモ機説明（2.3 月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
ICT機器の活用推進しサービスの質の維持、向上を図る	ICT機器の活用と新たな機器の導入・検討（事故減少、職員の連携強化）	③眠りスキャン3台追加 ④事故、ヒヤリの検証と情報共有	③ ｱ）眠りスキャン3台導入見積り依頼と導入（5.7月） ④ ｱ）事故・ヒヤリハットの検証と情報共有（毎月）	○
看取り介護の充実	手法の検証と強化の推進	①看取りの手順書の確認・デスカンファレンス等による検証の実施 ②看取り研修の実施（1回/年）	① ｱ）情報共有シートの見直し（6月） ｲ）夜間緊急時医務体制変更の可視化実施（7.9月） ｳ）看取りに関する指針の更新（10月） ｴ）看取り介護マニュアル更新（10月 ｵ）デスカンファレンスの実施（6.7.10.11.1.2月） ｶ）看取り開始時カンファレンス（3月：2名） ｷ）家族アンケート実施（9.2月：各1名） ｸ）家族アンケート開示（3月） ② ｱ）ターミナル学習会開催（10月）	◎
意向に沿ったサービスの提供	アセスメントによる個別支援の充実	①個別支援の実施	ｱ）オンリーワン支援の実施（5月：8名、6月：6名、7月：5名、8月：6名、9月：7名、10月：5名、11月：4名、12月：6名、1月：4名、2月：4名）	◎
接遇の向上	研修会等への参加と接遇チェックの実施	①接遇チェックの実施と改善 ②研修会へ参加（1回/年）	① ｱ）接遇チェックの実施と改善に向けた取り組み（5.6.7.8.9.10.1月） ｲ）接遇チェック表内容見直し（8.2.3月） ② ｱ）未実施	△

（4）財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
加算取得・維持	現加算の維持・新加算取得の為の体制・書類等の整備	①褥瘡マネジメント加算等の取得に向けて準備し取得 ②現加算の維持と確認	① ｱ）バーセルインデックス評価研修受講（4月：2名） ｲ）褥瘡マネジメント加算・口腔ケア維持加算の帳票設定実施（9月） ② ｱ）加算要件の確認（4～3月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
有資格者の増加	たん吸引等による研修・認知症基礎研修等への参加と実務者研修助成の活用と推進	①たん吸引資格取得1名 ②認知症基礎研修への参加（該当者）と実務者研修助成の活用と推進	① ｱ）未実施（喀痰吸引該当利用者無） ② ｱ）認知症基礎研修（4.7月：3名） ｲ）実務者研修助成による受講（7月～：2名）	○
経費削減への意識付け	経費削減への検討、取り組み（ペーパレス化の推進、水道光熱費の削減）	①緒経費削減内容の確定 ②毎月状況把握し伝達	① ｱ）削減内容確定（光熱水費：4月） ② ｱ）前年度比較し削減への意識づけと啓発実施（毎月）	○
業務委託費の再検討	現契約の再検討(食事)	①現契約の確認と他業者調査・実施に向けての調整	ｱ）未実施	×

（5）地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域資源として積極的に参画し施設の役割を果たす	地域活動（福祉教育・地域行事・困りごと対応等）への参加	①学校、地域等福祉教育・行事への参加 ②居宅、市との連携による地域活動への参加	① ｱ）神戸聖隷但馬地区「感謝祭」へ参加 ② ｱ）未実施	△
関係機関との連携強化	社会福祉法人（市内特養・朝来市社協等）と連携しほっとかへんネット参画	①ほっとかへんネット情報収集と立ち上げに参画	ｱ）但馬地区施設連絡会にて情報共有 ｲ）実務者ワーキング、代表者会議へ参加（11.1.2.3月） ｳ）活動未実施	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒滑落	切傷、表皮剥離	打撲捻挫	火傷	異食誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	4件	72件	27件	0件	0件	12件	12件	91件	218件	5件

※その他：皮下出血・義歯関係・無断外出・食事提供誤り・衣類色落ち・服薬忘れ・抜爪

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	滑落、転倒、転落	誤薬、誤忘薬	誤食、異食	無断外出	抜爪	その他
ヒヤリ件数	30件	11件	6件	1件	1件	26件

4．出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　わらしべ
施設長　太田　敦子

わらしべの基本方針

1. 常にご利用者に寄り添い、心の安心を提供します。
2. 私たちは、ご利用者が安心した日常生活を送ることができるよう、支援を行います。
3. 私たちは、ご利用者に役割を持っていただき、家庭的な環境の下で生活を送っていただける様に支援を行います。
4. 私たちは、ご利用者の身体拘束及び、行動の制限に繋がる行為(言動）は行いません。
5. 私たちは、個人情報に関する守秘義務を遵守します。ご利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。

第 5 期中期計画のビジョン

その人らしく（自分らしく）楽しく生きる。日々の生活から看取りまで選択できる施設づくりを目指します

2023 年度の事業報告について

昨年度は、施設内で新型コロナウイル感染症が蔓延し辛い報告となりましたが、今年度は入院者も 5 日間のみとなり年間利用率 98.8%と目標に対して 0.8%アップ。要介護度も年間平均で 2.6 と高く、看取り介護など地域医療と連携、平生園の看護師などの協力もあり重度になられてもわらしべを利用したいと言って下さる方々の思いに応えることができました。その結果、収入増という成果にも繋がっています。ただ、退所後空床になった場合の新規入居者確保やショートステイ利用が難しい状況もあり課題も残しています。今後、今以上に居宅介護支援事業所等との連携を強化し情報発信などにも努めてまいります。

また、年度当初に重点実施項目として掲げた「個々のニーズに沿った個別支援の提供」は第 4 期からの継続です。「個別支援調査シート」を活用し、職員も使用回数を重ねるごとに手法を身に付け、スムーズなコミュニケーションができ、ふるさとのご家族との交流、会いたかった方へ手土産を持参しての面会など地域へ出向く機会や、趣味の編み物や習字の復活など自分だけの特別な時間を過ごしていただくことができました。「看取り介護の充実」は、念願のわらしべ看取りマニュアルを完成させました。更に 1 名の看取り介護や医師を招いた研修を行い、ご家族や近隣のグループホーム、居宅介護支援事業所ケアマネジャーの方々にも参加いただき開催しました。看取り介護は日常生活の延長であり「住み慣れた居室で病人ではなく個人として尊重され、その人らしく生活していくための支援である」という言葉に感銘を受けたといった感想も聞き、学び多き研修となりました。「地域の施設、文化祭等に作品を出展し、わらしべを知ってもらう」では計画通り実践でき、文化祭への出展を含めご利用者と共に作品作りに励み、出展、見学なども行いました。次のステップとしてわらしべを紹介する〝お手軽パンフレット〟の作成にも取り組んでいきます。

ビジョンとして掲げたその人らしく（自分らしく）楽しく生きる。日々の生活から看取りまで選択出来る施設づくりの一歩ができたと感じています。

1.事業概要

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
認知症対応型老人共同生活援助事業　（第２種）	認知症対応型共同生活介護	18名	認知症要介護・要支援高齢者
老人短期入所事業　（第２種）	短期利用認知症対応型共同生活介護	空床型	認知症要介護・要支援高齢者

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
エルダー制度の再構築	指導方法の再確認とエルダー制度の運用	①指導方法の再確認・運用	ｱ）転勤者にエルダー指導開始（4月） ｲ）人材育成委員会開催。エルダー資料、指導方法について、改善点を話し合う。（5月） ｳ）人材育成委員会開催。人材育成と委員会リーダーの事業計画進め方を話し合い共有（8月） ｴ）新規採用臨時職員に対してオリエンテーション実施（1月） ｵ）利用者支援、業務に対して適宜助言実施（1～3月）	○
内部・外部研修の情報収集と研修への参加	研修参加と伝達研修実施	①研修参加と伝達研修実施	ｱ）内部研修 ・主任・副主任研修（6.8月） ・身体拘束廃止研修「スピーチロック」（7月）「日頃の支援の振り返り/拘束なのか否か意見交換」（12月） ・看取り介護勉強会（8.11月） ・看取り介護研修（外部講師：9月） ・虐待・不適切ケア評価表を使った事例検討会（9月） ・避難訓練（7.8.9.3月） ・個人情報取り扱いについての研修（3月） ｲ）外部研修 ・認知症介護実践者研修（6.7.9月） ・起居移乗介護指導者研修（7月） ・キャラバンメイト研修　（7月） ・排泄ケア研修（8月） ・シーティング研修（9月）	○

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
内部・外部研修の情報収集と研修への参加	研修参加と伝達研修実施	①研修参加と伝達研修実施	・認知症研修（9 月） ・アンガーマネジメント研修（9 月） ・起居移乗介助指導者養成研修（10 月） ・福祉機器研修（11 月） ・ストレスコントロール（11 月） ・認知介護基礎 WEB 研修（1 月 2 名、2 月 2 名） ・普通救命講習会（2 月） ・病院/福祉施設等防火研修会（3 月） ｳ）伝達研修「排泄ケア」(9 月)「シーティング」(11 月)、「認知症」(11 月)、「福祉機器」(12 月)、「ストレスコントロール」(1 月)、「普通救命講習会」(3 月)	◎
求人者への情報発信	求人情報作成	①求人情報作成	ｱ）担当者会開催（6 月） ｲ）各福祉施設の HP や求人に関する内容の情報収集実施（6 月以降）	△

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
業務見直しによる利用者個別支援時間の確保	委員会の開催	①委員会の開催（4 回/年）	ｱ）委員会開催（6.8 月） ｲ）業務改善に関するアンケート実施（7 月） ｳ）ペーパーレスへの取組み開始（6 月）	○
地域の施設、文化祭等に作品を出展し、わらしべを知ってもらう	情報収集と、作品出展	①出展受入れ先の情報収集と出展	ｱ）委員会開催（4.5.2 月） ｲ）出展先の検討（4.5 月） ｳ）出展先の決定/5 件了承得る（6 月） ｴ）展示作品作成（5 月～3 月まで通年） ｵ）あったかプラザに作品展示（10 月） ｶ）和田山文化際へ作品出展（11 月） ｷ）地域の喫茶店「ヌック＆カフェ」に作品展示（11 月） ｸ）歴史資料館に作品展示（11 月） ｹ）地域医院に作品展示（11 月） ｺ）和田山高校に作品展示（2 月） ｻ）地域温泉施設に作品展示（3 月）	◎

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
個々のニーズに沿った個別支援の提供	委員会の開催	①委員会開催 (4 回/年)	ｱ) 個別支援委員会開催 (4.7.10.1.3 月)	◎
	ニーズを捉えた個別支援の提供	①個別支援の提供 (18 回以上/年)	ｱ) 個別支援の実施 (4.6.7.9.10.11.2 月 : 18 名)	◎
	カンファレンスの開催	①カンファレンスの開催 (1 回以上/月)	ｱ) カンファレンスの開催 (4.5.6.7.8.10.1.2 月:8 回 16 名)	◎
看取り介護の充実	看取り介護に関する知識、技術の向上	①勉強会の実施 (1 回/年) ②研修会参加 (1 回/年)	① ｱ) 看取り委員会の開催 (4.7.11 月) ｲ) 職員会議にて勉強会の実施 (8.11 月) ② ｱ) 看取り介護研修会「介護施設での看取り介護」開催 (9 月)	◎
	マニュアル完成/更新	①マニュアルの完成	ｱ) マニュアル(案) 作成・修正 (4～9 月) ｲ) マニュアル完成 (10 月)	◎
家族との交流会持つ	交流会開催	①交流会開催 (1 回/年)	ｱ) 開催に向けた検討の実施 (7～9 月) ｲ) 交流会の開催中止決定 (9 月)	△

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
加算維持及び新規取得	加算の維持新規加算取得 (LIFE の導入)	①加算維持、新規加算(LIFE)取得検討	ｱ) 新規加算 LIFE 取得に向け、法人内特養、市内 GH から情報収集実施するも、新規加算取得に至らず	△
収支を意識した運営	物価上昇に連動した食費、共益費の見直し	①経費の分析 ②食費・共益費等適正価格に修正	① ｱ) 消耗品、水道光熱費など使用量確認、報告 (4.5.6.8.10.11.12.3 月) ｲ) 経費削減の啓発 (4.5.6.8.9.10.11.12.3 月) ② ｱ) 食費に関して真生園と交渉。適正価格算出 (1 月) ｲ) 食費の値上げ決定。家族に値上げに関する依頼文送付 (1 月)	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
福祉機器の導入	福祉機器の選定/導入	①福祉機器導入計画を立案	ｱ) 担当者会議の開催（7月） 福祉機器に関するアンケート実施（9月） ｲ) 委員会開催（10月） ｳ) 導入希望福祉機器アンケート集計（10月） ｴ) 長寿の郷福祉機器展示研修会へ職員2名派遣（11/27） ｵ) アンケートより次年度導入福祉機器の検討/決定（10～1月）	○

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域の福祉教育に取り組む	福祉教育の受入れ及び職員派遣	①地域活動への参加（1名以上/年） ②実習受入資格者研修受講	① ｱ) 未実施 ② ｱ) 日高高等学校実習受け入れ（6月:1名　6日間） ｲ) 実習受入資格者研修へ職員派遣出来ず	△
認知症理解の啓発	認知症サポーター養成講座へ職員派遣	①認知症サポーター養成講座へ職員派遣（2回/年）	① ｱ) 認知症キャラバンメイト養成講座受講（7月:1名） ｲ) 認知症サポーター養成講座講師派遣（6月:1回　7月:2回） ｳ) 認知症キッズサポーター養成講座講師派遣（2月） ｴ) キャラバンメイト連絡会参加（9月:3名、2月:3名） ｵ) 小学生低学年用認知症学習教材作成に参画(2月)	◎

3. 事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0件	26件	6件	0件	0件	1件	7件	1件	41件	3件

※その他：所在不明　1件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	薬関係	所在不明	転倒、転落			
ヒヤリ件数	29件	11件	12件	件	件	件

4. 出来した事案

(1) 個人情報の取扱いに関する件

ご利用者が誤嚥性肺炎に罹り、高熱などからせん妄の状態で大声などが出ていた。夜勤職員がしんどそうなご利用者の状態を心配し、自分の携帯で動画を撮り、LINE にて公休の職員に送信。後日動画を受取った職員がこの件を話し、この行為は問題があるのではと感じユニットリーダーに相談、上司に報告。職員双方への聞き取りを行い状況等確認。動画に関し他者への送信はなく削除済み。

GS 理事へ報告。わらしべ運営推進会議、苦情解決/虐待防止委員など第三者が参加する会議にて報告をするよう指示があり実施。常任理事会は GS より報告いただく。

2月職員会議にてこの事案について共有し、注意喚起を行うとともに3月の職員会議で村山常務理事を講師として個人情報の取扱いについて 18 名中 14 名の参加にて研修会を開催。

今後も研修の継続と注意喚起を行い、ご利用者、職員ともに守られ安心できる環境が維持できるように努めます。

2023年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　さくらの苑
施設長　小山　哲也

さくらの苑の基本方針

1. 利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（活きる）施設を目指します。

第5期中期計画のビジョン

さくらの苑は地域と共に生き、つながり、誰一人取り残さない地域の窓口としての役割を果たし夢のある施設を目指します

2023年度の事業報告について

2023年度は新型コロナウィルス感染症が5類となり感染予防対策を継続し、クラスターが発生することなくご利用者の皆様にさくらの苑をご利用いただくことができました。

今年度は、第5期中期計画の1年目であり各視点で新たに計画した重点実施項目や実行計画があります。学習と成長の視点では、年間研修計画を策定し職員が年1回は介護技術や知識、身体拘束、虐待などの研修に参加し伝達研修も実施し情報共有ができました。また、委員会メンバーや経験年数などから専門研修に参加する職員を選抜し受講することもできました。業務プロセスの視点では、インカムを使用することでナースコール対応と職員間のコミュニケーションが同時にできることで支援の効率を向上させる目的で導入はしましたが、Wifiの環境整備不良が生じる場所があり、環境整備を次年度に実施しインカム活用を充実することとしています。地域貢献の視点では、朝来市より依頼のあった「一体的支援プログラム事業」のモデル事業所として今年度3回実施し、延べ12組28名の方に参加いただき「おいしいコーヒーの作り方」「クリスマスリース作り」「寄せ植え」を職員と一緒に取り組み、ご利用者の笑顔やご家族の認知症の方への理解などが大きな成果となりました。今後も年6回実施しご利用者とご家族の支援を継続します。財務の視点では、予算達成に向け目標利用率達成に取り組んできましたが、入所と通所介護で目標利用率が未達となりました。今後入所ではご利用者の確保と空床期間の減と入院者の減、通所介護では、ご利用者の確保と空床の減ができるよう各事業で課題解決できるよう取り組みます。

2024年度は、第5期中期計画2年目がスタートします。事業計画の各視点の実行計画を遂行し、ご利用者のサービス向上とご利用者確保、働きやすい職場作り、地域との連携を強化し、ご利用者やご家族、地域の皆様から「さくらの苑があるから安心ね」と言っていただけるように取り組んでいきます。

開設年月日：2017 年 5 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
特別養護老人ホーム　（第 1 種）	地域密着型介護老人福祉施設	29 名	要介護高齢者	2017 年 5 月 1 日
老人短期入所事業　　（第 2 種）	短期入所生活介護	10 名	要介護・要支援高齢者	2017 年 5 月 1 日
老人ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ　　（第 2 種）	地域密着型通所介護	18 名	要介護・要支援高齢者	2017 年 5 月 1 日
公益事業	居宅介護支援	―	要介護・要支援高齢者	2017 年 5 月 1 日

2. 推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
さくらの苑独自の職員育成プログラム・指導職員の明確化	高卒、中堅職員、リーダーの育成プログラム検討・実施	①素案の完成（育成プログラムの作成）	ｱ）新規採用職員（大卒）の育成しすべての勤務可能となる（10～3 月）	○
	年間研修計画作成、実施	①年間研修計画作成	ｱ）年間研修計画作成（5 月） ｲ）研修計画の進捗状況確認（5～3 月）	◎
職員のモチベーション向上	目的を持った研修参加と伝達研修	①役割にあった研修参加 ②伝達研修の開催	① ｱ）計画表に沿って外部研修に 44 名参加（5～3 月） ｲ）認知症介護基礎研修受講 3 名、喀痰吸引研修 1 名受講、介護福祉士実習指導者講習 1 名受講（5～9 月） ② ｱ）リーダー研修参加者に 10 月伝達研修を依頼（9 月） ｲ）リーダー研修伝達研修（11 月）	◎

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
各部署の理解を深める	職員会議のプログラムの見直し	①素案の完成と実行（職員会議の進め方の検討）	ｱ）職員会議の出席人数や伝達事項、勉強会開催など課題を情報共有（6 月） ｲ）ユニット会議にて職員会議報告実施（10～3 月）	×

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
各部署の理解を深める	インカム活用(ルール作り)	①インカム使用し運用活用の見直し（活用ルールの作成）	ｱ) リーダー会議にて使用方法の検討（6～8月） ｲ) 毎月使用状況を確認 ｳ) Wi-Fi環境不具合あり停滞しているため業者に電波状況の改善を依頼（8月） ｴ) Wi-Fi環境業者との調整（10～3月）	△
	各事業の理解を深める	①素案の完成（役割の明確化）	ｱ) 職制会議で各事業の利用状況の共有（6～3月）	△
広報活動の強化	SNS活用、ブランド力の強化、特化したサービス	①素案の完成（現状把握）	ｱ) 新パンフレットの作成を進め業者に見積もり依頼。配布の準備（4～9月） ｲ) 新パンフレット作成作業実施継続（10～3月）	△
但馬地区法人内の連携強化	介護支援専門員の連絡会を立ち上げ、平生園わらしべ、さくらの苑の連携を図る組織を構築	①連絡会の立上げ・月1回の開催	ｱ) 連絡会1回目が開催できたが、各施設現状で集まることが困難との意見あり、会議開催の定期開催方法の検討が必要（6月） ｲ) 内容や検討事項を具体的にして継続の話し合いを持つことの確認（9月）（10～3月） ｳ) 入居待機者の情報共有、施設間での希望による入居者の転居実施（10～3月）	△

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
さくらの苑各事業のサービスの見直し	地域ニーズ把握のための聞き取り方法、集計、分析、その後の取り組み	①素案の完成	ｱ) ミニデイ参加時に聞き取りを実施（4～3月） ｲ) さくらカフェ開催時に聞き取りを実施（9月）	△
さくらの苑各事業のサービスの見直し	さくらの苑独自サービスの検討・実施	①毎月の職制会議で独自サービスの検討	ｱ) 職制会議で現状や対策について、機能訓練やご利用者が使用できるパソコン導入など検討（5～9月） ｲ) ニーズに合わせた利用時間個別対応の実施（10～3月）	△

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
さくらの苑各事業のサービスの見直し	入所利用者の24時間シートの活用推進・個別カンファレンスの実施	①個別ケアの実践（個別カンファレンスの継続）（24 時間シート活用継続）	ｱ) 検討が必要な個別カンファレンスの実施（5～3月） ｲ) 人員不足によりカンファレンス開催は実施できるが早期に行えない課題がある ｳ) 24時間シートの見直し・支援内容の周知をユニット会議で実施（4～3月）	○

（4）財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
職員の関心を高める周知方法の検討・実施	収支理解の取り組み	①職員会議にて勉強会開催	ｱ) 職員会議にて「収入と支出」について勉強会開催（5月） 下半期は開催できず ｲ) 水道光熱費（電気代使用量）が前年度より約7%削減	△
生産性向上のための取り組み	自立経営（地区に支えられる→地区を支える）	①予算達成	ｱ) 毎月の職制会にて前月実績確認行い未達成事業の振り返りと対策について協議。下期入院や死去退所重なり大きく未達	△
	将来修繕・投資のための積立金計上	①積立金計上	ｱ) 毎月の実績額の確認。積立できず逆に取崩を行う	△

（5）地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域包括ケアシステムを生かした支援の検討・実施	感染症対策を行った上での出前講座の実施	①出前講座を年2回実施	ｱ) さくらカフェ実施（9月） （大植病院より出前講座実施） ｲ) 一体的支援プログラム事業（モデル事業）実施12組28名参加 （9月・12月・3月）	◎
	ミニデイへの職員参加継続	①毎月ミニデイに職員参加	ｱ) 毎月参加（4～3月） ｲ) 上町ミニデイバス旅行（姫路方面）職員2名参加（5月） ｳ) 上町区ミニデイをさくらの苑で開催（9月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
施設事業と地域との連携した取り組みの検討・実施	地域と合同避難訓練の実施	①さくらの苑で避難訓練案検討	ｱ）運営推進会議にて地域担当者と相談（5月） ｲ）福祉村の7つの施設と南但消防本部合同でさくらの苑にて福祉村合同避難訓練を実施（9月） ｳ）南但消防本部に依頼し但馬地区施設合同で普通救命講習会を実施（2月）	◎
	地域ニーズ、施設の取り組みを話し合う機会として運営推進会議を活用	①運営推進会議の活用検討	ｱ）さくらの苑と地域合同の避難訓練協力を依頼（5月） ｲ）サポート施設の説明会を実施（7月） ｳ）一体的支援プログラム事業の内容報告（11月・1月・3月）	△

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	3件	57件	20件	0件	0件	2件	0件	18件	100件	4件

その他：乾燥機のよる衣服の破れ：3件、配薬忘れ：6件、未服用：8件、
利用者所持品の破損：1件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	転倒、滑落	皮下出血	その他			
ヒヤリ件数	118件	60件	17件	件	件	件

その他：食事：食事形態違うもの提供に気づく：1件
配膳間違い：1件　　ナースコールの故障：1件
※利用者の所持品の間違い：5件　　※禁食の提供事前に気づく：2件
所在確認：4件、バルーンカテーテルストッパー忘れ1件、バルーンカテーテル位置違い1件、ナースコール位置わからず探す：1件

4.出来した事案
（1）特にありません

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　恵生園
施設長　大橋　幸司

恵生園、グループホームめぐみの基本方針
1. 私たちは　ご利用者の人権を尊重し自ら選んで決めていただけるサービスを提供します。
2. 私たちは　ご利用者が活き生きと喜びをもって生活できる施設を目指します。
3. 私たちは　自ら率先して話し合える職場づくりに努めます。
4. 私たちは　まちの声に応え　地域に貢献できる施設を目指します。

放課後等デイサービスめぐみの基本方針
1. 子どもたち一人ひとりの個性を大切にし、豊かな育ちを支えます
2. 子どもと保護者に寄り添い、成長を喜び合うことができる施設を目指します
3. 子どもたちの未来のために、地域に愛される施設を目指します

第 5 期中期計画のビジョン
私たちは、多様化する利用者の障害特性に応える為の対応力を身に付け、利用者一人ひとりが生活しやすい施設作りを目指します。

2023 年度の事業報告について
今年度は、6 月後半に起きた新型コロナ感染症クラスターにより、実施しなければならない取り組みが計画的に進まず、年度の前半はコロナ感染対策を中心にした安心安全なサービスの提供を行った日々でした。しかし、新型コロナ感染症クラスター対応により、職員間の連携が深まり、今まで以上にしっかりとした組織となり、感染防止対策や、その他の計画についても各委員のリーダーが中心となり進めることができました。そして、どんな時にでも職員同士の情報共有や支援ミーテイングを積極的にすることで、どんな事でも相談できる風通しの良い職場環境となり、離職者もいませんでした。
業務プロセスの視点として、業務推進リーダーを配置しましたが、リーダーとなる方へ明確な役割を示すことができず、次年度への課題となりました。また、ご利用者の重度・高齢化に対し、必要な環境設備の把握を行い、電動ベッドに入れ替えるなど、徐々にではありますが生活しやすい環境の整備に取り組みました。しかし、ヒヤリハット・事故などリスクを伴う事案が続いていますので、引き続き事故検証会議を実施し、振り返りと対策を行い、安心安全なサービスを行っていきます。
財務の視点では、各事業の定員を維持することができず、安定した経営ではありませんでしたが、今後も各関係機関と連携を密にし、利用者確保に向けた営業活動を行っていきます。そして、地域の状況や情報を取得し、ニーズに応じた福祉サービスに繋げていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1976 年 6 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設　（第 1 種）	施設入所支援	60 名	身体・知的障害者	2008 年 4 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	60 名	身体・知的障害者	2008 年 4 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	短期入所	3 名	身体・知的障害者	2006 年 10 月 1 日
相談支援事業　（第 2 種）	特定相談支援	―	障害者	2013 年 3 月 1 日
	障害児相談支援	―	障害児	2022 年 4 月 1 日
公益事業	介護予防等拠点事業（あったかプラザ）	―	―	2003 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	6 名	身体・知的障害者	2021 年 4 月 1 日
障害児通所支援事業　（第 2 種）	放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ	10 名	障害児	2021 年 4 月 1 日

2. 推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
新規雇用者の確保と離職予防	あらゆる機会を活用した職員採用 年間を通したフォローアップ面談の実施	①採用活動の実施 ②職員面談の実施（2 回/年）	① ｱ）生活支援員 1 名採用（9 月） ｲ）世話人 1 名採用（6 月） ｳ）児童指導員 1 名採用（10 月） ② ｱ）施設長との職員面談（9～12 月） OJT を通じた職員面談（随時） ｲ）放課後等デイサービス職員に対して人材育成についての面談（7～9 月）	◎
管理職と現場職員のコミュニケーション充実	支援現場の抱える課題についてのミーティング実施	①支援ミーティングの実施（毎月） ②職制職員へ情報共有し、支援現場が抱える課題の把握と対応	① ｱ）支援ミーティングの実施（毎月） ｲ）支援現場での課題把握（毎月） ② ｱ）支援ミーティングでの検討内容を職制会議で討議（毎月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
基礎的な介護技術の習得	介護技術力向上の為の研修受講と内部研修の実施	①研修の情報収集 ②施設内外の研修の受講 ③内部（伝達）研修の実施（毎月）	① ｱ）自主学習研修の情報提供（4月） ② ｱ）介護技術研修（長寿の郷）の受講 （5月：1名、8月：2名、9月：1名、11月：1名） ｲ)医療的ケア児等支援者養成研修の受講 （10月：1名） ｳ）虐待対応力研修の受講（11月：1名） ｴ）排泄ケア研修の受講（3月：1名） ③ ｱ）内部（伝達）研修の実施 （6・9・11・12・3月）	◎
接遇の向上	接遇力アップの為の研修受講と内部研修の実施	①研修の情報収集 ②施設内外の研修の受講 ③内部（伝達）研修の実施（毎月）	① ｱ）研修の情報収集（8月） ② ｱ）未実施 ③ ｱ）接遇ハンドブックの輪読（隔月）	△
職員レベル（経験・技術）に応じたOJTの仕組み構築	段階（経験・技術）を経たOJTの仕組みを作る	①OJTマニュアルの作成 ②職制者にてOJT職員を育成（2名）	① ｱ）OJTマニュアルの確認（5月） ② ｱ）職制者から該当中堅職員への面談とOJTの実施（5・6・8・10・11・2月）	○

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
役割を明確にした業務推進リーダー配置による職員の育成	OJTを通じて中堅職員を育成し、主任をサポートできる人材を育成する	①業務推進リーダーの役割の明文化 ②業務推進リーダーの人選 ③業務推進リーダーへのOJTの実施（1人/年）	① ｱ）文章化に向けて検討中 ② ｱ）中堅職員より3名の人選（4～5月） ③ ｱ）職制者から該当中堅職員への具体的な役割や業務の伝達、OJTの実施 （7～11月） ｲ）業務推進リーダーへの次年度に向けた役割分担の確認と引継ぎ（3月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
高齢化・重度化に対応した環境設備の整備	居住環境向上の為の環境設備整備実施	①利用者の現状調査の実施 ②必要な環境設備の把握	①② ｱ）アンケート調査を実施して現状を把握（6月） ｲ）調査結果に基づいて、該当利用者の居室環境の整備の実施（8・9・10・12・1月）	○

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
支援体制見直しによる安全最優先のサービスの提供	業務改善委員会を中心に現状の支援体制を見直す	①現行業務についての課題把握	① ｱ）支援現場での課題把握（4～5月） ｲ）業務改善委員会を実施し、把握した課題への対応を検討（8月） ｳ）食事提供時間、提供方法の見直しと振り返り（8～12月）	◎
業務内容見直しによる利用者個別支援時間の確保	利用者個々に応じた支援マニュアルの作成	①各利用者の個別支援マニュアルの作成 ②マニュアルに沿った個別支援の実施	① ｱ）個別マニュアルの書式検討（8月） ｲ）記入見本の作成（9～12月） ② ｱ）次年度の個別支援計画作成に活用し次年度からの支援で活用	○
データ分析・検証による頻回に起こるヒヤリハット・事故の予防	ヒヤリハット・事故報告をしっかりと分析し、頻回に起こるリスクを予防する	①事故検証会議の実施（毎月） ②ヒヤリハット・事故集計結果の分析と対応策の検討と統一した支援の実施	① ｱ）事故検証会議の実施（毎月） ② ｱ）ヒヤリハット・事故集計結果の分析と対応策の検討（毎月） ｲ）記録ソフトの会議報告書にて対応策を参照できるようにし、支援方法の周知対策を実施（4月）	○
満足度調査を反映したサービスの提供	満足度調査の結果を分析し、調査結果をサービス提供に繋げる	①満足度調査の実施（1回/年） ②調査結果の分析と対応策の検討と実施	① ｱ）調査用紙配布準備と実施、集計（9～2月） ② ｱ）調査結果の分析と対応策の検討（3月）	△

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
利用定員維持による安定した事業収入の確保	利用定員を維持し、入所待機者を確保する	①自施設や近隣の相談支援事業所、行政への情報収集（毎月） ②入所待機者の把握と確保	① ｱ)自施設相談支援事業所からの情報収集（4・5・8・9月） ② ｱ) 新規施設入所利用者契約（1名） ｲ) 新規短期入所利用者契約（6名）	△
収支を意識した啓発活動推進によるコスト削減	光熱水費のコスト削減に向けた取り組み実施	①巡回による不要な電気使用の削減 ②適正な電気機器使用の啓発	① ｱ) 巡回による電気機器使用状況の確認（5～7・12月） ② ｱ) 職員会議にて月額の光熱水費の報告と電気使用削減の職員への意識付け（毎月）	◎
計画的な積立金の計上	機能維持等に必要な積立金確保	①利用定員確保による収入の増加 ②光熱水費削減対策による支出の減少	① ｱ) 職員会議にて利用定員未達で運営している状況、定員確保の必要性の説明（8・3月） ｲ) 収入目標と収入実績報告(5月) ② ｱ) 職員会議にて月額の光熱水費の報告と電気使用削減の職員への意識付け（毎月）	△

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域との連携強化	「あったかプラザ」や「めぐみ」での行事を企画し交流を深め、地域との連携を強化する	①作品展、「介護の集い」を実施（2回/年） ②「めぐみ」で行事を開催し、地域の方との交流を実施(2回/年)	① ｱ)「あったかプラザ」での作品展の開催（毎月） ② ｱ)「あったかプラザ」を活用した恵生園の事業紹介イベントと相談会の企画（9～10月） ｲ)「あったかプラザ」イベントの実施（11月） ｳ) 盲ろう者の集いに参加（3月）	○

地域ニーズへの対応	地域の方を対象に相談会を行い、ニーズに応じた具体的なサービスにつなげる	①困りごと相談会の企画と実施（2回/年）	ｱ)「あったかプラザ」を活用した恵生園の事業紹介イベントと相談会の企画（9～10月） ｲ)「あったかプラザ」イベントの実施（11月）	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	4件	9件	9件	1件	件	件	1件	2件	19件	5件

※その他：買い物代行の釣銭の確認忘れ
　　　　　バルーンカテーテルが引っ張れた事による出血

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	転倒	滑落	薬関係	無断外出	その他	転落
ヒヤリ件数	38件	27件	22件	18件	7件	4件

※その他：短期入所利用者の食事の申し込み忘れ
　　　　　畜尿バックからの尿漏れ

4．出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　真生園
施設長　近藤　咲美

真生園の基本方針

1. 安全で安心できる快適な生活の場や活動の場となる為の充実したサービスを提供します。
2. 互いに交わす挨拶に笑顔を添え、同じ目線に立ち温かいまなざしと優しさで支援します。
3. 利用者一人ひとりの個性や人権を尊重し、誠意をもって支援します。
4. 地域に愛され、地域と共に歩む施設を目指します。
5. 愛と希望に満ちた温もりのある施設づくりを目指します。

第 5 期中期計画のビジョン

障害福祉サービスをリードする施設として、ご利用者と地域の期待に応えていきます

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画の初年度は、コロナ禍前の生活にできるだけ戻す計画でしたが、年度前半の新型コロナ感染クラスターにより、思うように計画が進まず苦慮した一年でした。

施設行事として、今年度のクリスマス祝会には、4 年ぶりに家族会役員の皆様が参加され、ご利用者・ご家族が久しぶりに顔を合わす機会となり、家族会からは「利用者がコロナ前と変わらず、楽しく生活されている姿を拝見でき良かった」とのお言葉をいただき、今後も家族会が参加できる活動の充実を図っていきます。

財務の視点として、今年度は体調不良等で、ご利用者の退所（ご逝去）や転所されるケースが多々あり、定員を維持するために入所者確保を積極的に実施しましたが、定員を充足する事ができませんでした。また、新規の夜勤可能な生活支援員の補充もできませんでした。

職員育成では、特定技能外国人 2 名の方の育成が、9 月には夜勤勤務が可能なレベルにまで到達しました。これにより継続して手厚い夜間の生活支援を図る事ができました。また、介護記録学習にも参加され、日誌や記録作成の業務にも取り組んでおります

その他には、苦情解決・虐待防止・身体拘束適正化・感染症防止等の研修を、全職員を対象に積極的に実施しました。また、火災避難訓練やご利用者の消火器体験等も実施しています。

1. 事業概要

開設年月日：1978 年 5 月 10 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設　（第 1 種）	施設入所支援	60 名	身体障害者	2008 年 4 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	60 名	身体障害者	2008 年 4 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	短期入所	4 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
公益事業	日中一時支援	5 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
公益事業	真生園診療所	―	―	1979 年 4 月 1 日

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
外国人支援員の育成	計画的な人材育成	①受け入れ側職員への教育 ②育成プログラムの作成 ③メンタルヘルスケア(全職員)	① ｱ) 受入れ職員の内部研修(4 月) ② ｱ) 外国人担当エルダーによる日勤の業務指導(4 月) ｲ) 遅出(8 月) 準夜勤(9 月～) 深夜勤(11 月～)開始し、12 月に夜勤 1 人立ち ｳ) 外国人ケア記録研修(10 回受講) ③ ｱ) 未実施	◎
専門研修と内部研修(伝達研修)の実施	階層別の研修参加と伝達研修の実施 事業所見学	①外部研修参加(対面・オンライン) ②各委員会の計画による内部研修の実施 ③職員会議での伝達研修 ④日中活動充実の為の事業所見学(2 か所)	① ｱ) 介護技術研修(8 月～) ｲ) 障害施設初任者研修(6 月) ② ｱ) ユニチャーム講習(5･3 月) ｲ) リスクマネジメント研修(7 月) ｳ) 感染症研修(8･1 月) ｴ) 虐待防止研修(9 月・3 月) ｵ) 生産性研修(10 月)、接遇研修(11 月) ③ ｱ) 外部研修の伝達研修(2 件 3 月) ④ ｱ) 未実施	○
計画的な資格取得	専門資格取得者(介護福祉士、サビ管、相談支援吸引等)	①介護福祉士資格取得(1 名) ②サービス管理責任者(1 名)	① ｱ) 介護福祉士養成講座受講(3 名) 資格取得 ② ｱ) サビ管基礎研修(1 名) 更新研修(1 名)	◎
キリスト教福祉を通じた人材育成	理念学習会等による接遇向上	①理念学習会実施(年 2 回) ②牧師メッセージに出席	① ｱ) 理念学習会(5 月)、接遇研修(11 月) ② ｱ) 牧師メッセージ(毎月)、キリスト教勉強会(7・8・10・12・2・3 月)	◎

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
支援の生産性を高めるプロジェクトチームの継続	委員会の定期開催と年間テーマに基づいた実践	①2 寮制での業務の課題の抽出・改善策の実行 ②支援課内保管書類の整頓	① ｱ) 委員会開催(毎月) ｲ) 委員会でのアンケート調査(5 月) ｳ) 業務変更・勤務変更試行(7 月) ｴ) 夜間帯 3 名体制開始(9 月) ｵ) フロア対応業務の新設(10 月) ｶ) 職員会議にて利用者目線に立った意見交換会の実施(10 月) ｷ) 総合職員研修にて取り組みの発表 (3 月) ② ｱ) ケース記録・金銭台帳の整理 (4 月・9 月)	◎
各マニュアルの更新・周知方法の確立	紙面とデータ化による支援基準を明確にする	①各種マニュアル・仕様書のファイル化と更新	① ｱ) 新任職員マニュアル更新(4･3 月) ｲ) フォルダ内マニュアル整理(9 月)	△
旧さくらの苑・単身寮の維持管理	既存施設を活用し､感染症･災害や職員確保に役立てる	①備品管理場所の確保 ②旧さくらの苑は解体せず、感染症対策・災害対策等に今後も継続し活用する ③単身寮の活用推進の為、各部屋の維持整備実施	① ｱ) 生活備品管理場所として活用 ② ｱ) 継続して感染症対策備品倉庫として活用 ｲ) 家族会、面会スペースとして使用 ｳ) 感染拡大期に支援員室として活用 ③ ｱ) 未実施	○

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
個別支援計画に基づく支援	個別支援計画の職員周知 計画書一式の見直し	①目標一覧表の作成掲示 (6 ヵ月毎) ②支援実施書の供覧と活用	① ｱ) 目標一覧表の作成と掲示済み(5 月) ② ｱ) 一部フェイスシートの更新のみに留まる	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
快適な居住環境整備	利用者ニーズに合わせた老朽化備品の更新	①老朽化した食堂テーブル及び椅子を更新	ｱ) 委員会開催(毎月) ｲ) 他施設の設備を見学(5月) ｳ) ユニフォームサンプル試着と職員アンケートの実施(9月) ｴ) 食堂昇降テーブル2台更新(12月)食事席とメンバーの見直し ｵ) 食堂利用者用椅子5脚・食事介助用エプロン更新(2月)	○
リスク対策委員会の強化による事故防止	委員会の定期開催と再発防止システムを構築する	①ヒヤリハット・事故の分析方法の改善 ②ヒヤリ事故の周知 ③リスクマネジメント内部研修実施(年2回)	① ｱ) 委員会の運用方法(前回事案の振り返り効果確認)を確認(4月) ｲ) 服薬0週間を実施(7月・9月) ｳ) 身体拘束モニタリング(7月) ② ｱ) 朝礼、食堂での呼び掛け・周知 ③ ｱ) 服薬に関する研修を実施(7月)	◎
運営委員会・懇談会の体制整備	利用者と共に自治会組織の体制整備を行う	①運営委員会開催 ②利用者と協議が継続できる体制を整備	① ｱ) 運営委員会、何でも相談実施(毎月) ｲ) 利用者懇談会実施(毎月) ② ｱ) 利用者と運営方針の話合い(6月) ｲ) 利用者総会により代表等の役職制は終了との決議、運営会継続(9月)	○
家族との情報共有と連携	家族会･行事を通じ連携を維持する	①年間行事の実施 ②家族会・施設行事による交流	① ｱ) 真生祭(9月)、クリスマス会(12月)、花見会(3月) ② ｱ) クリスマス祝会に家族会役員参加 ｲ) 家族会にて施設状況の報告(年間7回)	○

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
予算に沿った計画的な積立	確実な積立を行う	①予算計画による積立実施	ｱ) 毎月の水道光熱費の職員周知	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
利用定員確保よる給付費収入の維持	関係機関・市町村へ情報提供を行い利用希望者の募集をする 身体機能低下による区分見直し	①利用案内資料(入所・短期)作成、関係機関への情報提供 ②認定調査による障害支援区分の見直し	① ｱ) 入所、短期利用案内・利用料表の作成、説明時に使用 ② ｱ) 認定調査後支援区分見直し(4名)	△
施設設備の老朽化対策	老朽化設備の更新	①新館特浴更新(リース) ②新館空調設備更新(リース) ③必要な修繕があれば実施	① ｱ) 新館特浴更新工事(6月) ② ｱ) 新館空調設備更新工事(6月) ③ ｱ) 単身寮階段屋根改修工事(5月) ｲ) スプリンクラー逆止弁修繕工事(5月) ｳ) 本館女子寮エアコン修理(8月) ｴ) 松の伐採(2月) ｵ) 旧さくらの苑テント骨組み撤去(2月) ｶ) その他、適宜修繕実施	◎
外部事業所と連携し利用者の短期・生活介護事業の相互利用の強化	施設見学会・説明会を実施	①施設見学会・案内会を実施(年1回)	ｱ) 外部機関と連携し、利用希望者の情報収集 ｲ) 見学会未実施	△

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
施設独自のサービスを提供する	施設サービス・設備等の提供を行う	①他のサービスと連携した入浴設備の提供	ｱ) 入浴設備貸し出し試行(5月・6月) →自立支援協議会で検討したがサービスとして実現せず(8月)	△

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
ボランティア・社会資源の活用	外部資源(人材)を活用し利用者の活動に繋げる	①ボランティア・社会資源の活用 ②訪問事業・移動販売の拡充 ③オンラインでの外部交流	① ｱ) 行事にてボランティアの活用 (9月真生祭・12月クリスマス祝会) ② ｱ) 衣類雑貨の移動販売利用 (5月・10月・11月) ③ ｱ) 未実施	○
利用者の社会参加と交流	地域と定期的に交流できる場を設定する	①地域での作品展・施設活動の紹介(年2回竹田駅、総合事務所等) ②作品展用の創作活動	① ｱ) 壁面作品の施設外掲示 (4月・12月・3月) ｲ) 外部作品展への出展(2名) ｳ) ご利用者の作品の施設外掲示(9月) ② ｱ) 日中活動にて創作実施	○
ホームページによる情報配信の強化	ホームページの更新、機関紙の発行	①ホームページの更新(2か月毎) ②機関紙発行(年間2回)	① ｱ) 利用受入れ欄、画像随時更新 ｲ) フェイスブック更新(7月・9月) ② ｱ) 機関誌140号発行(10月発行) ｲ) 機関誌141号発行(4月発行)	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0件	42件	7件	0件	0件	2件	3件	94件	148件	0件

※その他：服薬ミス31件、物損11件、食事欠食届ミス13件、忘れ物4件、他害行為3件など

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	転倒・転落関係	その他	配薬ミス関係	服薬ミス関係	ベルト忘れ	紛失関係
ヒヤリ件数	48件	27件	27件	12件	8件	9件

※その他： リフト関係1件、ウロバックチューブの折れ2件、利用者トラブル1件　など

4．出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　和生園
施設長　山根　由夫

和生園の基本方針

1. ご利用者一人一人の可能性と無限性を求めます。
2. 個々のニーズに応えるべく高い専門性を持ったチーム支援を実施します。
3. 地域に支えられ、地域の信頼に応え地域と共に歩みます。

グループホームもみの木・かしの木の基本方針

1. ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、自立へ向けての個別支援を行います。
2. ご利用者が、安全・安心・快適な生活を送られるように支援します。
3. 地域との連携を重視し、地域に根ざしたホーム作りに努めます。

第 5 期中期計画のビジョン

和生園に集う一人ひとりが、仕事と生活を通してしあわせを実感でき、誰からも信頼される施設であり続けます。

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画の初年度となる 2023 年度は、ご利用者、ご家族に安心して利用していただくために、職員一人ひとりが主体性を持って計画を推進するように取組みました。

コロナウイルス感染症が 5 類感染症相当に引下げられましたが、コロナウイルス感染症対策は継続させ、事業所内を感染源とする感染症予防対策に努めたのですが、市中感染による一時的な利用率の低下を防ぐまでには至りませんでした。

和生園の最重要課題として新規利用契約者の確保に向け、在宅障害者や特別支援学校の生徒、ご家族への情報提供を目的に広報誌のリニューアルに取組みましたが、朝来市内における就労継続支援 A 型事業所の新規開設に伴うご利用者の流出もあり、利用定員を充足させることが困難な状況は続いています。そのような状況ですが、和生園の安定した経営に繋がるよう、創意工夫による新規利用契約者の確保を次年度も最重要課題に位置づけし、継続して取組みます。

人材育成の面で、管理職の加わらない副主任を中心とした非効率業務改善委員会及び業務向上遂行委員会を新たに設け、委員会を構成するメンバーが主体的に計画に取組む体制を整備しました。権限移譲を受けた委員会活動の場で自ら考え、考えた事を発信し行動する機会と経験が若手職員の活躍する良い機会となっており、次世代に繋がる職員の成長に手応えを感じます。

1. 事業概要

開設年月日：1982 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労継続支援 B 型	40 名	身体・知的障害者	2008 年 4 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労定着支援	－	身体・知的障害者	2018 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	17 名	身体・知的障害者	2012 年 4 月 1 日

2. 推進状況

（1） 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
就労支援力の向上	就労支援研修の参加と共有による支援力の向上	①就労支援研修へ参加した職員による伝達研修の実施（2 回/年）	ｱ) 就労支援研修会後、参加者による伝達研修を実施 ・工賃向上研修会/兵庫 SELP（3 月）	○
利用者完結型の作業に向けた作業支援の工夫	利用者個別の支援マニュアルの整備とチームアプローチの実践	①利用者個々の障害特性を反映した支援マニュアルの整備と職員共有	ｱ) 利用者個々の支援マニュアル原本を作成（5～8 月） ｲ) 利用者個々の支援マニュアルを作成し活用開始（2 月）	○
新人、新任職員へのフォロー体制の充実	フォロー体制の工夫と実施	①エルダー制度導入準備を通じたエルダー候補職員の育成（1 人/年）	ｱ) 他施設からのエルダー制度の資料を参照し、和生園エルダー資料を完成（11 月） ｲ) エルダー制度導入に係る職員の負担感を鑑みて、計画はペンディング（1 月）	△
PDCA サイクルを意識した業務遂行	業務遂行向上会議の開催による振返りの習慣化	①業務遂行委員会を中心とした業務改善マネジメントの実施（4 回/年）	ｱ) 業務遂行向上委員会の開催（5・8・10・11・3 月） ｲ) 和生園全職員対象、PDCA サイクル研修会の実施（5・6 月） ｳ) PDCA サイクルによる業務改善 ・業務分担表の統一によるスケジュールの明確化（6～8 月） ・支援一覧表と利用者個々の支援マニュアルの完成と活用（10～3 月）	○
研修参加への積極的な投資	Web 研修の積極的な活用	①業所内で共有可能な Web 研修の定期的な受講（3 回/年）	ｱ) YouTube 及び SMBC 経営 Web セミナーを活用した Web 学習を実施 ・継続的業務管理に係る学習（5・6 月） ・非効率業務改善に係る Web セミナー（9 月） ・感染症予防に係る Web 研修（9・2 月） ・身体拘束適正化に係る学習（1・2 月） ・虐待防止に係る Web 研修（12 月） ｲ) Web による外部研修を受講 ・福祉従事者新任職員研修を準職員 2 名受講（6 月） ・障害者虐待対応力向上研修（12 月）	◎

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
広報誌の効果的な発行と活用	広報誌の内容と配布先の見直し	①事業所利用に繋がる、読者目線での広報誌の発行（2回/年）	ｱ) 広報誌配布先の見直し実施（4月） ｲ) 広報誌第5号を発行（7月） ・利用者ニーズ調査結果 ・家族対象困りごと調査結果 ｳ) 広報誌第6号を発行（2月） ・工賃のお支払いに関するQ&A ・グループホーム体験利用の案内 ｴ) 和田山特別支援学校生徒への全員配布	◎
持続可能な農福連携事業の構築	年間を通じた農業生産者との協働と生花栽培の取組みによる生産性の向上	①農福連携作業売上/750,000円以上に繋がる取組み実施	ｱ) 年間売上額(税込)　869,946円 目標達成度 116.0% ｲ) 農業生産者との協働　233,200円 育苗箱洗浄、山椒収穫、黒豆葉落とし ｳ) 自主生産生花販売　636,746円 切花用の小菊、飾り南瓜ほか	◎
業務の棚卸しによる無理・無駄・ムラの見直し	Web環境の有効活用と工夫	①整備したWeb会議環境の効率的な活用	ｱ) Zoomを活用した拠点間会議を実施し、拠点間移動に係る時間の効率化を推進 ・朝礼（毎朝礼時） ・職制会などの小委員会（毎月） ・支援会議兼支援計画策定会議(8月～) ・就B全体会議（4・8・12月） ・Webを活用した学習会	◎
	業務効率化の推進と振返りの実施	①自発的な非効率業務の改善に取組む体制づくり ②ボトムアップで行う非効率業務の業務改善の実施（1回/月）	① ｱ) 副主任を中心とした非効率業務改善に係る小委員会の立上げ（4月） ｲ) Webセミナー「仕事の「ムダ」のなくなる超・時短術」を全職員で共有(9月) ② ｱ) 非効率業務改善委員会の開催と非効率業務の検討 （5・6・8・9・11・12・1・2月） ｲ) 非効率業務改善委員会よる改善取組み ・改善を要する非効率業務の洗出し ・ペーパーレスによる会議開催 ・積極的なWeb会議の開催 ・支援会議を超過勤務にさせないための業務改善及びスケジュール調整 ・職員会議の時間短縮と効率化の検討	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
途切れのない福祉サービス提供のための多職種連携	家族・本人のニーズをもとに就労支援を多職種連携で行う	①把握した家族・本人ニーズの分析実施 ②通所利用を継続して行くための関係機関と連携した支援の提供（1人1回/年以上）	① ｱ) 各利用者受給者証更新時期の把握とサービス担当者会の開催状況を把握（毎月） ｲ) サービス担当者会後に把握したニーズを支援会議にて検討 ② ｱ) サービス担当者会の確実な参加と利用者・家族のニーズ把握実施（4～3月） ｲ) サービス担当者会を利用者36人中36件実施（4～3月）	○

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
利用者満足度の向上	利用者個々の状況に合わせた柔軟なサービスの提案	①利用満足度調査の実施 ②利用満足度調査結果を反映した個別支援の工夫	① ｱ) 利用者ニーズ調査の実施（5月） ｲ) 家族対象困りごと調査の実施（5月） ｳ) 利用者ニーズ調査及び家族対象困りごと調査結果を可視化（6月） ｴ) 法人満足度調査の実施 ・和生園：満足度指数81.4% ・第2和生園：満足度指数84.1% ・グループホーム：満足度指数58.1% ② ｱ) 困りごと調査結果を基にサービス担当者会で調査結果を検討（6～3月） ｲ) サービス担当者会議の結果を個別支援会議で検討 ｳ) 山東町方面への送迎も含めた、効率的な送迎サービスの検討（10月）	○
家族への応援体制を強化	施設見学会や家族懇談を実施	①家族ニーズや生活環境の把握を目的とした家族懇談の実施（1回/年）	ｱ) 利用者ニーズ調査及び家族対象困りごと調査を用いたサービス担当者会の実施により、家族懇談はペンディングを方針決定（7月） ｲ) 親亡き後の心配を抱えている利用者2名のグループホーム体験利用を開始（10～3月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
月額工賃配分額の増	高工賃を目的とした作業確保に取組む	①月額平均工賃（16,000円以上）の達成	ｱ）企業開拓（作戦）会議の開催（5・7・9・10・11・2・3月） ｲ）新作業の獲得（9月） ｳ）渉外に係るOJTの実施（10月） ｴ）兵庫SELP仲介による作業紹介（パッチワーク）に挙手し、新たに挑戦（2月） ｵ）年間工賃配分額：8,943,073円 平均工賃月額：24,821円	◎
社会参加の機会提供	生活に役立つ情報提供の工夫と実施	①生活情報に関する利用者との情報交換会の定期開催（3回/年）	ｱ）生活情報交換会を開催（4・8・12月） ｲ）生活情報掲示板を作成し、情報収集、情報発信の実施（随時）	◎

（4）財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
事業所全体での事業収入の確保(利用者確保)	利用ニーズと主従施設と定員に応じた契約者の確保	①新規利用契約者2名の確保（年間）	ｱ）和生園、グループホームかしの木利用に係る新規利用契約1名（7月） ｲ）和田山町民生児童委員会の場にて事業所紹介の実施（6月） ｳ）どんぐりの会(引きこもり者支援の会)研修会の場にて事業所紹介の実施（6月） ｴ）どんぐりの会(引きこもり者支援の会)見学（3月） ｵ）和生園新規利用契約者3名 和生園年度途中契約解除者2名	△
	利用者個々の平均利用率の向上に取組む	①利用者個々の個別利用率の月次確認に基づく欠席対策の工夫	ｱ）個別支援会議毎の欠席者確認と対策を検討（毎月） ｲ）職員会議時、各利用者利用状況を確認（毎月）	○
	加算請求要件の正しい理解	①加算要件の正しい共通理解による給付費請求の実施	ｱ）訓練等給付費請求に係る共通理解の実施 ・訓練等給付費の算定構造、加算の基礎（4月） ・令和6年報酬改定に係る論点（12月） ｲ）送迎加算（Ⅱ）から送迎加算（Ⅰ）への変更に係る加算要件を共有（7月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
利用者の障害の高進と高齢化への対策強化	個人の都合に合わせた施設利用の推進	①施設利用増に繋がる毎土曜日の試験的開所の実施	ｱ) 土曜日の開所日数を増加（4月～） 年間開所日数：283日 土曜日開所日数：40日（月平均3.3日） ｲ) 個別利用率を可視化し共有（毎月） 個別平均利用率：82.8%（対目標90%以上に対し、達成率92.0%）	○
情報収集力の強化	神戸地区就労支援事業所との連携強化に取組む	①神戸地区就労支援事業所と連携した事業推進の取組み実施（2回/年）	ｱ) 第1回就労継続支援B型事業所連絡会を開催（3月）	○
	行政からの情報収集を強化	①積極的な朝来市社会福祉課等訪問による有益な情報収集の実施（1回/月）	ｱ) 朝来市社会福祉課を訪問し、在宅障害者に関する情報収集を実施。有益情報は得られず（不定期） ｲ) 朝来市相談支援専門員連絡会/就労支援部会に2名出席（8月）	△
	在宅障害者に係る情報収集を実施	①朝来市自立支援協議会等の官民連携会議への参加(1回/3か月)	ｱ) 朝来市自立支援協議会の参集要請はなし（4～3月）	×
工賃向上計画に沿った取組み強化	作業毎の課題共有と対策に基づく作業提供	①年間工賃配分金額(6,528千円以上）の達成	ｱ) 企業開拓（作戦）会議で作業毎の課題を洗出し対策を検討（5・7・9・10・11・2・3月） ｲ) 作業課題抽出シートを作成し、作業毎の課題抽出及び課題分析を実施（2月） ｳ) 年間工賃配分額：8,943,073円（対目標＋2,415,073円）	◎

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
積極的に地域と繋がる関係づくり	地域の清掃活動に継続的に取組む	①地区の意向を反映した清掃活動の試験的な実施（月2回）	ｱ) 月2回土曜日に秋葉台地区ゴミ拾いを継続的に実施(4～3月） ｲ) 地区の資源回収に公用車を提供し、職員1名が回収に協力（5月） ｳ) 秋葉台秋祭りに出店（10月） ｴ) 朝来市民一斉クリーン作戦に合わせて事業所周辺の除草作業実施（5・10月）	○

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
施設の見える化の推進	生産品の事業所内窓口販売の推進	①外部者への積極的な事業所内窓口販売の働きかけ実施（30 回/年）	ｱ) 朝来市商工会に指定ゴミ袋販売許可を申請し、指定袋販売店として登録（4 月） ｲ) 指定ゴミ袋販売チラシの作成、配布（5・6 月） ｳ) 指定ゴミ袋窓口販売を開始（7 月～）外部者指定袋購入来所件数：24 件 ｴ) 農産物窓口販売の実施 外部者農産物購入来所件数：6 件	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0 件	21 件	3 件	0 件	0 件	0 件	0 件	1 件	25 件	0 件

※作業不良 1 件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	転倒	誤薬	その他			
ヒヤリ件数	3 件	1 件	2 件	件	件	件

※その他：作業部品紛失に繋がる悪戯 1 件
　　　　　情緒不安定に伴う道路への飛び出し 1 件

4．出来した事案

(1) グループホーム男性ご利用者の暴力行為に対する南但馬警察署の出動に関する件（8 月）

グループホーム男性ご利用者が、イオン和田山店内にて警察官 3 名に取押さえられている様子がインスタグラムにアップされているとの連絡を受け、南但馬警察署に出向き事実確認を行いました。

男性ご利用者が、イオン和田山店内洋菓子店のバックヤードに無断で入ろうとしたため、洋菓子店店長と隣の精肉店店長の 2 人で男性ご利用者の行動を制止しましたが、男性ご利用者は相手方を蹴ってしまうなど制止できない状況であり、警察に通報され警察官 3 名が駆け付けたとのことでした。洋菓子店店長、精肉店店長共に蹴られたものの怪我はされなかったことと、併せて洋菓子店店長は男性ご利用者の実兄と同級生であるとの理由から、被害届は提出しないとの意向を表明されました。そのため南但馬警察署による関与は保護の形で厳重注意だけとなり、グループホーム管理者による男性ご利用者の身元引受をもって、この事案は終了しています。

この件については、南但馬警察署より男性ご利用者のご家族へ連絡をされ、状況及び結果について説明されています。

(2) 指定障害福祉サービス事業者等に対する運営（実地）指導に係る改善に関する件（1 月）

2023 年 12 月に実施された兵庫県実地指導監査におきまして、①契約支給量の報告、②工賃支払い等、の 2 件を文書指摘事項にて改善措置を具体的内容にて報告するように指導を受けました。

①契約支給量の報告に関する指摘は、就労継続支援 B 型及び就労定着支援において利用者との契約成立後、遅滞なくその旨を市町村へ報告されていなかったとの事でした。該当市町村へはその旨を報告と改善措置について相談させていただいた上で、2023 年 12 月を起点として 5 年間の遡及を行い、契約支給量の報告に係る改善措置を 2 月 6 日に完了させました。

該当市町村は朝来市、明石市、加古川市、姫路市、香美町、南丹市、西宮市、宮津市、多可町の 7 市 2 町となりました。

②工賃支払い等に関する指摘は、利用者に対して昨年度の平均工賃月額の通知が行われていないとの事でした。具体的には口頭で通知された内容を、事後にご利用者本人が確認できるようにしておくとの観点から、12 月分工賃支払明細書（2 月支払い分）より「当月出勤率」「前年度平均工賃月額」「当月平均工賃月額（出勤率 80%以上)」を月次で記載するようにし、2 月 5 日を持って改善措置を完了しています。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　北但広域療育センター
施設長　稲津　慎也

北但広域療育センターの基本方針

1. 利用者の人権を尊重して、利用者が全人的に生かされることを目指して支援します。
2. ICF の障害観点に立って、生活、環境をも考慮した質の高いサービスの提供を目指します。
3. 北但馬の療育の中核として、職員の専門性の向上を図り、地域（教育、医療、福祉、家庭）との連携体制の構築を図ります。
4. キリスト教精神を持って、日々、利用者と接します。

第 5 期中期計画のビジョン

専門家集団として、地域から求められる役割の明確化とサービス提供体制の確立

2023 年度の事業報告について

新型コロナウィルスが第 5 類へ変更となった以降も、職員については継続して週 2 回の抗原検査を実施するとともに、ご利用者の方へは検温とマスクの着用をお願いしてきました。これらの取り組みにより、幸いにもセンター内ではクラスターが発生することなく今年度の事業を終えることができました。抗原検査は 3 月末で終了となりましたが、検温、マスク、消毒等の基本的な感染対策については、今後も引き続き実施し、安心してご利用いただける環境を提供してまいります。

児童発達支援センター「すまいる」では、最終登録者数 105 名、年間平均利用率も児発センターとなって以降最も高くなり、多くの方にご利用いただきました。次年度のスタートは例年に比べ少ない人数ですが、希望される方がスムーズに利用できるよう取り組みます。

また放課後等デイサービス「らみい」では、不足していた職員 1 名を 6 月より配置したものの、11 月より 1 名が休職し、児童発達支援管理責任者を変更しました。加配加算については継続して取得できていますが、安定した支援体制の構築が課題となっています。

障害児（者）通所支援事業「トゥモロー」では、9 月末に看護師 1 名が退職したことにより、看護師 1 名体制となりましたが、1 月より看護師 1 名を新たに採用し、安心してご利用いただける体制を整えることができました。

相談支援事業「ぴあほくたん」では、障害児相談については豊岡市の優先的ケースと他市町の新規ケースを受けるものの、委託相談におけるケース対応の割合も大きく、セルフプランのご利用者をサービス等利用計画に繋ぐことが難しい状況が続いています。

風発達クリニックでは、発達検査を行う心理士 1 名が長期休み、また今年度末には 1 名が契約終了となる予定であり、検査を実施する心理士の確保が課題となっています。

クローバー豊岡ブランチでは、強度行動障害関連の機関コンサルテーション等のニーズが増加傾向となっています。次年度以降、クローバーの役割の整理と支援の充実に取り組みます。また、児童発達支援センターとも連携し、その中核的役割機能への支援を行います。

1. 事業概要

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害児通所支援事業（第 2 種）	児童発達支援 保育所等訪問支援	20 名 ―	障害児
障害福祉サービス事業（第 2 種）	生活介護	8 名	重症心身障害者
障害児通所支援事業（第 2 種）	放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ		重症心身障害児
障害児通所支援事業（第 2 種）	放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ	10 名	障害児
相談支援事業（第 2 種）	一般相談支援	―	身体障害児者 知的障害児者 発達障害児者
	特定相談支援	―	
	障害児相談支援	―	
公益事業	ひょうご発達障害者支援ｾﾝﾀｰ ｸﾛｰﾊﾞｰ豊岡ﾌﾞﾗﾝﾁ	―	発達障害者
公益事業	風（ふぅ）発達クリニック	―	小児科・精神科 神経内科

2. 推進状況

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
他機関と連携した専門職育成	他機関との連携による専門職のスキルアップ	①他施設の見学研修 ②他機関専門職との連携	① ｱ) 出石特別支援学校見学 4 名（5 月） ｲ) 感覚統合見学研修（京都・4 月） ｳ) 豊岡 HP リハ見学（4.5.6 月） ｴ) 放デイめぐみへ見学（10 月） ② ｱ) 八鹿 HP 小児勉強会（5.6.7.8.9.12.2.3 月） ｲ) 香美町のびのび教室同行（12 月） ｳ) 相談支援専門員交流会（1 月）	○
保育所等訪問支援事業の継続強化	保育所等訪問支援事業の支援者を育成	①事業継続強化について体制の検討	① ｱ) らみいスタッフとの連携訪問実施（毎月） ｲ) 各学校へ事業案内配布（4 月） ｳ) 新たに 2 名体制でスタートし、6 月より 1 名での訪問もスタート	△
人材育成のマニュアル化	専門職を計画的に育成するためのマニュアル化	①各専門職に応じた人材育成のマニュアル作成	① ｱ) 感染症予防指針の作成（1 月） ｲ) らみい療育マニュアル打ち合わせ（2 月）	△

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
業務の効率化による働きやすい環境づくり	ICT の活用による業務の効率化	①記録、個別支援計画の ICT 化準備	① ｱ) 5名分の試験導入開始（6月） ｲ) 操作説明書の作成（7月） ｳ) 基本情報の入力（8月） ｴ) サビ管へ操作説明（11月） ｵ) サビ管による操作（12月） ｶ) 一部スタッフへ操作説明（1月）	△
センター機能の再編	市と協議し今後の方向性を決定	①各事業の方向性を検討	① ｱ) 重心施設新設に関する情報収集	△
必要なスペースの確保	事業の再編等の検討によるスペースの確保	①定員、事業内容について対応策を検討	① ｱ) 研修室を療育スペースとして活用（4月～） ｲ) 駐車場白線引き直し1台分の駐車スペース増（8月）	△

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
療育の入り口部分での相談支援	障害児相談への特化（セルフプランの解消）	①成人ケースの受け皿について市と協議開始	① ｱ) 会議等で都度方針を伝えているが、協議は持てず。委託相談で成人新規ケースあり ｲ) 新規相談支援事業所へ成人ケース移行についての相談（1月）	△
トゥモロー（生活介護・放デイ）の事業展開	市と協議し今後の方向性を決定	①利用ニーズの把握 ②今後の方向性を検討	① ｱ) アンケート及び法人満足度調査の実施（9月） ｲ) アンケート調査結果共有（10月） ｳ) アンケート結果の話合い（1月） ② ｱ) 未着手	△
家族支援の充実	保護者間の交流と療育力向上	①家庭療育支援講座の導入を検討	① ｱ) ペアレントトレーニング研修会へ児発管が参加（6月）	×

(4)　財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
安定した給付費収入の確保	専門職の配置による専門的支援加算の継続取得	①ニーズに応じた適正配置の検討、配置	① ｱ）10月より配置変更し安定して加算取得できる体制に変更	○
	必要な職員の適正配置	①適正な配置数の把握 ②継続した職員募集、採用	①② ｱ）6月「らみい」保育士1名採用 ｲ）1月トゥモロー看護師新規採用 ｳ）3月保育士1名、児童指導員1名、公認心理士1名、採用に向けて面接を実施	○
安定した利用率の確保	事業ごとの月次目標対利用率の視覚化	①年度登録数に応じた目標値の設定と達成状況把握による進捗管理	① ｱ）事業ごとに利用率、実績達成状況が見えるシンプルな資料を作成し、部会議にて月ごとに達成状況を共有（毎月） ｲ）受け入れ方法を再検討し、午前2グループ稼働から曜日によっては3グループ稼働へ変更	△

(5)　地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
児童発達支援センターに求められる役割を担う	報酬改定に対応した体制の検討、実施	①制度改正の情報収集と体制構築の検討 ②定期的な行政との協議	① ｱ）報酬改定に関するオンラインセミナーを受講（6月） ｲ）オンライン研修へ参加（1月） ｳ）事業者説明会受講(3月) ② ｱ）未着手	△
地域ニーズに応じた療育の実施	遠隔地での療育の検討、実施	①利用ニーズの把握 ②市町との協議	① ｱ）新温泉町放デイとの交流会（12月） ② ｱ）未着手	△
地域の障害理解と人材育成	地域に向けた啓発活動や研修会の実施	①地域に向けた研修会を開催	① ｱ）研修委員会を開催(10,11,1,2月) ｲ）研修の開催（12月） ｳ）アンケートの実施と集計	○

3. 事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	件	件	件	件	件	件	25 件	25 件	0 件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	その他	忘れ物等	書類等	車両関係		
ヒヤリ件数	15 件	5 件	3 件	2 件	件	件

4. 出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　エスポワールこじか
施設長　掃部　久美代

エスポワールこじか基本方針

1. 利用者一人ひとりを大切に、専門性を生かした支援を目指します。
2. 利用者の個性及び人権を尊重し、健やかな成長に向けて総合的に支援を行います。
3. 地域の保健・医療・福祉等との綿密な連携を図り、地域と共に歩む施設を目指します。

第 5 期中期計画のビジョン

地域に必要とされる資源（物も人も）になるよう自立を目指す

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画での 1 年目の重点目標として会議の活性化、リーダー育成、IT 機器の利用の 3 項目を重点目標として取り組みました。有意義な会議を進めるためのリーダー的な発想方法を学ぶための学習は、研修後の伝達研修、「日々を生きる力」読後のコメントだけで終わっています。コミュニケーション研修の受講などは出来ませんでした。ただ、それぞれの職員の療育に係る知識、経験は充分なものがあり、それを表出できる表現力をリーダーが導かせることがなかなか出来なかったと思います。

各プログラムに対するリーダー育成は、昨年度の複数担当から単独担当にしたことで、責任あるプログラム作りが出来てきています。

IT 機器の活用につきまして、LINE を使用しての保護者との連絡方法の確立、療育場面での zoom 使用によるコミュニケーションなどの実施などは出来ました。年度途中に意思伝達方法につき、2024 年度に使用する準備が出来つつあります。

他、重要な目標利用人数の達成ですが、目標 2,009 人に対し、実績 1,975 人となり目標を下回りました。2 月に職員間で発症しました新型コロナ感染症の罹患により、4 日間の休園を余儀なくされた影響もあります。

その他、今年度掲げた目標は、概ね進展しております。

1. 事業概要

開設年月日：2011 年 4 月 1 日（委託開始）

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害児通所支援事業　（第 2 種）	児童発達支援	10 名	身体・知的障害児童	2013 年 4 月 1 日
障害児通所支援事業　（第 2 種）	放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ	10 名	身体・知的障害児童	2013 年 4 月 1 日
相談支援事業　（第 2 種）	特定相談支援	－	障害児	2014 年 10 月 1 日
	障害児相談支援	－	障害児	

2.推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
理念を学ぶ機会の継続	聖書の朗読 理念研修	①朝礼にて朗読 ②理念勉強会 1 回、キリスト教福祉勉強会 2 回	① ｱ)「日々を生きる力」を一人で朗読＋コメント ② ｱ) 法人キリスト教福祉基礎研修 3 回出席（山根）	○
多様な専門研修の継続	ビデオ研修の継続 スーパーバイザーによる研修 専門研修の受講（障害児支援や資格取得など） その他（虐待防止、身体拘束、感染症予防など） 伝達研修	①各担当年 2 回 ②心理士による研修 ③発達障害実務者養成研修 強度行動障害支援者養成研修 ④担当による企画と実施 ⑤伝達研修の計画実施	① ｱ) 各担当年 1.5 回 （保育士 6 名中 3 名が 2 回実施） ② ｱ) 中江、稲垣心理士研修 4 回 ③ ｱ) ひょうご発達障害者支援センタークローバー　8 回（藤原） ｲ) 1/16・23web 研修（奥） ④ ｱ) 虐待防止 2 回、身体拘束 1 回、感染症 2 回研修 ⑤ ｱ) 伝達研修 3 回	◎
会議等の質を高める	会議等を活性化する（積極的発言・進行や参加意識の向上）	①報告・発表の実践 ②コミュニケーション研修受講	① ｱ) 朝礼時の自分の言葉でのコメント伝達研修会での報告など実施 ② ｱ) 受講できず	△
スタッフの人事考課を継続	こじか用の人事評価表を活用して実施する	①人事考課・フィードバック面接の実施	ｱ) 児童発達支援管理者より契約職員へのポジティブ思考の面談実施	◎
計画的な OJT を継続する	施設見学の OJT を継続する 園訪問の OJT を継続する	①ロールプレイを交えた実践 ②実践と報告会の実施	① ｱ) 4 回実施 ② ｱ) 実践 4 回、報告会 2 回実施	○

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
業務等の役割分担によるリーダー育成	リーダーによる手順書の作成	①各担当業務の習得	ｱ）一人で担当業務遂行 ｲ）手順書は作成出来ず	△
委員会を強化する	各委員会のリーダーを育成する	①委員会の目的、内容の理解。委員会の開催	ｱ）委員会の活動　実施	○
オープン療育を継続する	オープン療育の実施	①オープン療育の計画と実施	ｱ）12/5　9家族参加（全家族契約）	◎
ホームページを魅力あるものにする	ホームページの見直し	①内容検討会議 イメージ図作成	ｱ）イメージ検討実施	×

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
学習会の継続実施	保護者学習会の実施 グループ学習会の実施	①年6回以上 ②2グループ以上に実施	① ｱ）年6回実施 ② ｱ）2グループに実施	○
保護者同伴の療育を活かして相談に対応する	グループ毎の相談日を設ける Dr療育相談の提供	①グループ相談の計画と実施 ②大森Dr相談実施	① ｱ）年4回実施 ② ｱ）8回/年実施	○
ITを利用した療育の実施	療育にzoomアプリを活用した活動を入れる ITを利用した療育について情報取集する	①zoomの試行 ②ITの利用について情報収集	① ｱ）zoomを活用した活動5回 ② ｱ）意思伝達装置（スマホアプリ、VOCAなど）による現場での使用の検討	△
保護者満足度調査の継続	保護者満足度調査の実施	保護者満足度調査の実施と公表	ｱ）9月調査（53家族、回収率100%）の実施と12/8HP公表実施	◎

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
確実な連絡方法を確立する	情報収集と実施	連絡方法について情報収集・試行	ｱ）10 月より LINE による保護者への連絡開始	◎

（4）財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
目標利用数の達成	目標利用人数対比を意識する	①毎月の実績報告にて意識する（児童発達目標 2,009 人、相談事業 249）	ｱ）毎月の職員会議にて報告（児童発達 1975 人、相談 269 人）	△
2024 年度からの指定管理継続を目指す	指定管理継続の準備	①事業報告、運営委員会での評価継続更新準備	ｱ）9 月指定管理申請 12 月養父市議会にて可決 2 月基本協定書締結	○
保護者の要望に沿った振替時間の設定	月 30%の振替	①個別の設定 ②担当以外での対応	①② ｱ）欠席数 624 人　振替数 202 人 振替率 33.5%	○

（5）地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
関係機関との連携を強化する	児童施設等との年 1 回の連絡会や引継ぎの実施	①放デイとの説明会や引継ぎを実施	ｱ）12/12 放デイ「めぐみ」説明会実施 ｲ）園・校訪問 24 回実施	○
地域の会議等への協力を継続	2 市 1 町の会議等へ参加	①各自立支援協議会等への参画	ｱ）養父市、朝来市、香美町の自立支援協議会に延 45 回出席	◎
育児相談を実施する	育児相談受入れの体制作りと周知	①体制作りと周知の実施	ｱ）地域の育児相談の周知実施 ｲ）利用契約していない保護者相談を受ける（2 名）	△

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
地域に協力できることをする	出来る事を実践する（講師依頼受付、災害時の協力など）	①協力可能な事を情報収集	ｱ）法人内での感染対応職員派遣（延 7 名） ｲ）子育て支援研修生受け入れ実施	△

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	誤配、忘れ	転倒	切傷	打撲		
ヒヤリ件数	6 件	3 件	2 件	2 件	件	件

4.出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　神戸聖生園
施設長　加藤　成久

神戸聖生園の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 本人、家族の思い、また将来の夢や希望の実現に向けたサービスを実施します。
3. 全スタッフが力を集結し、総合力を持ってチームとして支援を実施します。
4. 「利用者主体」を支援のキーワードに、利用者参画が見える支援を実施します。
5. 地域行事・活動への計画的に参加し、利用者が地域の役割を果たす支援を実施します。
6. 利用者の安心・安全を守るため、建物・設備の改修を計画・実施します。

第 5 期中期計画のビジョン

すべての利用者・職員にとって魅力ある生き生きとした施設にする。

2023 年度の事業報告について

今年度はコロナ禍の 4 年間からの脱却から始まり、縮小・中止していた活動を徐々に再開しました。特に心配された地域との関わり(講師依頼等)のある「3B 体操」「太極拳」「ことぶき喫茶」や「ボランティア」受入れについては活動場所開拓・再オリエンテーションを実施し再開しました。4 年の変化は大きく「ボランティア活動はできなくなった」という方もありました。

また、生活介護事業になって丸 3 年が経過し、これまでの活動内容について評価を受けた年となりました。作業活動は縮小し個別プログラムが主となる中で、オリジナル紙漉き紙の商品製作や、作品展への応募では良い評価をいただく一方で、もっと「作業」がしたい方、個別活動に馴染めない方等、他事業所との併行利用や別事業所へ転園される方がありました。これは神戸聖生園の生活介護支援力がまだまだ足りてないと真摯に受け止めて、工夫を加えて活動内容を変更、神戸聖生園の強みとして活かしてアピールし、利用増に繋げます。

職員育成、強化策として「豊岡ブランチ：自閉症スペクトラム障害」コンサルティングや内外研修受講、特に重度者、強度行動障害者支援レベルアップに取り組みました。また年度末 2～3 月、県の「強度行動障害者地域生活支援事業」にご本人、ご家族と共に参加、大きな成果が得られそうです。そして法人求人活動の「見学会」や「インターンシップ」への協力、各学校からの学生実習も受入れました。

上半期に昼食費用の値上げを実施、反対意見等なく継続中です。次年度の加算条件変更に合わせてご利用者の健康維持管理を食事提供の切り口で捉える支援提供準備を行いました。

1. 事業概要

開設年月日：1982 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	60 名	知的障害者	2008 年 4 月 1 日

2．推進状況

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
組織力の向上	神戸聖生園の組織の安定	①ビジョンの共有と安定した職員配置	職制会・支援課会議で ｱ)「ビジョン」、「ワークライフバランス」、「家族ニーズ」について確認（4・5・6・7・8・9・11・1・2・3 月） ｲ)「業務の合理化」、「BCP」について確認（7・8・9・11・1・2・3 月） ｳ)「地域公益の視点」を確認（8・9・11・3 月） ｴ) 次年度体制準備(1・2・3)	○
やりがいの創出	研修の実施と役割の明確化	①研修の実施と実践	ｱ) 内-外部研修を職員受講(4～3 月) ｲ) 他事業所見学、2 名実施(7 月) ｳ) 第 3 者評価事後セミナー(5 月) ｴ) 豊岡ブランチ研修(7・11・2 月) ｵ) 強度行動障害者支援者研修 1 名(12 月) ｶ) サビ管更新研修 1 名受講(2 月) ｷ) 法人理念研修(全職員)(2 月) ｸ) 自閉症スペクトラム障害研修(2 月) ｹ) 強度行動障害地域支援事業研修(3 月) ｺ) 総合職員研修発表会(3 月) ｻ) 虐待防止研修(全職員)(8 月～複数回)	◎
ワークライフバランス	職員のメンタル面への配慮	①職員休憩場の確保	ｱ) 同課題について意見交換は行われたが、職員休憩場所の具体策提案に至らず	△

(2)業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの策定	カテゴリごとのマニュアルの策定・改訂	①第三者評価の共有	ｱ) 第三者評価事後セミナーを受講、「マニュアルについて」研修を受講(5 月) ｲ) 利用者支援実施書のマニュアル改訂実施(2・3 月)	○
紙漉き活動のプロジェクト化	紙漉き活動の継続	①紙漉き活動の安定した活動	ｱ) 現行体制で可能な範囲で実施継続（4～9 月） ｲ) 2024 年度カレンダー企画･作成･宣伝･販売実施(10～2 月) ｳ) 2025 年度バースデーカード企画準備	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
業務の合理化	業務効率化の推進と見直し	①業務の見直し	ｱ) 活動班ごとに可能な範囲でデスクワークの時間を設け、月に1名のペースで実施(4～9月) ｲ) デスクワーク時間継続も具体策提案には至らず	○

(3)顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上	自閉症、重度化に対する専門性の向上	①研修の実施と実践	ｱ) 豊岡ブランチ来園　実際の支援の場を確認。(7月) ｲ) 資格取得者をさらに増やすために強度行動障害支援者養成研修受講延べ 5 名申請(4～12月)・4名受講(10・11・12月) ｳ) 強度行動障害地域支援事業に申請、家族、主治医、職員を巻き込んで実施準備継続。前期の選には漏れたが後期に向け継続（4～9月）実施(2～3月) ｴ) 強度行動障害地域支援事業について学びの研修・共有実施(3月～次年度へ)	○
活動の充実と活動場の工夫	ソフト面での活動に関する立案	①アセスメントの実施	ｱ) 活動班ごとに活動内容検討会実施（4～2月）と活動実施(6・7・9月)	◎
ご家族の高齢化に対応できるように他機関との連携を図る	ライフサイクルに応じた家族支援の実施	①家族ニーズ調査アンケート実施	ｱ) 担当者会議を実施、下半期にアンケート実施（1月）まとめ(3月) ｲ) 担当者会議継続とモニタリング・個別支援会議の実施(1～3月)	△
自前給食の提供	自前給食の継続	①利用者のニーズの調査と実行するための調整検討	ｱ) 利用者の昼食メニュー嗜好調査を実施(7月) ｲ) 厨房パート職員1名求人活動実施（8～9月）採用(10月) ｳ) 利用者の健康維持活動準備(10～3月)(栄養士を軸に)	○

(4)　財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
収入をえるための情報収集	加算の取りこぼしゼロ（加算制度の学び）	①職制会での加算学習会	ｱ）職制会で前月の収支確認と分析実施（4～3月） ｲ）職制会で加算学習会を実施（8・9月） ｳ）報酬改訂について精査と申請準備（12･1･2･3月）	○
人件費の適正化	収支バランスの安定	①適材適所に応じた職員配置	ｱ）支援課支援員求人活動継続 ｲ）求人応募有るもいずれも決まらず	△
新たな活動の場を立案して利用者の安心と生き甲斐活動の充実を図る	ハード面での活動に関する立案	①利用者特性に応じた活動場の検討	ｱ）担当者会及び現場の居場所作り活動継続（4～9月） ｲ）計画の次年度継続と具体案準備実施（改装計画場所の片付け）	△

(5)地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
ボランティアの受入再開	地域の活動への参加	①地域喫茶への参加、太極拳参加の再開	ｱ）地域「ことぶき喫茶」への参加、3B体操・太極拳活動の再開･継続（4～3月） ｲ）おいでやすカーニバル実施（担当園)） ｳ）クリスマスカード配布とクリスマス会招待	◎
地域清掃の定着と継続	地域清掃の再検討と実施	①地域清掃のあり方の検討	ｱ）友が丘地区清掃を毎週1回実施（4～6、8～11月） ｲ）竜が台ゴミステーション清掃を毎週月曜日に実施（4～3月）	◎
社会参加と学習支援の実施	地域生活に必要な学習支援や社会活動の実施	①バス乗車の学習会、調理経験等の実施	ｱ）神戸市バス「乗車マナー講習会」実施（6月） ｲ）神戸市立博物館（特別拝観）参加（7月） ｳ）HUG+展作品応募（6～9月） ｴ）第1回神戸聖生園作品展実施（2～3月）	◎

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	5件	件	2件	件	1件	件	26件	34件	0件

※利用者・職員への他害行為12件、内線電話機の紛失等3件、車両事故2件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	その他	誤薬	異食			
ヒヤリ件数	18件	2件	2件	件	件	件

※利用者・職員・椅子等への他害・破壊行為6件　納品作業確認1件

4.出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　グループホームせいれいやまて
施設長　加藤　成久

グループホームせいれいやまての基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供するために環境整備を実施します。
3. 利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
4. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
5. 世話人・支援職員らが協力して支援内容を工夫し、温もりのある事業所を目指します。

第 5 期中期計画のビジョン

すべての利用者・職員にとって魅力ある生き生きとした施設にする

2023 年度の事業報告について

年度を通して安定してご利用いただけました。一昨年クラスターを経験した新型コロナ感染症陽性者は確認されませんでした。コロナ禍前の各利用者本来の生活パタンに戻りつつあります。

ご家族の都合で帰省が難しくなったり、高齢となり動ける間にそろって旅行するような、家族との時間を大事にされるケースが増えています。それぞれの生活や人生で、コロナ禍で実現できなかったことを取り戻され、グループホーム本来の、各自の家としての役割が元に戻ってきています。

職員体制については、病気や本人都合による離職が相次ぎ、年度を通して安定しませんでした。しかし職員求人は様々なチャンネルを通して多くの職員と出会うことができて、次年度に向けた職員確保ができました。ただ、短時間に複数の職員が入れ替わり、職員育成の時期がわずかにずれながら重なったので､バックアップ事業所からの人的応援の機会が随分増えました。これは新年度にかけてもしばらく続く可能性が高いものです。

ご利用者が通われる事業所が多くなり、その連絡調整は増々複雑になりつつあります。ご利用者は変わらず元気に事業所へ通っておられます、そこに安心、安全が保てて、楽しい時が過ごせる魅力のある生き生きしたホームを目指します。

1. 事業概要

開設年月日：2005 年 8 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	10 名	知的障害者	2006 年 10 月 1 日

2. 推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
組織力の向上	組織の安定	①ビジョンの共有化 ②安定した職員配置 ③バックアップ職員と情報共有継続	① ｱ）毎月のミーティングに施設長が出席神戸聖隷ハンドブックを使用して法人の歴史、理念を学ぶ機会を作りビジョン共有を実施（4～3月） ② ｱ）サビ管の働きを通して情報共有を実施。（4～3月） ③ ｱ）職員配置が不足している場合は神戸聖生園からフォロー（配置） ｲ）複数のメンバーでフォローできるように準備実施	○
やりがいの創出	研修の実施と役割の明確化	①研修の実施 ②研修報告会の実施と支援の実践	① ｱ）支援員が神戸光生園おおまち、せいれいやさかだい友が丘事業所の事業所見学を実施 ② ｱ）虐待防止研修全員実施 ｲ）自主研修助成制度利用有だが、結果的に支援向上には繋がらず（離職）	△

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの策定・改訂	カテゴリーごとのマニュアルの策定・改訂	①マニュアルの整備	ｱ）緊急時の利用者プロフィールの作成（4～12月）･完成（1月） ｲ）一部のマニュアル策定実施	○
業務の合理化	業務効率化の推進と見直し	①業務の見直し ②職員配置の適正化	① ｱ）日々の支援の中で工夫はできているが、まとめや活字化、可視化等に至らず ② ｱ）年度内の離職にはすぐに対応できた職員配置適正･充足	○

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上	研修受講	①全職員の研修実施	ｱ) 虐待防止研修の実施完了 ｲ) 他の全体研修の実施には至らず ｳ) 勤務の都合上全体研修の開催難	○
情報共有	家族会の実施	① 家族会の立ち上げ ② サビ管を中心とした情報の共有化	① ｱ) 家族会の立上げを検討も未実施 ｲ) 連絡方法として別の方法も検討 ② ｱ) ラインや連絡帳を通じて情報共有実施。課題は多くさらに工夫必要、（ルール化等）	△

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	上期実施状況	達成度
収入を得るための情報収集	加算の取りこぼしゼロ(加算制度の学び)	①職制会での加算学習会	ｱ) 職制会で前月の収支確認と分析実施。 ｲ) 職制会で加算について 2 度、自主学習会を実施。	○
人権費の適正化	人件費の適正化	①収支バランスの安定	ｱ) 人材確保のために人材派遣から 2 名を雇用 ｲ) 人材紹介から 1 名雇用	○

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	上期実施状況	達成度
地域清掃の定着と継続	地域の活動への参加	①清掃を通して地域貢献	ｱ) 未実施(ゴミ当番等の役割から) ｲ) 地域との関係構築に至らず	×

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	1件	件	件	件	件	件	2件	3件	1件

※職員への他害1件:中指捻挫、労災対応　　車両事故1件　ホーム車庫シャッター破損
※報告に挙がってない内容：洗濯物の取り違えや荷物忘れ

ヒヤリハット報告

種別（多い順）						
ヒヤリ件数	件	件	件	件	件	件

※ヒヤリハット報告では挙がらず。申し送り事項での確認のみ

4.出来した事案
（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　グループホームたいのはた東
施設長　加藤　成久

グループホームたいのはた東の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供し、日常生活の充実と豊かさを提供します。
3. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
4. 世話人・支援員・関係者が協力し、お互いに認め合う温もりのある事業所を目指します。
5. 将来グループホームを希望される利用者の体験利用を応援します。
6. 地域の福祉相談窓口として、社会福祉で地域に貢献できる事業所を目指します

第 5 期中期計画のビジョン

すべての利用者・職員にとって魅力ある生き生きとした施設にする

2023 年度の事業報告について

年度を通して、安心してご利用、また安定的な支援提供ができました。

特に心配された新型コロナウィルス感染陽性者は確認、発症されることなく過ごせました。

各ご利用者の生活、帰省状況もコロナ禍前の落ち着きを取り戻しつつあります。ご家族の高齢化や病気等で帰省できなくなったり、回数が減っていることもありますが、その分ご家族との大切な時間の内容が濃くなっているようにも感じられます。

日中支援事業所との連絡のやり取りは､様々な状況に対応しつつ複雑になってきていますが、ご自身の家として、ご利用者の安心・安全と楽しい時間を提供するというグループホームの本来の支援の提供の姿に近づいています。

6 月に再開した体験型利用については　宣伝が足りないのか利用大幅増には至りませんでした。まだ受入れに余裕がある状況ですから、体験利用者、経験者を増やしてスムーズなグループホーム利用に繋げたく宣伝、営業の機会を増やしてまいります。

ご家族や後見人、関係事業所とのよりスムーズで密な連絡体制の構築は家族会設置の是非と合わせて継続して検討し取り組みます。

1. 事業概要

開設年月日：2016 年 2 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助 (体験利用型含む)	6 名	知的障害者	2016 年 2 月 1 日

2. 推進状況

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
組織力の向上	組織の安定	①ビジョンの共有化 ②安定した職員配置 ③バックアップ職員と情報共有継続	① ｱ)毎月の職員ミーティングに施設長が出席、神戸聖隷ハンドブックをを利用した研修実施(法人の歴史、基本理念、虐待防止等)(4～3 月) ② ｱ) 勤務時間の変更等の調整実施、退職等は無く職員体制安定(4～3 月) ③ ｱ)日々の報告と毎月のＭＴで情報共有実施(4～3 月)	◎
やりがいの創出	研修の実施と役割の明確化	①研修の実施 ②研修報告会の実施と支援の実践	① ｱ) 複数回に分けて虐待防止研修を実施 (5～2 月) ② ｱ) 報告会の形はとれなかったが、神戸聖生園職員研修に加わって研修の機会を持った	○

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの策定・改訂	カテゴリーごとのマニュアルの策定・改訂	①マニュアルの整備	ｱ) マニュアルの変更、更新に合わせて整備実施(4～3 月)	△
業務の合理化	業務効率化の推進と見直し	①業務の見直し	ｱ)日々の業務見直しのまとめに至らず	△

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上	研修受講	①全職員の研修受講	ｱ) 内部研修で理念研修と虐待防止研修を実施 ｲ) 専門性に係る研修は未実施	△

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
情報共有	家族会の実施	①家族会の立ち上げ	ｱ) 未実施 ｲ) 別の方策も検討する	×

（4）財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	上期実施状況	達成度
収入を得るための情報収集	加算の取りこぼしゼロ (加算制度の学び)	①職制会で加算学習	ｱ) 職制会で毎月（前月）の収支の確認と分析を実施（4～3 月）	○
人権費の適正化	人件費の適正化	①収支バランスの安定	ｱ) 職員体制安定 ｲ) 職員の高齢化対策検討	○

（5）地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	上期実施状況	達成度
地域清掃の定着と継続	地域の活動への参加	①清掃を通して地域貢献	ｱ) 地域のゴミステーション清掃を順番に入って実施(4～3 月)	◎

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	件	件	1 件	件	件	件	4 件	5 件	0 件

※利用者同士の口喧嘩、利用者が不調で家電を壊した件等

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	その他					
ヒヤリ件数	2 件	件	件	件	件	件

※報告外で利用者の心身の不調記事が業務日誌で確認共有された

4.出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　神戸愛生園
施設長　加藤　　航

神戸愛生園の基本方針

1. 唯一無二の存在である利用者の命を守り、その人らしい生活が送ることができるように支援します。
2. 態度、言動がどのような影響を与えるかよく考え、人権に配慮したケアに努めます。
3. 利用者のニーズに基づき、従来からのサービスに固執せず、神戸愛生園の総合力を持って柔軟にサービスを提供します。
4. 施設機能の情報提供、相談を積極的に行い地域に必要とされるよう努力します。

第 5 期中期計画のビジョン

40 年を迎え、築いてきた歴史を再認識、時代の変化に合わせて守るもの、変えるものの選択。暖かな空気感、人間味、家族観の継承。

2023 年度の事業報告について

4 月の年度当初より定員が充足、2 名のロングショートも確保しスタートしましたが 5 月頃より入院者、退所者が続出しました。補充もしましたが、最後まで欠員を埋めることができませんでした。

1 年延期した 40 周年記念事業では集合写真、記念誌発行に加え、年間を通して記念外出を行い、ご利用者、職員ともに思い出になる機会が持てました。

EPA は 2018 年以来ジャカルタでの現地面接会に参加し、1 名の女性候補者とマッチングに成功しました。来年 12 月に着任予定です。

入所事業の夜勤を早出深夜から通し夜勤方式に変更しました。これにより公共交通機関運行中に通勤が可能となり、職員の安全・防犯対策や現代的な傾向（免許や車を持たない）に対応することができました。また仮眠時間を確保できたことで、労働環境の改善にもなりました。

施設の建替えプロジェクトが法人の牽引により急遽始まり、聖隷福祉事業団への見学や基本構想の策定に至りました。

1. 事業概要

開設年月日：1982 年 5 月 10 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設　（第 1 種）	施設入所支援	50 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	60 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	短期入所	5 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
公益事業	神戸愛生園診療所	―	―	1984 年 4 月 10 日

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
人材定着と中堅職員の底上げ	基本的な介護・支援技術の定着	①研修計画の見直し	① ｱ）新しい研修計画を基に価値観を共有する話し合いを3回実施（支援課会議）	△
	共に笑顔になる体験	①40年記念外出 ②記念誌発行	① ｱ）延べ13回の記念外出を実施できた ② ｱ）3月に発行完了	◎
理念の浸透	理念に対する各自の行動目標の明示（通称：理念の樹）	行動目標の実践、振り返り	ｱ）全職員の自己アピールボード作成、と理念の樹へ写真掲示 ｲ）1月に自己目標振り返りシートにて振り返り実施	◎

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
業務内容の見直し	働きやすい勤務体制への見直し	①勤務体制の見直し ②業務の棚卸、整理	① ｱ）6月にパート勤務2交代制に見直し完了。11月より通し夜勤2名体制への見直し完了 ② ｱ）まずは入所主任業務の棚卸しから開始決定。整理は未達成。	◎ △
	マニュアルの再整備	①勤務体制の見直しに伴うマニュアルの整理	ｱ）通し夜勤変更につき、対応のマニュアルの改訂を実施	◎

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
利用者主体の支援の実現	意思決定支援に基づく実践	①意思決定支援の切り出し・実践 ②満足度調査	① ｱ）医務会議で意思決定支援資料の読み合わせを実施。他部署では行えず ② ｱ）満足度調査実施完了	△ ○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
施設老朽化への対応	神戸愛生園の建て替え	①検討委員会の発足と建て替え案の検討	ｱ) 5/29～30 聖隷福祉事業団見学 ｲ) プロジェクト委員会 (6/12,7/13,8/10,9/12、 11/2,12/26,1/29,3/11) ｳ) 基本構想策定	◎

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
支出の見直し	時間外勤務削減への取り組み	①現状分析と対策試行	ｱ) 突出して多い入所主任・副主任に働きかけて削減を促すと共に、産業医の面談も実施	△
	経費節減の意識化	①22 年度分析と取り組みの促進	ｱ) 物価高騰により取り組み困難 ｲ) 消耗品担当職員が経費維持のため業者選定実施	△
収入の安定	定員の充足と空床機関の短縮	①定員の充足とロングＳＳの確保	ｱ) 入所候補者のロング SS を延べ２名、234 日間受入実施。	○
	SS 利用率の向上	①併用利用の実施 ②新規利用開拓 ③受入体制の見直し	① ｱ) 併用利用実施 ② ｲ) 新規利用者６名と契約 ③ ｳ) 感染防止対策による受け入れ制限、上半期は継続	◎

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域とのつながりを取り戻す	ボランティア受け入れの再開	①登録ボランティアへの働きかけ ②受入体制の再構築	① ｱ) 複数の団体、個人の登録の方に連絡してみたが、活動されていない方がほとんどであった ② ｱ) 啓明学院のボランティア交流が復活。年間通して活動があった	○ ◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域とのつながりを取り戻す	地域行事への参加	①地域行事参加・交流	ｱ)おいでやすカーニバルの規模を大きくして開催 ｲ) Tunagariで栄養の日イベント実施 ｳ) 3/17 こんにちはカーニバルに利用者・職員で参加し交流した	◎

3. 事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	1件	3件	件	件	件	件	2件	59件	65件	0件

その他：配薬ミス2件、服薬漏れ12件、服薬飲みこぼし23件、受傷7件、物損等15件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	環境面	支援関係	その他			
ヒヤリ件数	22件	8件	2件	件	件	件

※その他：職員の配慮、声掛けへの感謝（ニヤリホット）

4.出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　きたすま障害者相談支援センター
施設長　三木　卓也

きたすま障害者相談支援センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者（児）とその家族等からの相談に対し、必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係諸機関との連携を図り、障害福祉サービスの利用援助（サービス等利用計画の作成を含む）等適切な支援を行います。
2. 相談者の意思及び人権を尊重して障害特性や本人・家族のニーズ等を的確に把握し、公正・中立性を保ちつつ常に相談者の立場に立った地域生活支援の提供に努めます。
3. 相談者やその家族等のニーズ、想いを受け止め、適切な助言や情報提供等の支援ができるよう、職員の専門性の向上に努めます。
4. 障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域を目指し、須磨区自立支援協議会の事務局として活発な運営を専門性とチームワークで行います。

第 5 期中期計画のビジョン

障害のあるなしに関わらず誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことができるよう、望みごとや困りごとが気軽に相談できる身近なセンターを目指します。

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画の初年度は、神戸市からの事業委託（5 年間）の 3 年目でした。コロナ禍の影響も新たな局面を迎えましたが、障害のある方やそのご家族が住み慣れた地域で孤立することなく社会とのつながりを感じ、必要な障害福祉サービスを利用しながら安心して日常生活を過ごすことができるよう、身近な相談窓口としての役割を担いました。

今年度は障害児相談支援サービスを推し進めることを重点実施課題として積極的に行い、センターの計画相談受任ケース数全体の 1 割に達し、発達の気になる子どもを持つ保護者の療育や将来に対する不安や孤立感に寄り添いフォローに努めました。

また、幅広い知識や情報への精通が求められる相談員の資質向上のため、ケース検討会議、個別スーパービジョン、個別ヒアリングを継続的に行い、内部研修の一環として、ひょうご障害者相談支援センターとの交流研修を新たに実施してスキルアップを図りました。

さらに、関係機関との連携を深めるため、須磨区自立支援協議会の取り組みにおいて、親子部会主催の「不器用さを持つ子どもへの理解と支援」講演会の開催、すまいんど部会主催の「すまるしぇ」（事業所自主製品の販売会）、ともいき部会主催の「権利擁護研修会」、就労支援部会主催の「事業所見学会」、まなぼー!!部会主催の「精神障害の勉強会」、相談支援部会主催の「ケアマネとの交流会」を企画・実施、障害のある方への理解と啓発を推進しました。

公益的な取り組みにおいては、須磨区社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット須磨）の「研修」チームとして、施設見学会の企画・実施を通じて分野を超えた横の繋がりを深めました。次年度は、策定済みの BCP 計画の具体的な準備に関連する「災害備蓄品の整備」「災害時要援護者リスト作成」に着手して、災害等非常時にセンターが継続的に機能できるための備えを進めていきます。

1．事業概要

開設年月日：2014 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業　（第 2 種）	一般相談支援	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2014 年 4 月 1 日
	特定相談支援	－		
	障害児相談支援	－		
公益事業	相談支援事業	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2014 年 4 月 1 日

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
相談支援力の向上	定期ヒアリング、スーパービジョンの実施	①教育、管理、支持的関わりによる実施	ｱ）職員との個別定期ヒアリング（6 月、10 月、2 月） ｲ）職員との個別スーパービジョン（毎月） ｳ）グループスーパービジョン（7 月、10 月、1 月）	◎
専門知識、面接スキルの取得	外部研修への参加、内部研修の実施、チームアプローチの実践	①外部研修参加、実践に即した内部研修の実施	ｱ）新任障害福祉事務担当者研修（5 月） ｲ）精神保健福祉支援者基礎研修（6 月） ｳ）再犯防止研修（7 月） ｴ）神戸市虐待防止研修（8 月） ｵ）相談支援従事者初任者研修（8 月、9 月、10 月、11 月） ｶ）相談支援従事者現任研修（8 月） ｷ）初任者基礎研修（9 月） ｸ）医ケア児 CN 研修（9 月） ｹ）ファシリテーション研修（9 月） ｺ）発達障害支援者研修（9 月） ｻ）法人施設研修（9 月） ｼ）内部研修「須磨区地域生活支援拠点について」（9 月） ｽ）オープンダイアローグ研修（10 月、1 月） ｾ）相談支援従事者初任者研修（10 月、11 月） ｿ）精神障害支援研修（10 月、1 月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
専門知識、面接スキルの取得	外部研修への参加、内部研修の実施、チームアプローチの実践	①外部研修参加、実践に即した内部研修の実施	ﾀ) ゲートキーパー養成研修（12月） ﾁ) 神戸市虐待対応力向上研修（12月） ﾂ) 社会福祉援助基礎研修（1月） ﾃ) 精神障害「にも包括」研修（1月） ﾄ) 神戸市自立支援協議会研修（1月） ﾅ) 児童発達施設見学会（2月） ﾆ) 子どもとゲーム依存研修（2月） ﾇ) 地域生活支援拠点事例報告会（2月） ﾈ) 発達障害支援者専門研修（2月） ﾉ) 内部研修「ひょうご支援センター交流会」（3月） ﾊ) 医ケア児コーディネーター研修（3月） ﾋ) つなぐ研修（3月） ﾌ) 法人総合職員研修（3月）	

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
チーム支援体制の構築	所内会議、ケース会議の活性化	①情報共有と支援力向上	ｱ) 職員会議（毎月第1火曜日） ｲ) ケース会議（毎月第3水曜日）	○
組織内の業務分担を平準化する	役割分担表の作成と見直し	①業務の平準化と優先順位付け	ｱ) 職務分掌表の作成と見直し（4、5月） ｲ) 委託業務（調査）の平準化（6月） ｳ) 役割分担表の見直し（7月） ｴ) 担当ケース数の平準化（9月） ｵ) PC内共有フォルダーデータの整理と共通化（10月） ｶ) 在庫郵便切手の使用効率化（1月） ｷ) 旅費精算に係る新様式への一本化（3月）	○
風通しの良い職場環境づくり	超過勤務削減、有給休暇取得、業務改善を推進	①業務の洗い出しと優先順位付け	ｱ) 有給休暇の積極的な取得推進を共有（5月） ｲ) 過去5年超の文書を廃棄（6月） ｳ) 書類管理と廃棄に関するマニュアル整備（7月） ｴ) 車いす貸出事業（区社協委託）に係るマニュアル改訂（9月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
風通しの良い職場環境づくり	超過勤務削減、有給休暇取得、業務改善を推進	①業務の洗い出しと優先順位付け	ｵ）区分認定調査資料作成時のマニュアル化（11月） ｶ）自主製品販売出納事務のマニュアル化（12月） ｷ）各種決裁手順の統一化（2月）	
地域への積極的な情報発信	SNS(Facebook)の活用	①Facebookへ投稿	ｱ）妙法寺川さくらまつり投稿（4月） ｲ）すまるしぇ投稿（6月） ｳ）講演会「不器用さを持つ子どもへの理解と支援」投稿（9月） ｴ）すましあ投稿（10月、11月） ｵ）職員紹介（11月、1月） ｶ）ピアカンウンセリング投稿（3月）	○

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
権利擁護の推進	虐待防止チェックリスト、CS調査を実施	①年2回実施	ｱ）虐待防止チェックリスト（9月、2月） ｲ）CS満足度調査（11月） ｳ）CS満足度調査結果HP公表（1月）	○
障害児相談支援の実施	障害児相談支援を拡充	①3件／70件	ｱ）新規5件 ｲ）更新2件 ｳ）モニタリング12件	◎
計画相談支援・障害児相談支援を拡充する	計画相談支援と障害児相談支援の受任件数増	①72件/契約件数	ｱ）74件/契約件数	○
災害等、非常時の備えと対応	災害時要援護者リストの作成と備蓄品整備	①備蓄品整備とリスト更新	ｱ）非常時設備状況確認（11月） ｲ）BCP打合せ（1月、2月、3月） ｳ）災害時備蓄品在庫確認（1月） ｴ）災害時要援護者リスト作成着手（1月） ｵ）災害時備蓄品購入リスト作成（3月）	△

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
事業を継続して受託する	2026(令和8)年度～の委託更新に向け、行政との連携、情報収集	①神戸市と協議	ｱ) こども・若者ケアラー支援事業検証会議（8月、2月） ｲ) 障害児入所施設からの地域移行調整に係る仕組みづくりについて協議（7月） ｳ) 市町・基幹センター連絡会議に出席（8月） ｴ) 障害者差別解消支援地域協議会（10月、3月）	○
委託業務を適正に実施する	各種調査業務（区分、勘案、移動支援、訪問入浴、同行援護）の確実な実施	①400件/年	ｱ) 障害支援区分認定調査（新規）39件 ｲ) 障害福祉サービス勘案調査 389件 ｳ) 移動支援サービス聴き取り 57件 ｴ) 訪問入浴サービス聴き取り 1件	○
持続可能な事業運営	BCP 計画の策定と更新	①計画案の作成	ｱ) BCP計画案の作成と共有（毎月）	○
体制加算の維持、個別加算の取得	所定研修の受講と個別加算の取得要件の正しい理解	①12件/年	ｱ) 初回加算 9件 ｲ) 集中支援加算 4件 ｳ) 入院時情報連携加算 1件 ｴ) サービス提供時モニタリング加算 4件	○

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域の身近な相談窓口としての役割を果たす	地域の関係機関との連携支援によるアウトリーチ強化	①基本相談の丁寧な対応	ｱ) 他県（宮崎県）から神戸への地域移行支援 ｲ) 債務整理支援 ｳ) 青陽須磨支援学校高等部3年生の卒業後の進路相談	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域の身近な相談窓口としての役割を果たす	地域の関係機関との連携支援によるアウトリーチ強化	①基本相談の丁寧な対応	ｴ) 使用者虐待に係る連携支援 ｵ) 養護者虐待に係る連携支援 ｶ) 外国籍の家庭支援 ｷ) 複合課題を抱える世帯全体への支援	
地域とのネットワーク作りを図る	就労支援機関のネットワーク作りと就労ニーズに対応	①勉強会、交流会の実施	ｱ) 定例会（7月、9月、11月、3月） ｲ) 事業所見学会（9月、10月） ｳ) 事業所交流会（2月）	○
	障害福祉サービス事業所自主製品の啓発と販路拡大	①区役所、コープ等での販売	ｱ) 妙法寺川さくらまつり（4月、3月） ｲ) すまるしぇ（毎月1回） ｳ) コープ×すまるしぇ（毎月4回） ｴ) 冬のギフト販売（12月） ｵ) 定例会（5月、8月、10月、2月）	○
	障害のある方の「権利擁護」「災害時要援護者支援」の実践	①研修会の開催、サポートカードの普及・啓発	ｱ) 定例会 （4月、6月、8月、10月、12月、3月） ｲ) すましあ出展 ｳ) 権利擁護勉強会（2月）	○
	障害のある方の「地域移行支援」の啓発、支援者の資質向上	①研修会の実施	ｱ) 定例会 （5月、7月、9月、11月、2月） ｲ)「精神障害の理解と支援」勉強会 （10月）	○
	障害児支援に関わる機関の関係づくりと支援力の向上	①説明会、交流会の実施	ｱ) 定例会の開催 （5月、6月、9月、1月、3月） ｲ) すまっこナビ説明会（7月） ｳ)「不器用さを持つ子どもへの理解と支援」講演会（9月） ｴ) 事業所交流会（11月）	◎
	相談支援事業所間の連携強化と地域課題へのアプローチ	①学習会の実施	ｱ) 定例会の開催（4月、7月、8月、10月、11月、12月、2月） ｲ) 3区（須磨・長田・兵庫）合同相談支援部会の開催（9月） ｳ) ケアマネージャーとの勉強会（11月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
	発達の気になる子どもを持つ保護者への支援	①ピアカウンセリングの実施	ｱ）ピアカウンセリングの実施 （5月、6月、7月、9月、3月）	○
地域福祉ニーズに向き合い対応する	コア実務者会・実務者会への積極的な参画	①コア実務者会・実務者会への積極的な参画	ｱ）全体会に出席（5月） ｲ）実務者会に出席（9月） ｳ）実務者会研修チーム打合せに出席 （9月、10月、11月、12月、1月、2月） ｴ）施設見学会（1月、2月）	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	その他					
ヒヤリ件数	1件	0件	0件	0件	0件	0件

4．出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　神戸聖隷総合相談センター
施設長　三木　卓也

神戸聖隷総合相談センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者とその家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）の提供等、住み慣れた地域で安心に暮らすことができるよう相談支援を行います。
2. 必要性が高まっている「成年後見制度」に関する相談、情報提供、申立支援を通じて地域のニーズに応えます。
3. 地域が抱える課題のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢に関係なく生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談の対応、ニーズの把握に努め新たなサービスを創造します。

第 5 期中期計画のビジョン

障害のあるなしに関わらず誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らすために、気軽に相談が出来て、憩いの汀となるよう地域と共に歩みます。

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画の初年度は、コロナ禍の影響も新たな局面を迎えたなかで、ビジョンに掲げる「憩いの汀」となるセンターとして、地域の福祉ニーズに応える取り組みに努めました。

事業の中心となる計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）では、法人内の各施設のご利用者を中心に、303 名のご利用者の計画相談を受任、ご利用者お一人おひとりが、必要な障害福祉サービスを安心してご利用できるよう、また、親なき後の生活に備えたセーフティネットの役割に努め、丁寧な相談支援を行いました。

具体的には、8050 問題など予期せぬ家族状況の変化により、これまでの生活から一転して不安に直面されたご利用者の気持ちに寄り添いながら、短期入所、グループホーム、施設入所など、ご利用者の希望を最優先にした生活拠点の調整を行ないました。今後も、同様のニーズが想定されるため、不測の事態に即応することができる支援に努めていきます。

3 年目を迎えました「Tunagari～あつまり処～」は、地域のどなたでも気軽にご利用いただけるカフェとして地域に定着し、今年度初めての試みとして、就労を目指す知的障害のある方の職場体験実習の場所として活用いただきました。

また、恒例の地域共催イベントである 9 月の「おいでやすカーニバル」では、地域のより多くの方々に「Tunagari～あつまり処～」の存在を知っていただける機会となりました。更に、地域の子どもの居場所としての活用に向けて、近隣の学校や児童館、関係行政と相談を重ね、3 月に「Tunagari～こどもひろば～」プレイベントを開催して、多くの小学生や保護者の方々のご参加がありました。次年度は、小学校が長期休みに入る夏、冬、春に年 6 回、地域のこどもが安心して過ごせる居場所として開放し、地域の福祉ニーズに応えていきます。

1. 事業概要

開設年月日：2016 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業　（第 2 種）	特定相談支援	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2016 年 4 月 1 日

2. 推進状況

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
相談支援力の向上	定期ヒアリング、スーパービジョン	①教育、管理、支持的関わりによる実施	ｱ) 定期ヒアリングの実施（6 月、10 月、1 月） ｲ) グループスーパービジョンの実施（毎月）	○
専門知識、面接スキルの取得	外部研修への参加、内部研修の実施、チームアプローチの実践	①外部研修参加、実践に即した内部研修の実施	ｱ) 事業所交流会（制度＆動向勉強会）（7 月） ｲ)「知的障害のある方の自立生活について考える会」(8 月） ｳ)「須磨区地域生活支援拠点」見学会（9 月） ｴ) 意思決定支援研修（11 月） ｵ) ゲートキーパー養成研修（12 月） ｶ) 社会福祉基礎研修（1 月） ｷ) 面接援助技術研修（1 月、2 月） ｸ) 神戸市自立支援協議会研修（1 月）	○

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
チーム支援体制の構築	所内会議、ケース会議の活性化	①情報共有と支援力向上	ｱ) 職員会議の開催（毎月） ｲ) ケース会議の開催（毎月）	○
組織内の業務分担を平準化する	役割分担表の作成と見直し	①業務の平準化と優先順位付け	ｱ) 役割分担表の作成（4 月） ｲ) 職員数に応じた役割分担の見直し（6 月、11 月） ｳ) 担当ケース数の平準化を実施（7 月～9 月、12 月）	△

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
風通しの良い職場環境づくり	超過勤務削減、有給休暇取得、業務改善を推進	①業務の洗い出しと優先順位付け	ｱ）有給休暇の積極的な取得推進を共有（5月） ｲ）関係機関とのメール連絡時に「開封確認」導入を実施 ｳ）夏季休暇を全職員が取得（9月） ｴ）年5日有休休暇取得（3月）	○
地域への積極的な情報発信	SNS(Facebook)の活用	①Facebook へ投稿	ｱ）新任職員紹介記事を投稿（6月） ｲ）職員紹介記事を投稿（9月、1月）	○

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
権利擁護の推進	虐待防止チェックリスト、CS 調査を実施	①年2回実施	ｱ）虐待防止チェックリスト実施（9月、2月） ｲ）CS満足度調査（11月、12月） ｳ）CS満足度調査結果HP公表（1月）	○
親なきあと支援の推進	お一人おひとりの実情に合わせ柔軟なサービス調整を支援(成年後見制度利用促進含む)	①ニーズ把握による支援の実施	ｱ）ご利用者（施設入所支援サービス）の虐待相談の介入調整支援（6月） ｲ）親（認知症）と一緒に入居可能なGHの利用調整支援（7月） ｳ）親の病気のため、急なGH利用調整支援（8月） ｴ）親なき後に備えたGH利用調整支援（9月） ｵ）施設入所から地域生活への移行支援（10月） ｶ)精神科入院から地域生活への移行支援（11月～3月）	○
災害等、非常時の備えと対応	災害時要援護者リストの作成と備蓄品整備	①備蓄品整備とリスト更新	ｱ）未着手	×

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
事業収入（計画相談支援給付費）の安定確保	計画相談支援の受任件数を一定維持	①300件/契約件数	ｱ) 301件/契約数	○
	モニタリング期間の見直し	①12件/年	ｱ) 未着手	×
持続可能な事業運営	BCP 計画の策定と更新	①計画案の作成	ｱ) BCP計画案の作成と共有（毎月）	○
体制加算の維持、個別加算の取得	所定研修の受講と個別加算の取得要件を正しく理解	①12件/年	ｱ) 特別地域加算 4件 ｲ) 入院時情報連携加算 1件 ｳ) サービス提供時モニタリング加算 5件 ｴ) 初回加算 1件 ｵ) 退院・退所加算 1件	○

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
法人神戸地区の身近な相談窓口としての役割を果たす	法人神戸地区各事業所及び関係機関との連携による丁寧な相談支援の実施	①基本相談の丁寧な対応	ｱ) 法人本部経由の一般相談に対応3件（4月、5月、6月） ｲ) 法人内事業所ご利用者に係るサービス担当者会議を開催7件（7月、8月、9月、10月、12月、1月、3月）	○
地域福祉ニーズに向き合い対応する	ほっとかへんネット須磨に積極的に参画	①実務者会への積極的な参画	ｱ) 全体会に出席（5月） ｲ) 実務者会に出席（9月） ｳ) 実務者会研修チーム打合せに出席（9月、10月、11月、12月、1月、2月） ｴ) 施設見学会（1月、2月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域福祉ニーズに向き合い対応する	コミュニティカフェ「Tunagari～あつまり処～」の活発な運営と地域福祉ニーズに応える取り組みの実施	①地域福祉ニーズに基づく貢献活動の実施	ｱ)「Tunagari～あつまり処～」(月・水・金)(138営業日) ｲ) 北須磨団地自治会地域支え愛学習会(5月) ｳ) ワークセンターひょうご訓練生3名実習受け入れ(6月、9月、11月) ｴ) 子ども学習支援の居場所活用に向けて須磨区社協、北須磨団地自治会、多井畑小学校、北須磨児童館、友が丘高校、啓明学院を訪問(7月、9月、3月) ｵ) 栄養の日イベントを神戸愛生園栄養士と協働で開催(8月) ｶ)「つどいの場交流会」(2月) ｷ)「Tunagari～こどもひろば～」プレイベント開催(3月)	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）						
ヒヤリ件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件

4．出来した事案

(1) 特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　神戸友生園
施設長　井上　待子

神戸友生園の基本方針
1. 利用者の障害状況に応じたプログラムの提供に努めます。
2. 利用者のニーズに応えられるよう高い専門性を持って支援を行います。
3. 安心・安全に地域生活が営めるよう支援を行います。

第 5 期中期計画のビジョン
「行くのが楽しい」「利用して良かった」と思っていただける施設を目指します。

2023 年度の事業報告について
2023 年度は行政監査や第三者評価など、施設の運営状況などをあらゆる角度から精査する機会の多い１年でした。その影響もあり、不十分であったマニュアルの整備や今まで実施できなかった資料などを整えることができました。第三者評価時に求められた「サービス向上セルフチェックリスト」を次年度には実施できるよう準備し、ご利用者の満足度を高めるツールとなることを期待しています。
人員確保については、事務員の補充と定着が大きな課題となりました。サービス管理責任者を変更することで人員配置を満たすことはできましたが、職員の負担は大きい１年でした。
財務的には、予算策定時に予定していた利用者確保が叶わず、大きく当初予算を下回る結果になりました。しかし、現有のご利用者に対して職員が細やかな支援を実施し、利用日数を増やしてくださるご利用者もあり、新規利用者の未確保以外では、予算策定時よりも大きく利用率を上げることができました。職員の地道な支援と協力してくださったご利用者、ご家族に感謝です。下半期に開所日数を増やすことを検討しておりましたが、費用対効果が低いことから、当初の予定通りの開所日数としました。結果的に当初予算には至りませんでしたが、積立金は予定通り計上できました。
作業量は一定程度確保ができ、予算を上回る工賃収入となりました。この背景にはご家族がボランティアに来ていただき、大きなロットの作業を受けることができ多くのご家族に協力をしていただきました。
今年度家族の交流会を実施し、家族間で日ごろの悩みを共有するときを持ちました。話題の多くは「親亡き後の生活」で、それぞれのご家族が不安に感じていることや、その時のために行っている事などを話し合うことができました。

1. 事業概要
開設年月日：1984 年 4 月 1 日

種　別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労継続支援 B 型事業	40 名	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2008 年 4 月 1 日

2.推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
他法人、施設の取り組みを学ぶ	他法人、施設を見学し業務や支援内容などを学ぶ	①見学先の選定	ｱ）各職員へ自身の仕事の見直しと、課題を明確にするよう投げかけを行う（5月） ｲ）職員に対して見学先の希望アンケートを実施（6月） ｳ）アンケート回収するが、希望候補がバラつき選定に至らず（8月）	△
実習評価を通してスキル向上を図る	資格取得などの実習受入れを実施	①資格取得などの実習受入れ	① ｱ）兵庫大学より実習受入れの打診あり実習期間を調整（4月） ｲ）ソーシャルワーク実習Ⅱ受入（8/28～9/12）	○
専門性の向上	キャリアにあった研修受講	①法人内、外の研修受講	① ｱ）市社協主催の市民福祉大学研修講座案内から研修内容を精査し対象職員を選定（4月） ｲ）法人内研修 ・一般職員研修（6/5） ・インボイス導入研修（9/19） ・施設長研修（9/28.29） ・事業種別相談研修（10/31、12/6、3/20） ・多職種連携研修（11/7） ・理念講演会（11/9） ・課長研修（11/29.30） ・総合職員研修（3/9） ｳ）外部研修 ・防火管理講習（6/8～6/9） ・市民福祉大学講座（会計）受講（7/28） ・市民福祉大学カスハラ対応研修会受講（9/26） ・ケース記録作成研修（10/26） ・リーダーシップ研修（10/25） ・神大地域連携室研修（職員7名・10/16） ・サビ管更新研修（3/5）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上	キャリアにあった研修受講	①法人内、外の研修受講	ｴ) 内部研修 ・「仕事のスピードアップのための段取り力養成」(7/26) ・バイスティックと基本理念（11/29） ・虐待防止研修（1/10） ・成年後見制度勉強会（1/31） ・理事長による理念研修（3/21）	○
		②その他研修情報を職員と共有	② ｱ) 研修情報がある毎に、回覧にて職員に情報共有 ｲ) 事業種別研修「日中活動支援事業」就労継続B型事業所の講師を担う	○

（２）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
職員の役割の明確化	役割分担・業務量の現状を確認し、改善する	①役割分担表の項目見直しを行う ②職員の業務量調査方法検討	① ｱ) 今年度の友生園内職務分担を確定、各職員に提示。加えて作業担当、利用者担当も変更実施。（４月） ② ｱ)調査方法について検討に至らず	△
オリジナル商品（お茶販売）販路拡大	商品の販売ツールを作成し活用する	①SNS を使った宣伝ツール作成	ｱ) 他事業所のSNS宣伝を確認（4月） ｲ) 集金代行サービス（リコーリース株式会社）、PayPay など、支払い方法のリサーチを行う。(5月・6月) ｳ)他の就B事業所のインスタグラムを見たこと、インスタグラムで宣伝するメリット、決済方法等調査（9月） ｴ) 決済方法、配送方法の起案書提出（10月） ｵ) オリジナル茶注文表作成（12月）	△
各種マニュアルのブラッシュアップ	職員会議で各マニュアルを確認し必要に応じて更新する	①3 種類（感染症、業務、作業）のマニュアルについてブラッシュアップする	ｱ) 感染症マニュアル見直し（4月） ｲ) 新規作業のマニュアル（N038 うおのめ）の作成（5月） ｳ) インフルエンザ・個人情報の見直し（6月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
各種マニュアルのブラッシュアップ	職員会議で各マニュアルを確認し必要に応じて更新する	①3種類（感染症、業務、作業)のマニュアルについてブラッシュアップする	ｴ) 作業マニュアル ・小巻・林タオル・お茶のギフトの見直し（7月） ・ステッカー作業のマニュアル作成（9月） ・ネコ箱のマニュアル見直し（1月） ｵ) ノロウイルス・コロナマニュアルを更新（8月） ｶ) 感染症・業務マニュアルチャート作成（10月） ｷ) 業務マニュアル・標準マニュアルを修正し完成（１２月）	○

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
安定した作業量の確保	新規作業の獲得	①関係8企業から新規作業獲得（2種類）	ｱ) 3企業より6種類新規の作業（5月） ｲ) 作業材料が増加し安全確保のため作業場内レイアウト変更（7月） ｳ) 単発作業1種類獲得（9月） ｴ) 1企業より新規作業獲得（9月・12月）	◎
家族の交流と学びの提供	家族交流と研修会の実施	①家族からの意見や現状必要な情報を家族に伝える研修を実施しアンケートをとる ②交流を目的とした企画を実施しアンケートをとる	① ｱ) 第一回目の家族会行事実施（事業説明会・食事会）11家族12名参加（5/10） ｲ) 研修について意見を伺うが実施に至らず ② ァ）茶話会（12/5）6家族参加	○
利用者の将来に向けた支援の実施	GH見学会や勉強会の実施	①法人内のGHへの見学 ②利用者向けの勉強会(金銭管理）実施	① ｱ) 見学希望募集案内作成（9月） ② ｱ) 勉強会実施（7月、8月、10月、11月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
利用者の充実感・達成感の向上	オリジナル商品(ギフト商品)を通して充実感を高める	①ギフト商品のパッケージ選定や、ラインナップ選定に利用者の意見を反映させる	ｱ）ギフト商品に関わる利用者を選出（4月） ｲ）夏ギフトについて会議実施（5月、6月） ｳ）夏ギフト販売開始（7月、8月） ｴ）冬ギフトについて会議実施（8月） ｵ）おいでやすカーニバル用のプチパッケージ商品作成（9月） ｶ）すまいんど部会の冬の特選ギフトのカタログ写真の作成（9月） ｷ）冬ギフト販売開始（10月） ｸ）春ギフトについて会議実施（1月） ｹ）春ギフト販売開始（2月、3月）	○
関係機関との連携強化	利用者を取り巻くネットワーク間の関係構築	①計画相談支援事業所やその他関係機関と情報の共有を随時行う	ｱ）ケース会議実施(7/12、8/9、9/6、11/8、12/13、1/10、2/7、3/6) ｲ）利用者関係機関カンファレンス（1/22）	○

（4）財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
支出削減について職員の意識を継続して保つ	職員会議で毎月の経費を分析し伝える	①事務費、事業費、作業経費の月毎支出表を作成し共有	① ｱ）給付費収入・授産収入・工賃配分額・利用者勤怠・職員超勤状況・経費支出等を職員会議で共有（4月～3月） ｨ）上半期の出勤状況を精査し、ご利用者の出勤状況はおよそ予算通り 減収の要素は新規利用者が未獲得であることを再確認	○
新規利用者の獲得	相談機関・特別支援学校進路担当との情報共有	①2名の新規利用者獲得	ｱ）利用者募集のチラシの作成に取り掛かるが未完成 ｲ）SNSの活用も検討に止まる ｳ）見学者受け入れ（9/28） ｴ）法人内相談機関に利用者募集のチラシ配布 ｵ）利用希望者体験1名受入れ ｶ）青陽須磨支援学校高等部2年生2名の6月度実習について打診有り	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
出勤状況をもとに利用率を向上させる	利用者の出勤状況を職員間で共有し、個々の利用者へアプローチする	①月毎の出勤表を元に状況を確認し、職員の意識を高め利用者への支援策を検討する	ｱ）低出勤率の特定利用者3名について、花見会開催（4/4）参加し面談実施、個別にアプローチする事で、4月は3名で7日の出勤実績 ｲ）1月より体調（含メンタル）を崩して自宅療養の男性利用者に対し、担当職員が4月、5月と定期的に様子伺いの電話連絡を入れた事で、5月中旬より利用再開 ｳ）出勤が難しい利用者に対して5月に面談を実施。従来とは少し違う角度にてのアプローチを行い、今月10日の出勤実績を達成。（過去4年で10％の出勤率が40％に） ｴ）週2日の利用者に対し送迎を条件に週3日利用 ｵ）年間利用日数上限270日に対しての2月度までの実績を職員に提示、超過しそうな利用者は調整休取得、不足している利用者には1日でも多くの出勤を個別に依頼する。	○

（5）地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
障害に対する啓発拠点として認知度を高める	友生園の情報発信をする	①SNSツール作成（下半期運用） ②あどあど市の開催	① ｱ）検討は行うが具体化せず ② ｱ）5月1回開催、8月2回開催 10月1回開催、1月2回開催 3月1回開催	○
地域との交流を深める	須磨区内で実施されるバザーなどへの参加	①各種バザーへの参加	ｱ）すまるしぇ参加（4月） ｲ）神戸まつり・須磨音楽の森（5月） ｳ）友高祭出店（6月） ｴ）おいでやすカーニバル開催（9月） ｵ）すましあ（11月） ｶ）こんにちはカーニバル出店（3月） ｷ）コープすまるしぇ（3/13）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
福祉学習の機会提供	各種学校からの福祉学習や見学の受け入れ	①専門学校、小、中学校からの福祉学習･見学の受け入れ	ｱ)『神戸総合医療専門学校』前期・後期実習受け入れ開始 (5月～7月、10月～1月) ｲ) 福祉体験学習（ワークキャンプ）1名ずつ受け入れ。(7月、8月) ｳ) いぶき明生支援学校トライやる2名受け入れ（9月） ェ）民生委員10名見学会実施（9月） ォ）トライやるウイーク2校3名受け入れ（10月、11月） ヵ）神戸総合医専・OT科2024年度前期実習の日程、人数、内容等の打ち合わせ実施にて確定	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事　故件数	件	13件	件	2件	件	件	件	2件	12件	1件

※その他：利用者同士のトラブル（他害行為）1件
帰宅途中に脳梗塞発症1件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	転倒未然	その他				
ヒヤリ件数	3件	1件	件	件	件	件

4.出来した事案
（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　グループホーム南落合
施設長　井上　待子

グループホーム南落合の基本方針

1. 利用者一人一人の基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者の働きたい思いを大切にした「その人らしい暮らし」を支援します。
3. 継続的に就労が出来るように適切な声掛けを行います。
4. 安心・安全な生活が送れるよう環境づくりを行います。
5. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるように努めます。

2023 年度の事業報告について

年間を通して、ご利用者が大きな怪我や病気をすることなくホームで過ごすことができました。

休日の過ごし方もガイドヘルパーを利用し、充実した余暇を過ごすことができたと、ご利用者も喜んでおられました。ご利用者は安定して過ごされていますが、ご家族とのトラブルが 1 年以上続き「安心して預けていただく」ことの難しさを感じ、ご家族との信頼関係を構築することができなかったことは大きな反省点です。このことで、世話人にも動揺があったと思いますが、ご利用者を支援するときには冷静に対応してくださり、利用されているご利用者に影響がなかったことは、本当に感謝です。

来年は 5 周年を迎える年でもあります。ご利用者の状況も少しずつ変化しつつあり、今後のホームの支援体制も状況に合わせて検討が必要になってくると思われます。バックアップ施設でしっかりと検討をしていきます。

1. 事業概要

開設年月日：2019 年 10 月 1 日

種　別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設事業　（第 2 種）	共同生活援助	5 名	身体・知的障害者	2019 年 10 月 1 日

2. 推進状況

区分	課題	2023 年度計画	実施状況	達成度
QOL	安心・安全な環境の提供	①利用者の状況に合わせた環境整備の実施 ②利用者の支援を統一した支援の実施	① ｱ) 2 名の利用者の服薬管理方法をより厳重なものに変更（鍵付き物入で管理） ② ｱ) 世話人ノートを利用し、情報共有を随時行う。	◎

区分	課題	2023年度計画	実施状況	達成度
QOL	安心・安全な環境の提供	③移動支援事業所と連携し、余暇活動を利用者に提案	③ ｱ) ガイドヘルパーを利用し、余暇活動を計画、実行	◎
	権利擁護のための支援	①世話人・生活支援員への研修実施「障害特性の理解」 ②虐待チェックリストの実施 (2回/年)	① 虐待防止研修（1/10） ②上半期チェックリスト実施 （9月/２月）	○
	健康管理	①健康観察を行い、受診時の状況を訪問看護事業所・移動支援事業所と情報共 ②健康状態について世話人間で情報	① ｱ) 相談支援事業所や訪問看護、移動支援事業者と連携し、ご利用者に応じて情報共有する ② ｱ) 業務日誌や世話人ノートで共有する。緊急時や判断が必要な場合はグループラインにて共有	◎
	マニュアルの整備	①世話人業務マニュアルのブラッシュアップ	ｱ) 業務マニュアルを更新する （4月）	○
	地域との連携	①地域の一員として自治会活動への積極的な参加	ｱ) 自治会総会出席（3/24）	○
	防災対策	①避難訓練の実施 (2回/年) ②緊急通報装置操作訓練の実施	① ｱ) 火事想定の避難訓練（11/8） ｲ) 自治会消火器訓練（10/29） ② ｱ) 通報装置操作訓練実施（11/12）	○
財務	利用率の安定	①365日のサービス提供と、利用率90%維持	ｱ) 達成。利用率94.7%	◎
	バックアップ機能の体制整備	①緊急時の神戸友生園による迅速かつ臨機応変な対応	ｱ) バックアップ対応職員と職制により体制を整える。	○

区分	課題	2023年度計画	実施状況	達成度
人材育成	基本理念の浸透	①世話人の内部研修の実施 ②法人研修への積極的な参加	① ｱ）理事長による理念研修（3/21） ② ｱ）未実施	△
	専門性の向上	①世話人・生活支援員の外部研修への参加	ｱ）未実施	×

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	4件	件	件	件	件	1件	件	5件	1件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	転倒未然	その他				
ヒヤリ件数	件	件	件	件	件	件

4.出来した事案

（1）転倒事故による受診の件（8月）

ご利用者がホーム内で転倒し頭部打撲、裂傷を負い患部より出血。神戸掖済会病院へ職員と受診し頭部CTと裂傷（3ｃｍ）に対し6針の縫合処置を受けホームへ戻る。

（2）転倒事故による救急車要請の件（11月）

ご利用者が名谷駅へ買い物に行った際、転倒し動けなかったため、近くにいた人が救急車を要請する。受診の必要がなかったことから、救急車でホームに戻る。念のため、次の日に本城外科を受診するが、骨折などは見られなかった。

（3）ご家族がご利用者の持ち物が破損、靴の破れなどについて疑念を抱かれている件

今年の1月下旬以降、ご本人の靴、ベルト、傘、カバンなどが破損したことに対して、ご家族は世話人かバックアップ施設職員が関与していると思われており、なにかが壊れたり破れたりする度に話し合いなどを行ってきた。ご家族はご本人が不在時に居室内に入り壊れる細工をしているのではないかと思われていたため、ご家族の要望もあり居室内に防犯カメラを設置し録画をしている。ご家族は神戸市や色々な相談機関にも連絡をしており、安心してホームの利用が出来ていない事を訴えておられるが、ご家族の望んでいる回答を得られることは難しく困惑されている。ホームでは世話人会議などで､ご本人の持ち物は毎日写真を撮ってチェックし、出来る限りご本人への対応はカメラに映るところでするなどをしているが、靴などは一定期間使用すると破れや底の剥がれなどが起きてしまう。ご家族の対応は法人本部が担っており、ご家族との話し合いを継続していた。その後、ご本人が指先を特定の職員から切りつけられたと

訴えがあり、防犯カメラで確認するがそのような事柄は映っておらず、兄も一緒にカメラの映像を確認してもらう。しかし、特定の職員への疑念が強くあり、第三者委員の介入をご家族が望まれたため、第三者委員による面談や該当職員への聞き取り、ホームに来られてのご本人への聞き取りを行う。3 月 18 日（月）に第三者委員による家族との話し合いの場がもたれ、ご家族（母と兄）の要望を伺う。ご家族からの要望は、疑念を持っている職員とご本人の接触がないように強く望まれる。

施設側からは該当職員がホーム全体の支援を行うことを理解していただき、ご本人がホームにおられるときは支援に入らないよう配慮することを伝える。今後、母との連絡も施設長が行うことで一定の理解を得る。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　　神戸光生園
施設長　　木南　 仁

神戸光生園の基本方針

1. 「隣人を自分のように愛すること」の具現化を目標に、法人の基本理念に掲げられた行動規範「個別支援の推進」「利用者の人権擁護」「職員の専門性の醸成」「地域社会との連携」を中心テーマとして支援に努めます。
2. 「利用者の笑顔」をひとつの評価の基準にし、より良いサービスの提供を目指します。
3. 利用者ひとり一人の可能性、能力、個性が発揮できる支援を行い、そのための職員の専門性の向上を図ります。

第 5 期中期計画のビジョン

利用者・家族・職員・地域の人達を笑顔にできる施設を目指します

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画がスタートし、引き続き学習と成長・顧客・業務プロセス・地域・財務の視点のチームに分かれて取り組みを実施しました。6 月には日帰り旅行を実施、9 月にはライブハウスで和太鼓の発表もでき、ご利用者の雄姿を披露することができました。昨年度末で就労移行支援事業(定員 6 名)を廃止し、定員を生活介護は 54 名から 57 名、就労継続支援 B 型は 30 名から 33 名に増員しましたが、永くご利用されていた方がお亡くなりになったり、転居されたりと 7 名がご利用を終了されました。一方、2 名の新規利用者をお迎えしましたが、それ以外にはありませんでした。年間 270 日の開所をしましたが体調不良のほかに、他事業所との並行利用、障害の特性上等の理由で欠席する方も多く、利用率は上がりませんでした。新たなご利用者の獲得に向け、特別支援学校に事業所の体験会などを企画したところ多くの参加者がありました。

地域とのつながりとして、毎月実施している「ひかりマルシェ」や 11 月に実施した「防災イベント」は好評を得ていますので次年度に向けても継続していきます。また、近隣小学校の通学路の清掃を実施するなど、地域の中の一員としての活動に取り組みました。

開設して 38 年が経過し、これまでにも修繕工事を行いましたが、雨漏りや外壁にクラック等がみられることから国庫補助金の申請を行い、助成を受けて工事ができることが決定しました。次年度は大規模修繕工事を行っていきます。

1. 事業概要

開設年月日：1985 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	57 名	知的障害者	2007 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労継続支援 B 型	33 名	知的障害者	2007 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労定着支援	ー	知的障害者	2018 年 10 月 1 日

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
研修を通して専門性の向上に取り組む	外部講師による施設内研修実施	①外部講師による研修実施（上期調整・下半期実施）	ｱ) 外部講師によるマインドフルネス研修を実施（2 月）	◎
	定期的な内部研修の継続	①内部研修実施（2 回/年）	ｱ) TEACCH プログラム研修実施（6 月） ｲ) 強度行動障害研修実施（9 月）	◎
実習指導を通した福祉職の育成	ソーシャルワーク実習指導の継続	①現行の実習予定表の見直しとアップデート研修の受講	ｱ) 新カリキュラムに応じた実習予定表による指導実施（4 大学） ｲ) 対象者（3 名/5 名）のアップデート研修受講済	◎
定着できる育成システムの構築	新任職員向けハンドブック作成と活用	①ハンドブックの情報収集と内容精査（ひな形作成）	ｱ) 新人ハンドブックに掲載する項目まで決定（12 月）	○

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
施設の情報発信の充実	施設利用につながる広報の実施	①看板の改装計画立案（次年度予算計上） ②SNS の整理（目的・対象・内容の整理）	① ｱ) 業者による看板イメージ作成と見積もりまで取り組むが予算上計画中止 ② ｱ) 給食配信・ひかりマルシェの配信・和太鼓やイベントの配信実施（随時）	○
関係機関と連携した支援プロセスの構築	計画相談と連携した支援の実施	①調整会議の在り方整理（試行的な取り組み実施/下半期）	ｱ) 職員会議にて制度に関する勉強会実施（8 月） ｲ) 新規利用や利用状況の変化に合わせて調整会議実施（随時）	◎
	支援記録の管理方法の改善	①個人の記録のファイル方法と場所の選定（次年度予算計上）	ｱ) ファイリングする項目・場所の決定と予算計上（1 月） ｲ) ファイル保管場所と倉庫の整理実施（12 月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
業務体制の再構築	業務改善を図りゆとりある業務体制を作る	①業務改善の実施（上半期：業務洗い出し、下半期：実践）	ｱ）業務改善アンケート（5月）と共有実施（6月） ｲ）PC 1台修理（8月） ｳ）夕方の休憩時間開始（12月）と業務と休憩の区別をつけるためにルールを提案・実施（1月）	△

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
社会とつながる活動の充実（販売と創作活動）	ネット販売の充実	①商品の定期的な販売	ｱ）新規販路開拓と納品実施（神戸北野・アンジェリック・3月）	△
	デジタルアートへの着手	①デジタルアートの研修実施	ｱ）担当職員への個人研修実施（随時） ｲ）全体内部研修は未着手	△
	和太鼓を主とした地域活動への参加と他事業所との交流	①地域イベントへの参加(下半期)	ｱ）NPO法人birth神戸主催のイベントに和太鼓出演とYouTubeにて配信実施（9月）	◎
個別ニーズに対応できる支援環境の整理	快適な活動空間の提供	①活動空間の再構築（次年度予算計上）	ｱ）おおまち、就労、生活介護の活動スペースの素案完成 ｲ）他事業所見学(一羊会すずかけ作業所)（2月）	○
家族と施設の情報共有方法の構築	連絡用アプリの活用	①連絡手段と活用方法の確立	ｱ）家族との連絡や情報共有するためのアプリの決定（2月）	○

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
収支に見合う収入の確保	新規利用者の確保	①年度内に 3 名の利用者確保（就労 B　2 名、生活介護 1 名）	ｱ）退所（利用終了）: 生活介護…5 名、就労 B…2 名、就労定着…1 名 ｲ）新規利用 : 生活介護…1 名（9 月）、就労 B… 1 名（11 月） ｳ）新規利用者獲得に向け、情報誌の作成関係機関への配布（8 月・10 月・11 月）・体験会（12 月）の実施	△
	年間 269 日の確実な開所（予め予備日を決める）	①開所（269 日）の実施と予算管理の徹底	ｱ）2 月に祝日開所を 1 日増やすことで 270 日の開所実施 ｲ）職員会議で利用人数、給付費収入を共有（毎月） ｳ）生活介護利用率 80.0％（予算未達）就労 B 利用率　71.0％（予算未達）	◎
修繕計画を立案して施設の魅力維持	10 年間の修繕計画を立て必要な費用を算出	①計画の立案と必要な見積を準備	ｱ）神戸市補助金・国庫補助受託決定（3 月） ｲ）黒田建築事務所と大規模改修の打ち合わせ実施（随時）	◎
	計画的な積立金の創出	①固定費の見直し（経費削減）	ｱ）固定費の見直しに至らず、経費削減未着手	×

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
アウトリーチの手法で学校との関係作りを行う	神戸光生園を小中学生に知ってもらう	①交流の企画検討と学校への提案実施（下半期までに）	ｱ）西舞子小学校へ訪問して関係作りを実施(7 月・12 月・1 月) ｲ）舞子中学校・西舞子小学校の校門から歩道までの清掃実施（8 月・12 月・3 月） ｳ）子どもを守る 110 番の家・店ステッカーの掲示	◎
ボランティアの活用による活動の充実を図る	ボランティアの受け入れ体制と活動の充実	①ボランティアの受け入れ体制の構築	ｱ）受け入れ体制マニュアルの見直しと垂水区ボランティアセンターへ再募集の登録を行うがボランティアの受け入れに至らず	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域とつながる活動の定着と充実	ひかりマルシェの充実	①広報活動の拡充 ②イベントの実施（上半期）	① ｱ）SNS・近隣福祉事業所・スーパーへの広報を模索するが実施まで至らず ② ｱ）ひかりマルシェ実施（毎月） ｲ）サマーフェスタ実施（7月） ｳ）マルシェ用エプロン購入と着用（12月）	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	件	5件	2件	件	件	4件	30件	41件	0件

※給食誤発注3件、配布物ミス3件、他害行為17件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	怪我未遂	物を投げるなど	その他	発作		
ヒヤリ件数	11件	2件	7件	1件	件	件

4.出来した事案

（1）利用者送迎中の車両事故の件

1月17日、15：38、公用車（おおまち号）が利用者の送迎中（明石市朝霧南町４丁目２付近）に車線を逸脱、歩道の電柱に衝突する。利用者・職員・ドライバー（運行管理業務委託）にけがなし。徐行スピードでの衝突であったが、車両は前面が大破、電柱は損傷なし。ドライブレコーダーの画像より、ドライバーの運転ミス（意識消失）による単独事故となる（警察判断）。利用者家族に説明と謝罪実施。ドライバーは交代、公用車は車両保険にて修理。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　グループホームみなみたもん
管理者　　木南　　仁

グループホームみなみたもんの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」が実現できるように支援します。
3. 安心で安全な生活が送れる環境づくりを行います。
4. 地域の一員としての役割を担えることを目指し、「障害理解への啓発」に努めます。

2023 年度の事業報告について

新型コロナウイルスに罹患された方がいましたが、幸いにも感染拡大することなく乗り切ることができました。また休日はガイドヘルパーと外出し、充実した余暇を過ごすことができるように移動支援事業所と連携しています。

帰省中に足を骨折したため 1 か月余りホームに戻ってくることができないため、ご利用者だけでなくご家族とも連絡を取り、状況の確認を行いました。また高齢化による ADL の低下、ご利用者同士のトラブルがみられるために、ホーム会議で状況の共有だけでなく障害特性等について研修の機会を持ち、支援の質を高める取り組みや環境整備を行いました。世話人が一人勤務のためになかなか苦労している状況ですが、ご利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」をしてもらえるよう継続して検討を行いたいと思います。

急な世話人の欠席時にはバックアップ施設の職員が対応し、また世話人の退職による入れ替わりもありましたが、ご利用者にも大きく影響することはありませんでした。ただ、夜間支援の職員が充足しなかったため、継続して人材派遣会社を活用し職員の確保に努めました。

1. 事業概要

開設年月日：2014 年 5 月 1 日

種　別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	5 名	知的障害者	2014 年 5 月 1 日

2．推進状況

区分	課　題	2023年度計画	実施状況	達成度
QOL	生活環境の充実	①入居者家族（後見人・保佐人）との情報共有を密に行い良好な関係維持に努める ②利用者が相談しやすい環境と速やかな対応の実施 ③ガイドなどの関係機関と協調して利用者が安心して過ごせる環境と余暇支援の充実	① ｱ) 入居者家族や後見人（後見人３名・保佐人１名）と電話等での共有・相談を実施（随時） ② ｱ) 電話や面談などによる相談実施（随時） ｲ) 必要に応じて関係機関による調整会議を実施（随時） ③ ｱ) ホーム会議で利用者の状況を共有し、ガイド事業所等関係機関と連携し余暇支援を提供（随時）	○
	健康管理	①基礎疾患など持病の状態の把握・高齢化への対応と健康維持。 ②体調不良時の日中支援や通院支援（ガイド調整による安心して生活できる環境の維持	① ｱ) 受診支援を継続（職員・ガイド）（随時） ② ｱ) 体調不良による日中支援の機会なし ｲ) 受診支援を継続（職員・ガイド）（随時）	◎
	地域との連携	①地域の一員として自治会行事へ積極的な参加 ②自治会へ役員として参加	① ｱ) コロナ禍で自治会行事なし ② ｱ) 今年度は自治会役員なし	○

区分	課　題	2023年度計画	実施状況	達成度
	防災対策	①消防設備を使用しての避難訓練・通報訓練の実施（年2回） ②災害時を想定した防災訓練の実施（年1回） ③感染症対策としての指針の整備、備品の補充と管理 ④BCP計画の策定	① ｱ）避難訓練、及び通報訓練実施（12月・3月） ② ｱ）自治会の防災訓練中止により不参加 ｲ）防災訓練実施（3月） ③ ｱ）職員の抗原検査を定期的に実施（毎週） ｲ）備蓄品の入れ替え実施（10月） ｳ）密を避けた食事提供など標準感染予防策の実施（随時） ④ ｱ）BCP策定（11月）	◎
財務	経営の安定	①帰省の安定と利用率90%維持 ②定期受診と主治医との情報共有を密に行い、病気の早期対応と健康の維持に努める ③修繕に備えた積立金の確実な計上	① ｱ）骨折で自宅療養者1名（7月・1ヵ月超)、体調不良による自宅療養1名（2月・1か月）あるが達成（91.9%） ② ｱ）サビ管を中心として医療機関との連携実施（随時） ③ ｱ）修繕積立の計上（300千円）	△
	堅実なバックアップ施設	①緊急時等の神戸光生園による速やか且つ臨機応変な対応 ②安定的な支援体制の確立（支援員の育成）	① ｱ）コロナウイルスの濃厚接触時の対応など状況に合わせた対応実施（随時） ② ｱ）バックアップ施設との連携 ｲ）派遣職員の活用	○

区分	課　題	2023 年度計画	実施状況	達成度
人材育成	基本理念の理解	①神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	① ｱ) ホーム会議で基本理念の唱和実施（毎月） ｲ) ハンドブックについては未実施	×
	専門性の向上	①職員会議での専門研修の実施（3 回/年）	① ｱ)職員会議での専門研修未着手（3 回/年）	×
	虐待防止･人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施（1 回/年） ②月 1 回定例の世話人会議を実施、支援方法や利用者対応についての相談を実施 ③年 2 回の虐待防止セルフチェックの実施	① ｱ)虐待防止研修を実施（3 月） ② ｱ)ホーム会議で管理者・支援課長による支援方法や障害特性に関するサポート実施（毎月） ③ ｱ)虐待防止セルフチェックの実施（9 月・2 月）	○

3. 事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	件	件	件	件	件	件	件	0 件	0 件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）						
ヒヤリ件数	件	件	件	件	件	件

※ヒヤリハット報告なし

4.出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　グループホームふくだ
管理者　木南　　仁

グループホームふくだの基本方針

1. 利用者が自分の意思で暮らすことができ、基本的人権が守られる支援を行います
2. 利用者がお互いを尊重し、助け合って生活できるような毎日を目指します
3. １人ひとりの個性を認め、プライバシーを重視した生活を提供します
4. 地域の中で、社会の一員として「ふつうの暮らしを楽しむ」事を支える支援をします

2023 年度の事業報告について

年度当初は職員体制が厳しい状態でのスタートでしたが、徐々に増員し定着することができています。しばらく空いていた部屋は 4 月後半からご利用を開始され 10 名で改めてスタートしました。年間を通じて大きな怪我や病気をすることなく皆さんお元気に過ごされました。

ご利用者が安心して暮らせるホームであり続けるために、職員の定着、専門性の向上に向けた内部研修を行いました。職員会議も定期的に月に 1 回開催し、できるだけ多くの職員に参加してもらいながら、それぞれのご利用者の 1 か月の様子を振り返り、情報の共有・事例検討をするだけでなく、虐待防止や身体拘束防止研修を行いました。また、日頃から日中活動事業所とホームの間で連絡調整を行い、安定した支援ができるように取り組みました。

日中活動事業所で発熱等の体調不良となり早退した場合でもすぐに受診して対応するようにしています。コロナがやや落ち着き地域のイベントも再開されている中、夏祭りや福田地域総合防災訓練に参加し、地域の一員として共生しています。またゴミ収集箇所の清掃も定期的に行っています。引き続き地域の中で「ふつうの暮らしを楽しむ」ことを支える支援をしたいと思います。

1. 事業概要

開設年月日：2017 年 5 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	10 名	知的障害者	2017 年 5 月 1 日

2．推進状況

区分	課　題	2023年度計画	実施状況	達成度
QOL	生活環境の充実	①成年後見制度の活用を奨励 ②家族･後見人･ガイド・事業所など関係機関との関係性維持・向上 ③利用者個々に配慮した生活環境と生活スタイルの提供	① ｱ）成年後見制度の新規利用者なし ② ｱ）連絡・情報共有を行なうことで関係性を維持 ③ ｱ）居室の清掃チェック表を作成、実施。(5月) ｲ）ガイドの調整や障害特性・身体状況に合わせた支援を実施（随時)	○
	マニュアルの整備	①業務効率化のために業務マニュアルの定期的な更新実施 ②利用者の個別支援マニュアルを基礎として統一した支援の実施とホーム会議での共有と検討の実施	① ｱ）マニュアルの見直しと更新実施（適宜） ② ｱ）ホーム会議で個々の利用者の情報共有（毎月） ｲ）利用者緊急時用プロフィール、各利用者支援マニュアルを作成、更新（2月）	○
	地域との連携	①地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃実施や地域行事（夏祭り）等への活動に参加 ②日常的な地域住民との関りを大切にしながら苦情について迅速に対応	① ｱ）福田夏祭りに参加（8月） ｲ）福田地域総合防災訓練に参加（10月） ｳ）生ゴミ当番、ゴミ収集箇所の清掃実施（随時） ② ｱ）近隣住民への挨拶などコミュニケーションを円滑に実施（随時）	○

区分	課　題	2023年度計画	実施状況	達成度
	防災対策	①年2回の避難訓練の実施 ②年1回の防災訓練の実施 ③感染症対策における指針の整備、備品の補充と管理 ④BCP計画の策定	① ｱ）避難訓練の実施（9､1月） ② ｱ）防災訓練の実施（11月） ③ ｱ）職員の検温（出勤時）、抗原検査実施（週1回） ｲ）備蓄品の補充と管理実施（9月） ｳ）密を避けた食事提供など標準感染予防策の実施(随時) ④ ｱ）防災及び感染症を策定(11月)	○
財務	経営の安定	①帰省の安定と利用率90％維持 ②修繕等に備えた積立金の計上	① ｱ）95.8％達成 ② ｱ）未計上	△
	業務省力化の推進	①業務日誌とケア記録でのPC活用の検討	ｱ）PCのレクチャーや書式作成など必要なことができておらず未実施	×
人材育成	基本理念の理解	①神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	ｱ）ハンドブックを活用して研修を実施（3月）	○
	専門性の向上	①職員会議での専門研修の実施（3回/年）	ｱ）障害特性（知的障害、自閉症、てんかん）について内部研修実施（7月） ｲ）利用者支援・障害特性について内部研修実施（11月） ｳ）グループホームとは、記録の書き方とポイントについて内部研修実施（11月）	○

区分	課　題	2023年度計画	実施状況	達成度
人材育成	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施（1回/年） ②サービス管理責任者、管理者による月1回の支援会議の実施、支援方法や利用者対応についてのサポート ③年2回の虐待防止セルフチェックの実施	① ｱ)虐待防止・人権擁護・身体拘束に関する内部研修を実施（7月） ② ｱ)ホーム会議で困難ケースの事例検討や支援の統一実施(毎月) ③セルフチェックリスト実施（9,2月）	○

3. 事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	件	件	件	件	件	件	件	0件	0件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	その他					
ヒヤリ件数	5件	件	件	件	件	件

※洗濯物の返し間違い
利用者の服装の確認（靴下が破れていた）
薬がなくなりかけた（すぐに受診し処方を受ける）
書類配布ミス（ご利用者の配布物を違う方のメールボックスに入れていた）

4. 出来した事案
（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　障害者支援施設　神戸明生園
施設長　山本　隆志

神戸明生園の基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い､愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 「あたりまえの暮らし」と「その人らしい暮らし」の実現を目指します。

第 5 期中期計画のビジョン

ご利用者が安心して生活できる施設の実現、　高齢知的障害者がその人らしく暮らせる場所
関わる全ての人が明るく、楽しく未来に進めるような施設

2023 年度の事業報告について

2023 年度は一般社会におけるコロナ禍の終焉を感じつつ、施設では安全な生活の確保を継続した年度でした。ご利用者、職員ともに少しずつ活動的になれました。具体的には、施設での面会の再開、外出活動の再開、入所ご利用者と通所ご利用者での合同活動などを行いました。

職員の資質向上のために、施設内外での研修を現場主導で実施しました。各担当職員が計画的に研修の企画運営を行うことで、主体性を持って研修の実施ができました。4 年ぶりの海外研修への参加、採用活動への若手職員の参加、大学ゼミでの福祉に関する講師実施など、外部との関わりを持つ機会がコロナ禍以前に戻りつつあります。

業務省力化、整理のために、記録類の整理、様式、記入方法の統一を進めました。今後も引き続き整理する事項が見えてきたため、取り組むべき課題も整理できました。

ご利用者の高齢重度化への対応には、追いつかない部分もありましたが、その人らしさ、その人の立場に立った考えで支援の組み立てを行っています。職員が画一的な支援では、ご利用者に対応できないことを理解しているため、職員とご利用者の動きが複雑化しているため、次年度は入所ご利用者と職員の動きを整理していきます。

1．事業概要

開設年月日：1991 年 9 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設　（第 1 種）	施設入所支援	60 名	知的障害者	2015 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	80 名	知的障害者	2015 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	短期入所	10 名	知的障害者	2015 年 10 月 1 日
神戸市地域生活支援事業	日中一時	―	知的障害者	2015 年 10 月 1 日

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
研修システムを構築する	職制育成プログラム 地域交流プログラムの作成と実施	①系統立てたWEB研修の実施 ②生活介護事業所見学研修を実施	①② ｱ）内部 QOL 委員会が主となり研修実施 ｲ）虐待防止、接遇向上(5/22) ｳ）リスクマネジメント(6/5) ｴ）ケア記録の書き方研修(6/26) ｵ）成年後見制度 ｶ）但馬地区見学研修	○
人材確保	学校との連携作り	①実習修了者への広報発送	ｱ）大学、専門学校と実習の連絡調整を行う ｲ）法人の採用活動に若手職員が３回参加する	○
専門性の向上	コンサルテーション実施	①コンサルテーションの実施	ｱ）福林 PT による介護研修 ｲ）次年度にコンサルテーション実施に向けた調整（３月）	△

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
通所部の体制見直し	通所部の体制を見直し、効率化を進める	①通所部の活動場所の環境整備を実施 （備品整備から）	ｱ）活動場所の変更と男女合同実施 ｲ）作業道具の確認、整備 ｳ）支援の統一化、構造化、人員配置検討の会議を定期で実施 ｴ）パーティション等を使用した構造化	○
IOT 活用推進	IOT 活用による業務省力化の実施	①ロボット掃除機の活用を進め、使用範囲の拡大を検討する	ｱ）ロボット掃除機の活用（３機） ｲ）先進的調理器具を導入、イベントで使用 ｳ）支援記録ソフトの活用、各種日誌、報告書作成 ｴ）勤務表ソフトの活用、スマホ連携	○
マニュアル類の整理	利用者個人マニュアル	①各個人利用者のマニュアルの整備（支援手順書から拡張していく）へ向けて内容検討	ｱ）3 か月おきに手順書の更新を行い、最新の利用者情報の共有を図る	△

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
ライフステージに応じた支援の提供	高齢重度化への対応（オンライン面会含む）	①面会に来園できないご利用者家族に対してオンライン面会の実施を開始する	ｱ) 家族会で面会について聴き取りを実施 ｲ) 下半期から玄関パーティションで面会実施（ご家族、後見人）	△
生活空間の整理と整備	寮再編成の実行	①寮再編成案の完成（上半期）	ｱ) 建築設計事務所から意見をもらい大幅な内部構造変更は困難と判断した。費用対効果を再度検討し、実施内容をゼロベースで検討する ｲ) 現ユニットを快適空間へリフォーム	△
短期入所受け入れ方の整理	短期入所専用エリア等の設定	①短期入所専用エリアの設置について検討	ｱ) 寮再編成の内部構造変更と共に実施を検討したが、困難と判断し実現可能な設置方法へと転換する。	△

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
施設改修費用確保	積立金の継続実施を行う	①3000 万円を継続的に積み立てられるように、施策を検討する	ｱ) 2700万円の積立を実施	△
稼働率の安定維持	欠員状態の日数を無くす	①年間 30 日以内の欠員状態を目指す	ｱ) 男性1名の利用終了後から 30 日以内の欠員補充できず	×

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域資源として実習生受け入れ	学生実習生の受け入れを実施	①年間2名以上の受け入れを行う	ｱ) 総合衛生学院(7月2名)、頌栄短期大学(2月1名)、神戸常盤大学(3月1名)の受け入れを実施	○
短期入所の受け入れ	新規、緊急短期入所の受け入れ	①新規利用者、緊急受入れを行う（各12日/年）	ｱ) 3名の新規利用者の受け入れを実施 ｲ) 緊急利用者受け入れ実施	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
しあわせの村内連携強化	村内の関係再構築しボランティア受入れ再開する	ボランティア受入れが再開できるように、受け入れ準備を行う（感染症対策を含む）	ｱ）振興協会との連携、施設内見学を実施 ｲ）シルバーカレッジと交流	△

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	54件	13件	件	件	13件	1件	238件	319件	0件

※その他：配薬・落薬60件、他害31件、破損・経済的損失31件、所在不明17件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	落薬・飲みこぼし	転倒	他害	所在不明	経済的損失	異食誤食
ヒヤリ件数	52件	49件	30件	17件	15件	13件

※その他：薬に関する内容が多かった。食後の衣類、容器、床のチェックを行う。

4．出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　グループホーム　ケアホームきたすま
管理者　山本　隆志

ケアホームの基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 利用者が地域の主体であることをともに感じることができる支援を目指します。

2023 年度の事業報告について

2023 年度は、ご利用者の健康状態への対応を複数回行いました。大きな手術を伴い、経過へのフォローが年単位で必用な件、呼吸器症状への緊急対応を行った件が続きました。

夜間体制が職員 1 名のため、バックアップ施設との連携をとりご利用者の安全を守っています。

ご利用者が家庭的な雰囲気の中で生活を続けていけるように、ゆっくりしたペースでの支援を心掛けていますが、高齢重度化したご利用者にとって今後の生活の場を検討する時期になってきました。次年度は、高齢になられたご利用者の移行先を検討する年度となることが予想されます。

地域自治会の一斉清掃には年 2 回とも参加することができました。高齢化している地域住民と職員との交流ができました。

引き続き、ご利用者が安心して自然体で地域生活を続けられるように支援していきます。

1. 事業概要

開設年月日：2009 年 3 月 1 日

種　別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設事業　（第 2 種）	共同生活援助	5 名	知的障害者	20015 年 10 月 1 日

2.推進状況

区　分	課　題	2023年度計画	実施状況	達成度
QOL	高齢・重度化への対応	①バックアップ施設との連絡を密に実施 神戸明生園及び、聖隷総合相談センターとの連携強化を継続 ②支援体制の増強 （時間見直し）	① ｱ）お知らせ、メモ等で密に連絡が行えました ｲ）総合相談エンターとの連携は一部実施 ② ｱ）時間の見直しは未着手	△
	利用者の安全の確保	①火災訓練をバックアップ施設と連携し実施 ②体調不良者対応のバックアップ強化	① ｱ）火災警報器期の点検後に通報訓練を実施 ② ｱ）大きな手術をされたご利用者を共に支援実施。呼吸器疾患を発症したご利用者の治療とフォローを継続	○
	地域生活の定着	①近隣との良好な関係維持（近隣住宅の建て替わりが激しくなっている） ②移動支援等外部サービス利用の再開	① ｱ）植木の一部剪定など周辺住民からの意見を取り入れた ② ｱ）一部再開	△
財務	予算に沿った収入の確保	①利用率安定維持と向上	ｱ）安定で終了、向上せず	△
	設備改修・永続的運営に向けて	①積立金の継続的な実施継続	ｱ）予算達成。	○
人材育成	専門性の向上	①オンライン研修の提供継続 ②虐待防止の徹底 （個別に研修実施） ③個別支援計画内容の実効性の向上 ④新規職員採用補強 （夜間帯含む）	① ｱ）研修１回実施 ② ｱ）個別動画研修を実施 ③ ｱ）採用に至らず	○

3. 事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	件	件	件	件	件	件	件	件	0件	0件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）						
ヒヤリ件数	件	件	件	件	件	件

4.出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度 事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
神戸市立ワークセンターひょうご
しごとサポート中部
神戸障害者就業・生活支援センター
障害者雇用就業・定着拡大推進事業
所　長　　高見　俊雄

基本方針

1. 法人の基本理念のもとに、標記の 4 事業を一体的・有機的に運営する。
2. 障害者が「1 人でも多く、1 日でも長く」一般就労ができるよう支援します。
3. 個々の訓練生・相談者に適した就職支援・定着支援を継続的に進めます。
4. 関係機関との連携の強化に努め、障害者の一般就労の進展を目指します。
5. 神戸地域における障害者就労支援の中核施設として、その専門性の向上を図ります。

第 5 期中期計画のビジョン

就労支援を通して、すべての利用者が”自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

2023 年度の事業報告について

まず、ワークセンターひょうごです。年度初めの在籍者数は、新入生を迎えて 25 名と昨年比プラス 9 名でスタートすることができました。しかし、依然、定員割れの状況であるため、利用者確保を最優先事項とし、営業活動に力を入れ、体験利用者 17 名、見学者 99 名の受け入れを実施しました。昨年度からの営業活動が功を奏し、年度中に 8 名の途中入所者を迎えることができました。また、10 名の就職者、1 名の A 型への就職者を輩出しました。ご利用者について、昨年度と同様、知的障害のある方に限定せず、聴覚障害、発達障害がある方を受け入れました。引き続き職員の専門性を向上させ、様々な障害がある方の支援に対応できる施設を目指したいと考えております。なお、利用率と定員の状況については、引き続き注視していきたいと思います。

また、利用者確保を目的とした見学の受け入れだけでなく、障害者就労支援の拠点としての役割を果たすべく、神戸市等の行政機関をはじめ、参議院厚生労働委員会、JICA（国際協力機構）の要請による、スリランカ政府団の視察なども受け入れました。特にスリランカの要人を迎える際、ワークセンターひょうごのご利用者やしごとサポート中部の登録者に協力を仰ぎ、障害のある方から仕事や生活に関する生の声をお届けできるよう企画しました。スリランカの方々からは、自国の状況のお話や、具体的な質問があり、その質問に障害のある方が答えるという場面があるなど、双方にとって良い交流となりました。このことは、法人の基本理念に掲げる、「グローバルな視点に立ち、隣人として国際社会の人々との交流を深め幸せな福祉社会の実現に努めます」の箇所に一部沿うことができたのではないかと自負しています。この場面が実現したのは、先人がこれまで行ってきた取り組みが評価された結果だと思います。今後は視察された内容を持ち帰って活用いただき、スリランカの障害のある方が少しでも働きやすい環

境になることを期待したいと思います。

次に、しごとサポート中部をはじめとする就労相談部門です。近年、支援対象の幅が広がったり、企業が求める障害者雇用の質が高まっていること、また相談者からの相談が複雑化しており、高度なケースワークが必要になっていることから、支援の質を高めるため、各種研修（障害理解の研修、障害者就労支援の専門的な研修、スーパーバイズ、リーダーシップ向上、組織力向上の研修等）を積極的に受講しました。狭い見識にとらわれて支援を行うことを防ぐため、日常の支援のみでは得られない技術や知識を得る必要があり、今後も継続して外部研修への参加を実施したいと考えます。また、事業所内の成長だけでなく、地域の就労支援機関の支援力向上に寄与するため、研修の講師を積極的に引き受け、技術や知識の伝承等にも力を入れ、国から求められている基幹型機能を果たしていきたいと考えます。

1. 事業概要【ワークセンターひょうご】

開設年月日：1996 年 4 月 1 日

種　別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労移行支援事業 －神戸市立ワークセンターひょうご－	30 名	知的障害	2006 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労定着支援事業	—	知的障害	2018 年 8 月 1 日
公益事業（市委託）	相談支援事業 －しごとサポート中部－	—	身体障害者 知的障害者 精神障害者	1996 年 4 月 1 日
公益事業（国委託）	相談支援事業 （雇用安定） －神戸障害者就業・生活支援センター－	—	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004 年 4 月 1 日
地域生活支援事業 （県委託）	相談支援事業 （生活支援） －神戸障害者就業・生活支援センター－			
公益事業 （県補助事業）	職場開拓事業 －障害者雇用就業・定着拡大推進事業－	—	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004 年 6 月 1 日

2. 推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
人財育成への取り組み	【共通】 内部・外部研修の効果的な活用	①法人内研修への参加 ②内部研修の企画、実施 ③外部研修への参加	① ｱ）主任・副主任研修（6 月） ｲ）新副主任研修（8 月） ｳ）2023 年度理念講演会（11 月） ｴ）法人事業種別研修（12 月） ｵ）法人事業種別研修（1 月） ② ｱ）企画打ち合わせ（5 月） ｲ）内部研修（10 月、11 月） ｳ）成年後見制度について（12 月） ③ ｱ）JC スキル向上研修（5～6 月） ｲ）就業支援担当者研修（7 月） ｳ）スーパーバイザー養成講座（8、9 月） ｴ）障害者雇用フェスタひょうご 2023（9 月） ｵ）障害者支援スキルアップセミナー（9 月） ｶ）発達障害支援者基礎研修（9 月） ｷ）令和 5 年度社会福祉施設主任者・管理職研修「リーダーシップ向上研修」（10 月） ｸ）業務説明会＆就労支援研修会（10 月） ｹ）リカバリー全国フォーラム 2023（10 月） ｺ）第 24 回定例研究・研修会（11 月） ｻ）第 31 回職業リハビリテーション研究・実践発表会（11 月） ｼ）訪問型職場適応援助者養成研修（11～12 月） ｽ）就業支援実践研修（11 月） ｾ）民福祉セミナー（12 月） ｿ）相談支援・就業支援セミナー（12 月） ﾀ）面接スキルアップ研修（12 月） ﾁ）就労支援研修会（12 月） ﾂ）サービス管理責任者基礎研修（12 月） ﾃ）就労支援研修会（1 月） ﾄ）相談面接技術研修（1 月） ﾅ）サイバー犯罪被害防止（1 月） ﾆ）アメニティーフォーラム（2 月） ﾇ）視覚障害・就労支援者講習会（2 月） ﾈ）全国障害者就業支援ネットワーク第 10 回ナカポツフォーラム（2 月） ﾉ）CEF2024～質の高い障害者雇用を考える会議～（3 月） ﾊ）高次脳機能障害の理解と兵庫県における支援について（3 月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
	【共通】 職員面談、スーパービジョンの実施	①年 3 回職員面談、SV の実施	ｱ）職員面談を実施 （6、7、8、10、11、1、3 月）	◎
	【共通】 地域内の就労継続支援B型、就労継続支援A型、就労移行支援の訪問	①2 事業所/月以上の訪問を実施し、報告書を作成する	ｱ）5 月 1 件、7 月 5 件、8 月 3 件、9 月 2 件、10 月 1 件、11 月 1 件、12 月 2 件の訪問を実施（A 型 3 カ所、移行 12 カ所）	○
ワークライフバランスを重視した働きやすい職場づくり	【共通】 超過勤務の縮減	①超過勤務の状況確認、原因確認と解決方法を検討する	ｱ）超過勤務が 20 時間を超える職員が 1 名（6 月）原因は業務過多であり、業務における配慮を実施。以降は当該職員を含む、全職員超過勤務時間は月 20 時間以下であった	○
	【共通】 有給休暇の取得推進	①有給休暇の取得状況を把握。年 5 日以上の取得を確実に行う	ｱ）1 月末時点で、全職員が有給休暇 5 日間以上を取得	
権利擁護の推進	【共通】 虐待防止セルフチェックリストの実施	①虐待防止セルフチェックリスト 年/2 回 ②委員会報告（4、10 月）	① ｱ）虐待防止セルフチェック実施 ② ｱ）全体職員会議にて虐待防止規定共有（4 月） ｲ）全体職員会議にて委員会（3 月分）の報告（6 月） ｳ）キャナル苦情解決･虐待防止委員会実施（10 月、3 月）	◎
	【共通】 虐待防止研修への参加	①虐待防止研修に適時参加	ｱ）虐待防止研修、身体拘束防止研修（10 月）	◎
	【ワーク】 虐待防止事例検討会の開催	①虐待防止事例検討会の実施	ｱ）虐待防止事例検討会の実施（12 月、1 月）	◎

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
営業活動の強化	【ワーク】 見学や体験等の受け入れ強化	①見学・体験等の積極的な受け入れ	ｱ) 体験利用者 17 名、見学者 99 名を受け入れ	○
	【ワーク】 学校･支援機関等訪問の強化	①特別支援学校、区役所、就労支援機関等に営業活動（年間 30 か所以上）	ｱ) 特別支援学校 8 校（7 月） ｲ) あけぼの学園（7 月） ｳ) エコール神戸（8 月） ｪ) しごとサポート東部（9 月） ｵ) あけぼの学園、阪神昆陽、県立特支、視覚支援（11 月） ｶ) 特別支援学校 3 校、自立訓練事業所等 2 か所（1 月）	○
	【ワーク】 未開拓な機関への営業活動	①未開拓な機関へ営業活動を実施する（10 か所以上/年）	ｱ) すずらん相談支援事業所（6 月） ｲ) 久遠チョコレート神戸、BIGUNDER 株式会社、株式会社 SRI ウィズ、KOBE38WORKSHOP、神戸イリス、NPO 法人にじのかけ橋、神戸市重度心身障害児（者）父母の会、兵庫県立障害者高等技術専門学院、神戸市手をつなぐ育成会（7 月） ｳ) 木の芽家族会、神戸市精神障がい者家族会連合会定例会（3 月）	◎
	【共通】 HP 更新	①月 1 回以上の HP 更新	ｱ) 毎月 1 回以上 HP を更新	◎
訓練生の職業体験を充実させる	【ワーク】体験実習先の開拓	①体験実習先の開拓	ｱ) 農政公社、福祉工場あじさい（4 月） ｲ) Tunagari（5 月） ｳ) サニーライフ白川、神戸市（7 月） ｪ) センコー、那須梱包（8 月） ｵ) Tunagari（9 月） ｶ) センコー、あじさい（10 月） ｷ) AIG ハーモニー、バイク王（11 月） ｸ) 神戸市トライアル実習（12 月） ｹ) 中央図書館（1 月） ｺ) WBS、ウエダ、市立中央図書館（2 月） ｻ) センコー（3 月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
特別支援学校との連携強化	【共通】 特別支援学校の見学	①特別支援学校の見学	ｱ）西神戸特別支援学校、阪神昆陽特別支援学校見学実施（3月）	◎
マニュアルの整備	【共通】 業務マニュアル、支援マニュアル等の更新	①マニュアルの整備	ｱ）作業マニュアル改訂（7月）	○
委託事業の確実な運営	【就労】 基本相談の実施、職場訪問による定着支援、就職者の輩出	①基本相談 7200件/年 ②職場訪問による定着支援 300件/年 ③就職者80人/年	① ｱ）相談件数7,328件（101.7%） ② ｱ）職場定着支援290件（96.6%） ③ ｱ）就職者数89名（111.2%）	○
	【就労】 中部地域障害者就労推進ネットワーク会議の開催	①中部地域障害者就労推進ネットワーク会議の開催（年3回）	ｱ）「働いている方のお話をきく会」開催（8月） ｲ）「はたらく準備をしようの会」開催（10月） ｳ）「働いている方のお話をきく会」開催（1月）	◎
	【就労】 現況調査（葉月作戦）の実施	①現況調査（葉月作戦）の実施（年1回）	ｱ）職員会議でアンケート項目を検討（6月） ｲ）登録確認、現況調査票を発送（8月） ｳ）返送処理（9～12月） ｴ）報告書作成（2月）	◎
	【就労】 ピアサポート活動の実施	①ピアサポート活動の実施（年2回）	ｱ）「働いている方のお話を聴く会」開催（8月） ｲ）「働いている方のお話をきく会」開催（1月）	◎
	【就労】 しごとサポート関連の会議への参加	①しごとサポート連絡会議 ②しごと開拓員連絡会〃	①毎月出席 ②毎月出席	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
	【就労】 外部機関主催の会議への参加	①兵庫労働局、職業能力開発施設、兵庫障害者職業センター等が主催の会議に出席	ｱ) 兵庫県障害者雇用･就業支援ネットワーク会議（5月） ｲ) 兵庫県就業･生活支援センター等連絡協議会（5月） ｳ) 令和5年度全国就業支援ネットワーク通常総会（6月） ｴ) 令和5年度第1回北部地域障害者就労推進ネットワーク会議（6月） ｵ) 令和5年度障害者就労支援機関連絡会議（6月） ｶ) 令和5年度第1回主任職場定着支援担当者連絡会（7月） ｷ) 北部地域障害者就労推進ネットワーク会議（8月） ｸ) 令和6年度障害者就業・生活支援センター事業概算要求に関するオンライン予算説明会（10月） ｹ) 障害者就業・生活支援センターと連携した雇用指導対策会議（10月） ｺ) 東部地域就労推進ネットワーク会議（11月） ｻ) 令和5年度第2回兵庫県障害者就業・生活支援センター等連絡協議会（11月） ｼ) 近畿ブロック別経験交流会（11月） ｽ) 障害者就業・生活支援センター事業における兵庫県センター連絡会議（12月） ｾ) 令和5年度主任職場定着支援担当者経験交流会（3月） ｿ) 第3回障害者就業・生活支援センター等連絡協議会（3月） ﾀ) 令和5年度第2回兵庫県障害者雇用・就業支援ネットワーク会議（3月） ﾁ) 障害者雇用支援連絡協議会（3月）	○

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
質の高い就労支援及び地域生活支援の実施	【就労】 同フロアの相談窓口と連携し、重層的かつ専門性の高い相談支援を実施	①各部署と情報共有を通して連携を図り、必要な部署と協働して支援を行う	連携ケース ｱ）ひょうご障害者相談支援センター 15 件 ｲ）神戸市発達障害者中部相談窓口 7 件	○
障害がある方の職場定着支援の実施	【共通】 障害者同士がコミュニケーションを図ることができる職場定着支援の実施	①在職者交流会（3 回/年） ②ドリーム（1 回/月） ③ほっとロビー（随時） ④同窓交流会（1 回/年）	① ｱ）第 1 回在職者交流会開催（7 月） ｲ）第 2 回在職者交流会開催（11 月） ｳ）第 3 回在職者交流会開催（2 月） ② ｱ）ドリームを 13 回開催 延べ 173 名が参加 ③ ｱ）ほっとロビー87 日稼働 延べ 133 名利用 ④ ｱ）10 月に開催	○
	【共通】 長期的かつ丁寧な職場定着支援（ロングサポート、ロンガー作戦）	①ロングサポート ②ロンガー作戦	①② ｱ）支援を実施	○
支援の質の向上	【共通】 アセスメントツールの導入、SST の導入	①厚生労働省編 一般職業適性検査の導入 ②SST の学習	① ｱ）厚生労働省編 一般職業適性検査のツールを購入（5 月） ② ｱ）未実施	△
	【共通】 顧客満足度調査の実施	①顧客満足度調査の実施（年 1 回）	ｱ）11～12 月にかけて調査を実施 2 月に法人 HP に結果を公表	○

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
安定的な事業収入の確保	【ワーク】 事業運営体制の見直し	①定員数見直しについての検討 ②多機能的な運営の検討	①② ｱ) 法人理事によるヒアリング（6 月） ｲ) 2023 年度は、定員変更を行わない 次年度以降も継続して検討。	○
	【ワーク】 利用者数、利用率、就職者の職場定着率の向上、土曜開所の実施	①月平均利用人数17 名以上 ②利用率 80%以上 ③上半期下半期で就職者を 6 名ずつ輩出 ④270 日/年の開所	① ｱ) 月平均利用人数 21.3 人(4 月)、20.4 人（5 月)、 20.1 人（6 月)、19.6 人（7 月)、 19.9 人（8 月)、20.5 人（9 月)、 20.4 人（10 月)、21.6 人（11 月)、 20.3 人（12 月)、18.6 人（1 月)、17.3 人（2 月)、18.1 人（3 月） ② ｱ) 利用率 83.0%（4 月)、78.7%（5 月)、 81.5%（6 月)、80.7%（7 月)、 76.9%（8 月)、79.9%（9 月)、 80.5%（10 月)、84.7%（11 月)、 81.9%（12 月)、84.3%（1 月)、86.2%（2 月)、88.5%（3 月） ③ ｱ) 就職者 10 名 ④ ｱ) 266 日（営業）/270 日（法定）	○
	【ワーク】 途中利用者の確保	①3 名以上の途中利用者を確保	① ｱ) 1 名（4 月)、1 名（8 月)、 3 名（9 月)、1 名（10 月)、 1 名（11 月)、1 名（2 月） 計 8 名の途中利用者を確保	◎
	【ワーク】 就労定着支援の実施	①就労定着支援事業の実施 (月平均 25～30 件の稼働)	① ｱ) 33 件（4 月)、33 件（5 月)、 32 件（6 月)、31 件（7 月)、 32 件（8 月)、30 件（9 月)、 31 件（10～12 月)、30 名（1～2 月)、 31 名（3 月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
	【ワーク】ジョブコーチ支援の実施	ジョブコーチ支援の実施（月平均3件以上の稼働）	①40件のジョブコーチ支援を実施 （月平均3.3件）	◎
委託事業の誠実かつ効率的な遂行	【就労】 超短時間雇用の創出	①超短時間雇用にかかる支援や情報の収集	ｱ）企業に対し超短時間雇用の説明、実習を実施（5月） ｲ）新規に2名が登録（5月） ｳ）1名が雇用（6月） ｴ）1名が登録（10月） ｵ）1社の企業見学を行い、1社に超短時間雇用の説明を実施（10月） ｶ）1名面接を実施（12月） ｷ）1社の企業見学の調整（12月） ｸ）2名が企業見学を実施（1月） ｹ）1社1名の雇用に向けて調整（2月）	◎
	【就労】 神戸市トライアル実習、神戸市障害者訓練雇用事業の実施	①トライアル実習の事務、支援の実施 ②神戸市障害者訓練雇用事業の実施	① ｱ）公募の案内、面接の案内を送付（5月）面接実施（6月） ｲ）第1～4クールの支援を実施（6～9月） ｳ）第5～8クールの支援を実施（10～11月） ② ｱ）ジョブ的支援を年間37件実施、実施請求額374,880円	◎

（5）地域公益の視点

実行計画	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域福祉の拠点としての役割を果たす	【ワーク】見学、体験実習・利用、職場体験、トライやるウィークの積極的受け入れ	①見学等の受け入れ	ｱ）神戸市障害福祉課（5月） ｲ）JICA・スリランカ政府団（6月） ｳ）神戸マツダ、兵庫区役所実習生、エコール神戸、参議院厚生労働委員会（8月） ｴ）兵庫大学社福実習生、須磨区自立支援協議会（9月） ｵ）トライやるウィーク（11月） ｶ）須磨ノ浦学園2年生2名（1月） ｷ）神戸市教育委員会（3月）	◎

実行計画	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
地域福祉の拠点としての役割を果たす	【ワーク】地域の清掃活動を通して、地域に貢献するとともに障害の周知を実施	①清掃活動の実施	ｱ) 清掃訓練を兼ねて地域清掃活動を実施（4、6、10 月） ｲ) 須磨海岸ﾋﾞｰﾁｸﾘｰﾝ活動への参加（5 月）	◎
	【共通】 障害者雇用の啓発	①10 月、12 月に障害者雇用啓発活動を実施	ｱ) 新型コロナをはじめとする感染症等の流行期であったため、活動を自粛した	×
就労相談機能の充実 ～障害者、企業、関係機関に対して、基幹型機能、ハブ機能を果たす～	【就労】研修の開催、研修講師の受託	①ラーニングセッション ②研修講師派遣	① ｱ) ラーニングセッションを開催（7 月） ② ｱ) ジョブコーチ養成研修（9、1 月） ｲ) 令和 5 年度障害者職業生活相談員資格認定講習（9、11、12、1 月） ｳ) 木の芽家族会、神戸市精神障がい者家族会連合会定例会 ｴ) 令和 6 年度障害者職業紹介業務担当及び事業主指導等業務担当新任職員研修	◎
	【就労】ネットワーク形成のための会議を開催	①神戸地域障害者雇用・就業支援ネットワーク会議 ②就労移行支援部会 ③教育関係機関就労支援連絡会	① ｱ) 神戸・三田地域障害者雇用連絡会議と第 1 回神戸地域障害者雇用・就業支援ネットワーク会議の合同会議を開催（5 月） ｲ) 第 2 回神戸地域障害者雇用就業支援ネットワーク会議を開催（2 月） ② ｱ) 第 1 回就労移行支援部会を開催（7 月） ｲ) 第 2 回就労移行支援部会を開催（12 月） ③ ｱ) 第 1 回教育関係機関就労支援連絡会を開催（8 月） ｲ) 第 2 回教育関係機関就労支援連絡会を開催（3 月）	◎

実行計画	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
	【共通】事業主（企業）に対する相談・支援、及び職場開拓を実施	①相談件数 1200 件/年 ②職場開拓 24 件/年	① ｱ）1426 件（目標達成） ② ｱ）43 件（目標到達）	◎
	【共通】各区自立支援協議会への参加	①自立支援協議会への参加	① ｱ）須磨区自立支援協議会（7 月） ｲ）兵庫区自立支援協議会 （10、11、12、1 月）	◎

3.事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	2 件	2 件	1 件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）						
ヒヤリ件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

4. 出来した事案
(1)特にありません。

2023 年度 事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　グループホーム　アリエッタ北須磨
施設長　　高見　俊雄

アリエッタ北須磨の基本方針

1. 利用者一人ひとりの人権と主体性を尊重した支援を行います。
2. 利用者が元気に職場等に出かけ、安心して帰って来ることができる“心の拠りどころ”となり、「一日でも長く」働き続けられるように支援します。
3. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるよう努めます。

第 5 期中期計画のビジョン

就労支援と生活支援を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

2023 年度の事業報告について

就労している障害者を対象としたワンルーム型グループホームとして開設し、今年度で 4 年目を迎えます。ご利用者のプライベートな時間を大切にしながら、必要に応じて、仕事と生活面の両面をサポートしてきました。

まず、新型コロナをはじめとする感染症の拡大を防止するため、館内の消毒、食事提供を個室対応する、手洗い、マスクの着用等基本的な感染対策を徹底し、ご利用者の健康の確保に努めました。感染症が終息の局面を迎えれば、夕食提供等においてご利用者が集える場を提供したいと考えます。

また、グループホームの生活を通して生活力の向上を目指し、一人でも多くの方が一人暮らしなど次のステップを検討できるよう、各居室における家事の共同実施、見守り、遂行の確認等を実施しました。また、生活力という面では、夜間支援がない施設という性質から、緊急時の対応について、ご利用者への意識づけを図るため、避難訓練を実施しました。

また、職員間のより円滑な意思疎通を図ることを目的に、定期的なスタッフミーティングの機会を設けました。日々のケアやご利用者の変化について共有し、支援の方法を検討しました。質の高い支援の提供につなげていきたいと思います。

報酬の関係では、サービス提供職員欠如減算のため、上半期時点で目標予算比-1,382 千円でしたが、下半期少し巻き返し、最終-1,061 千円となりました。今後はこのようなことがないよう気を付けたいと思います。

最後に、地域交流ですが、おいでやすカーニバルに、職員やご利用者の約半数が参加することができました。コロナ禍によりこれまで十分な取り組みができておりませんが、可能ならば友が丘及び多井畑地区の地域行事等への参加も検討していきたいと考えています。今後も、アリエッタ北須磨が地域の一員として認知してもらえるように努めていきたいと思います。

1. 事業概要

開設年月日 2020 年 1 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	10 名	知的障害者

2. 推進状況

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
基本理念の理解	基本理念の理解	①神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	ｱ) 職員体制の変更により、職員会議が定例で行えておらず、ハンドブックの活用までに至らず。職員室に理念を掲示	×
専門性の向上	専門性の向上	①法人内研修への参加（職位別研修、理念研修）	ｱ) 職員シフトの関係上、研修の調整ができず	×
虐待防止・人権擁護の取組み	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施（１回/年）	ｱ) 虐待、身体拘束防止研修を実施(11 月)	◎

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの整備	マニュアルの整備	①基本的な生活支援のマニュアル作成と更新 ②個別のスケジュール作成	① ｱ) 各シフトの支援内容や職員の動きを整理し、変更が生じた際、更新を実施 ② ｱ) 曜日別の個別支援スケジュール表を作成	○
業務省力化の推進	業務省力化の推進	①業務日誌とケア記録での PC 活用	ｱ) ケア記録は PC で作成することが定着 ｲ) 業務日誌については、タイムリーに記載する必要があるため、紙媒体のままとする	○

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
生活環境の充実	生活環境の充実	①利用者個々に配慮した生活環境と生活スタイルの提供 ②家族・後見人・ガイド・事業所など関係機関との関係性維持・向上	① ｱ) 食事提供は部屋食対応を継続 ｲ) 出退勤の時間に応じて、食事を提供 ｳ) 個別に必要な生活支援について、曜日別にスケジューリングし、サポートを実施 ② ｱ) サービス担当者会議への出席、ヘルパーの調整等で、関係機関との連携を継続	○

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
経営の安定	経営の安定	①帰省の安定と利用率の向上 ②修繕等に備えた積立金の計上	① ｱ) 週1日利用の利用者1名について、週末帰省のみとなった ｲ) 他の利用者について、週末帰省1回あたりの日数が短くなった ｳ) 年間通しての利用率88.3% ② ｱ) サービス提供職員欠如減算により、目標予算比-1,061千円となったため、積立は行わず	△

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域との連携	地域との連携	①地域行事等への活動に参加 ②日常的な地域住民との関りを大切にする	① ｱ) おいでやすカーニバルに、ご利用者4名、職員5名が参加（9月） ② ｱ) 地域行事等には参加できず	△

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
防災対策	防災対策	①年 2 回の避難訓練の実施 ②感染症対策における指針の整備、備品の補充と管理	① ｱ) 11 月に実施。2 回目は行えず ② ｱ) 指針について、昨年度作成したが、更新できず ｲ) 備品の補充、管理、点検を実施 (9 月)	△

3.事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

ヒヤリハット報告

種別 (多い順)						
ヒヤリ件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

4. 出来した事案

(1) 特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　ひょうご障害者相談支援センター
神戸市障害者基幹相談支援センター
神戸市発達障害者中部相談窓口
所　長　　高見　俊雄

センターの基本方針

【ひょうご障害者相談支援センター】

1. 障害のある方（以下、「相談者」という）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が住み慣れた場所で暮らせるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を行います。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。
3. 障害の有無に関わらず、住み慣れた場所で安心して暮らすことができるよう、関係機関との協働のもと、区自立支援協議会事務局として協議会の活発な運営を担います。
4. 兵庫区障害者地域生活支援拠点として「見守り支援事業」の委託を受け、障害者の見守りを各関係機関と連携しながら行い、相談支援機能と地域社会資源の連携体制の構築に取り組みます。

【神戸市障害者基幹相談支援センター】

1. 市内の特定相談支援事業者の統括および、区自立支援協議会と市自立支援協議会・神戸市施策推進協議会の連携に向けた後方支援等を行うことにより、神戸市の相談支援体制の強化に貢献します。
2. 兵庫県下の各圏域との協働を通して、人材育成を含めた神戸市の相談支援体制の拡充と新カリキュラム基づいた初任者研修、現任者研修、新たに主任相談支援専門員研修を実施します。

【神戸市発達障害者中部相談窓口】

1. 発達障害のある方（以下、「相談者」という。）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が自立した地域生活と社会参加ができるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を提供します。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。

第 5 期中期計画のビジョン

障害のある方の地域生活を支えるために常に相談者に寄り添った相談支援を行い、住み慣れた地域で安心した生活が送れるようにします。

2023年度の事業報告について

まず最初に障害者相談支援センターですが、自立支援協議会の事務局として各部会運営を行いました。5 月の全体会はコロナ前の規模で兵庫区役所みなとがわホールで開催し、グループホームの暮らしについて座談会を行いました。利用者や支援者から直接お話を聞く機会となりホームの暮らしを身近に感じてもらえる機会となりました。今年度から「子育て支援ネットワーク」として子どもの課題を中心に話し合うプロジェクトを立ち上げました。友生支援学校や放課後等デイサービス等が積極的に参加し、12 月には「地域でつなぐ安心フェア」を開催しました。中央区と共催で 6 月、11 月にはハートンマルシェの一環として「煉瓦倉庫ユニバーサルマルシェ」を行い、販路拡大につながりました。また支援が困難なケースは専門職派遣を活用し個別支援会議を行うことで、支援の方向性を見出すことができました。地域生活支援拠点としての役割では見守り支援事業で訪問活動を中心としながら、2 回目のアンケート調査に基づき台帳の整備、訪問をすすめています。また要援護者支援では区内 4 か所の基幹福祉避難所の避難訓練に参加し障害者の受け入れについて具体的な対応策を助言する等関係構築に努めました。地域支援機能強化事業では地域移行を推進するために、入所施設や精神科病院を訪問し現状把握と共に支援者の意識向上を図りました。また支援者向けの研修を開催する等ネットワークの構築にも貢献しました。

次に基幹相談支援センターは、定期的な圏域コーディネーター会議や階層別の会議だけではなく、市内特定相談支援事業所や市内相談支援センターの更なる後方支援に取り組めるよう、積極的に事例検討会に参加しファシリテーション力を身に着けられるように支援者へ働きかけました。市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会では、参加者の密集を避けるため、少人数で同じ内容を 4 回開催し、相談支援専門員の質の向上に努めました。また初任者研修修了者のフォローアップとしてファーストレベル研修Ⅰを 2 月、Ⅱを 7 月に行い、相談員が孤立することないよう定着を目指しました。「きほんの～き」はコロナ禍でもオンラインでセンター職員がつながり意見交換ができることを目的に行ってきましたが、コロナ終息の状況により、一定の役割を終え今年度で終了しました。また神戸市療育ネットワーク会議の委員や神戸市自立支援協議運営協議会の事務局として外部会議に参加しました。初任者研修では企画構成委員、現任研修ではファシリテーターとして研修プログラムが円滑に遂行できるよう担当者で落ち合わせを行い、相談支援専門員の育成に協力しました。

最後に発達障害者中部相談窓口では、市内 4 窓口の中心的な役割を担い相談員窓口連絡会の運営（年 12 回）、事例検討会での検討事例の調整、関西学院大学、兵庫教育大学との連絡等を行いました。また地域活動支援センターとの連携では、担当区のセンターを訪問し顔の見える関係作りに努め、ケースを通して同行支援等を行いました。発達障害者への理解と啓発を目的にアウトリーチの一環として担当区（中央区、兵庫区、長田区、須磨区）にある専門学校にアンケート調査を行いました。窓口のアピールと発達が気になる生徒について聞き取りを行い、支援につながりやすい関係作りに努め、訪問校（神戸ファッション専門学校、阪神航空鉄道専門学校）から教員向けに研修会の依頼を受け、発達障害者の理解につながるよう尽力しました。専門性の向上では関西学院大学、兵庫教育大学の講師が巡回相談で来所し、ケース検討を通じて個々の相談員のスキルアップを図り、毎月他の相談窓口との連絡会でも事例検討を行いました。また、各区の自立支援協議会（親子部会、せいしん部会、相談支援部会、就労支援事業所連絡会）に所属することで、地域の実情を把握するように努めました。引き続きグループセッションやペアレントトレーニングにも参加します。

1. 事業概要

開設年月日：2002 年 7 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業　（第 2 種）	一般相談支援	―	身体障害児・者 知的障害児・者 精神障害児・者	2002 年 7 月 1 日
	特定相談支援	―		
	障害児相談支援	―		
公益事業	神戸市発達障害者中部相談窓口	―	発達障害者	2009 年 7 月 1 日
公益事業	神戸市障害者基幹相談支援センター	―	相談支援事業者	2012 年 5 月 1 日

2. 進捗状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
相談支援の専門性の向上	内部研修の企画実施、外部研修への参加	①法人内研修への参加 ②内部研修の企画実施 ③外部研修への参加（年 2 回以上）	① ｱ）法人一般職員研修（6 月） ｲ）法人事業種別研修（児童支援）（11、1 月） ② ｱ）内部研修担当者打合せ（5、8 月）研修全 5 回実施（9、10、11 月） ③ ｱ）主な研修参加「DV 被害者支援」「医療的ケア児等支援者養成」「精神障害者の障害特性と支援技法を学ぶ」「ヤングケアラー・若者ケアラー支援」「人を育て人を変える OJT」「発達障害支援者専門研修」等（毎月）	◎
職員育成、定着	定期的な SV、ケース検討	①年 3 回のＳＶ ②朝礼時のケース共有、職員会議時のケース検討	① ｱ）グループスーパービジョン(9､2 月) ② ｱ）朝礼時の共有：年/453 件（月平均 37.5 件） ｲ）職員会議時のケース検討 年/32 件（月平均 2.6 件）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
権利擁護	虐待防止研修への参加、虐待防止委員会の検討結果を職員に周知徹底、虐待防止チェックリスト	①虐待防止研修に適時参加 ②委員会報告 4、10月 ③虐待防止セルフチェックリスト 年/2回	① ｱ) 全体職員会議時に虐待防止規定を確認（4月） ｲ) 神戸市虐待防止研修（8月)、身体拘束虐待防止研修（10月)、神戸市障害者虐待対応力向上研修（12月） ② ｱ) 全体職員会議時に苦情解決・虐待防止委員会報告（6、10月） ③ ｱ) 虐待防止セルフチェックリスト（9、2月）	○

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
業務分担の適正化	調査件数の把握、割振り	①毎月各職員に適正な調査件数を割り当てる	ｱ) 調査件数1人当たり4～16件、機能強化員、見守り支援員等他との業務調整を行う（毎月） ｲ) 前月25日前後に各担当に次月分の調査票を配布（毎月）	◎
業務分担の適正化、進捗確認	サービス等利用計画の進捗確認	①計画、モニタリング、加算取得を確認 ②事務処理遅れをなくし、当月請求を確実にする	① ｱ) 計画、モニタリング：年/122件 ｲ) 集中支援加算（4、7、9月） ｳ) 居宅支援連携加算（6、8、10、12月） ｴ) 初回加算（8、12、3月） ｵ) モニタリング加算（5、6、8、9、2月） ｶ) サービス担当者会議加算（5、6、7、9、12、1月） ② ｱ) 事務処理遅れ（5、6月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
進捗管理	月報、集計業務	①毎月10日までに神戸市に報告	ｱ) 神戸市に障害者支援センター、基幹相談支援センター、中部発達窓口各々の月報を10日までに提出（毎月）	◎
発達障害者支援	窓口連絡会、GS、ペアトレ、4窓口取りまとめ	①連絡会の取りまとめ、発達支援センターとの調整	ｱ) 窓口連絡会（毎月） ｲ) 更生相談所コンサルテーション（6、1、3月） ｳ) ペアレントトレーニング（4、5、6月）関西学院大学全体会（9月） ｴ) 巡回支援：兵庫教育大学（9月）、関西学院大学（2月）	◎

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
基本相談、一般相談	相談者対応（未登録相談含む）	①職員間でのケース共有、記録作成	ｱ) 職員会議時にケース共有：年/32件（毎月） ｲ) 未登録ケース回覧：年/180件（毎月）	◎
発達障害者相支援	地域活動支援センターとの連携、ケース共有	①地域生活支援センターへの連絡、訪問	ｱ) 中央地活、地活ヨハネ、地活長田、ゆめのの集いに連携が必要なケースの確認を行う（毎月） ｲ) ゆめのの集い見学同行（4月） ｳ) ぼちぼちはうす訪問（10月） ｴ) ゆめのの集い閉所に伴い、相談者の今後について訪問、面談、情報提供（1、2、3月）	◎
サービスの質の向上	顧客満足度調査	①年1回対象者へ調査	ｱ) 接遇アップキャンペーンポスター掲示（5、2月） ｲ) 顧客満足度調査実施 配布数、支援センター13、発達30（11月） ｳ) 法人ホームページに公表（1月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
ワンストップサービスの機能定着	各事業所の共有	①各部署と情報共有を通して連携を図り、必要な部署と協働して支援を行う	ｱ) ワークセンターひょうご、しごとサポート、発達窓口、支援センター連携ケース：年/26件（毎月）	○
個別ケースの把握	ケース記録の確認	①日報確認、ケース共有（朝礼、職員会議）	ｱ) 日報確認（1週間毎） ｲ) 朝礼時ケース共有：年/455件（毎日） ｳ) 職員会議時ケース検討：年/32件（毎月）	◎
サービスの質の向上	アメニティーの充実、環境整備	①担当者による定期的な見直しを行い、常に清潔で相談しやすい環境を提供する	ｱ) エレベーター前自動販売機撤去（5月） ｲ) 季節に応じた掲示板の張替え（毎月）	○

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
計画相談、一般相談支援の取り組み	困難ケースの対応、契約者数増	①計画相談（目標件数：28件） ②地域支援（目標件数：1件）	① ｱ) 契約者数25件⇒28件（3月） ｲ) 介護保険の移行により終了ケース、新規契約者（児童）あり（8、9、3月） ｳ) 障害児相談支援促進補助金申請1件（3月） ② ｱ) 触法ケースの地域移行支援は再犯となり未取り組み（7月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
加算要件を満たす体制確保 個別加算の取得	事業所加算の取得、維持 個別加算の確実な取得	①加算対象研修を受講 ②個別加算を月/3件以上を目標とする	ｱ）強度行動障害支援者養成研修（京都、大阪、兵庫）に申し込むが多数応募のため受講に至らず（5、8、10 月） ② ｱ）個別加算：年/33 件、月平均/2.75 件	△
調査業務の遂行	委託調査業務（勘案、認定区分、移動支援、訪問入浴）	①勘案 600 件 ②移動支援 24 件 ③訪問入浴 1 件の委託業務の遂行	① ｱ）勘案：上半期 305 件、下半期 321 件 ② ｱ）移動支援：上半期 19 件、下半期 13 件 ③ ｱ）認定区分：上半期 51 件、下半期 35 件 ｲ）訪問入浴なし	◎

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
地域生活支援拠点としての役割	基幹福祉避難所と連携した要援護者支援	①基幹福祉避難所開設訓練に参加（4 か所）	ｱ）モーツアルト兵庫駅前(11 月)、真愛あらたホーム、浜山高齢者介護センター（12 月)、ラグナケア中道（1 月）の訓練に参加	◎
	見守り支援事業（相談員連絡会、関係機関連携、訪問）	①台帳に基づいた訪問、状況把握 ②他センターとの情報共有	① ｱ）台帳に基づいた訪問、対応 84 件（年間） ｲ）緊急時（台風接近）の安否確認と避難時の注意喚起を行う（8 月） ｳ）新台帳の整備による突合作業（2、3 月） ② ｱ）見守り支援員連絡会（毎月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域生活支援拠点としての役割	地域支援機能強化（地域支援員連絡会）	①施設病院訪問 ②研修企画 ③連絡会参加	① ｱ）神戸市救護施設を訪問（5月） ｲ）入所施設（さざんか療護園、陽気会、ライフセンター神戸）、グループホーム（レモンホーム）を訪問（6、10月） ② ｱ）地域支援機能強化事業研修（1月） ｲ）ワークホーム明友にて出張研修（2月） ③ ｱ）地域支援員連絡会（毎月）	◎
	緊急ショート受け入れ調整、相談	①セーフティーネット機能として、受け入れ調整、相談	ｱ）緊急受け入れ調整相談：年/9件 ｲ）拠点コーディネーター会議（偶数月）	
社会福祉協議会と連携した取り組み	ほっとかへんネットへの参画	①生活環境改善事業 ②実務者会 ③相談・災害プロジェクトへの参加	① ｱ）実績なし ② ｱ）「花みさき」にて実務者会、年度報告（7月）、役員会（2月） ③ ｱ）相談プロジェクト（8、9、10、11、1月） ｲ）災害プロジェクト（8、9，11月） ｳ）みさき公園出張相談会（10月）、災害支援研修会（12月）、炊き出し・相談イベント（3月）	◎
地域ニーズの把握と対応	身体知的相談員連絡会の開催	①報告書取りまとめ、研修会を開催（年3回）	ｱ）相談員連絡会（4、8、12月） ｲ）委嘱式（8月） ｳ）連絡会及び研修会（12月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域課題の抽出	自立支援協議会事務局運営（運営員会、各作業部会、個別支援会議）	①3つの部会、4つのプロジェクトを運営し活性化を図る ②個別支援会議の開催	① ｱ）相談支援部会（7、11、1、3月） 計画相談の集い（4、6、10、12、2月） 3区（兵庫、長田、須磨）合同（9月） ｲ）防災を考える部会（6、8、9、10、12、2月） ふれあいワークショップ（10月） 兵庫区総合防災訓練（3月） ｳ）活性化部会（7、10、11、1、3月） ｴ）子育て支援ネットワーク（4、6、8、10、11、12、2月） 地域でつなぐ安心フェア（12月） ｵ）事業所ネットワーク（6、7、8、9、10、2月） ｶ）ハートンマルシェ（毎月）、煉瓦倉庫ユニバーサルマルシェ（6、11月） ｷ）のりあいネットワーク（3月） ｸ）全体会（5月） ② ｱ）個別支援会議（5、9、2月）	◎
支援者への後方支援	市内特定相談支援事業者連絡会の開催	①サービス利用計画、モニタリング検証、行政説明により相談員の質を向上させる	ｱ）ファーストレベル研修Ⅱ・参加者25名（7月）、ファーストレベル研修Ⅰ・参加者24名（12月） ｲ）市内特定相談支援事業所連絡会及び研修会・参会者81名（11、12月）	◎
相談支援体制強化	圏域コーディネーター連絡会で最新の動向、情報収集	①ネットワークを構築し、他圏域の動向、情報収集する	ｱ）圏域コーディネーター連絡会にて兵庫県より情報提供、圏域の相談支援関連の状況、意見交換（毎月） ｲ）コーディネーター連絡会（奇数月） ｳ）機能強化員自主連絡会（毎月） ｴ）センター連絡協議会（毎月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
相談支援体制強化	法定研修への協力(演習講師)	①初任者研修、現任者研修に協力、相談支援専門員を育成する	ｱ) 初任者研修企画構成委員会（5、8、9、10、11月） ｲ) 現任研修演習講師（9、2月）	○
発達障害者の理解と啓発	各種学校にｱｳﾄﾘｰﾁを行い、関係各所と連携を図る	①定時制高校、専門学校に発達障害者に対するアンケート調査、訪問	ｱ) 神戸ファッション専門学（8月）、阪神航空鉄道専門学校（3月）から教職員向け研修依頼 ｲ) 甲陽音楽＆ダンス専門学校訪問（12月） ｳ) 圏域専門学校（27校）へのアンケート調査（9月）	◎

3. 事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	1件	1件	0件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）						
ヒヤリ件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件

4.出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　ひょうごデイサービスセンター
施設長　大嶋　信幸

ひょうごデイサービスセンターの基本方針

1. 利用者に重い障がいがあっても、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう、『笑顔と真心』で支援する。
2. 利用者の『人権を尊重』し、『喜びと感動』を生み出すサービス提供に努める。
3. 利用者と家族の悩みや課題をしっかりと受け止め、個別支援計画に基づき、『専門性とチームワーク』による『質の高い思いやりのあるサービス』を提供し、『地域社会に貢献』する。
4. 今までの手段や方法にこだわらず、人の持つ『知恵と無限の可能性』を信じ、『絶えず前進』することに努める。

第 5 期中期計画のビジョン

利用者・家族の心の拠り所となる事業所を目指します。

2023 年度の事業報告について

今年度からスタートした第 5 期中期計画では、各実行計画の責任者（職制）とは別に担当者の中からリーダーを決めて、リーダーを中心にして計画に取り組みました。初めての試みでしたが、責任者がフォローをしながら一緒に取り組むことでリーダーの育成に努めました。

学習と成長の視点では、年 4 回開催している内部研修とは別に、職員が講師を務める勉強会を年 8 回開催しました。「リフト操作」「更衣介助」「排泄・オムツ介助」などの基本的な介護技術の確認をすることで安全安心な支援に繋げると共に、講師を担う職員自身も振り返りを行いながら知識を深めることができました。

顧客の視点では、適切なアセスメントによるご利用者のニーズの把握とアプローチができることを目指して、今年度は法人総合職員研修の各施設の実践例から、利用者主体の視点や支援のプロセスを学ぶ機会としました。過去の発表の中から 2 つの題材を選び、着目すべき点を整理した上で職員が視聴しました。様々な利用者主体の支援を学び、感想を共有することで、各自が新たな気づきを得ることができました。

地域公益の視点では、地域との関係性の構築に向けて、隣接するキャナルタウンイーストの自治会役員会に参加をさせていただき､現状の困りごとや課題について聞き取りを行いました。その結果、自治会役員が隔週で担っているゴミ置き場の段ボールや古紙の整理を協力することになり、10 月から開始することができました。この取り組みをきっかけに、自治会や地域住民との関わりを広げていきたいと思います。

財務の視点では、利用者 4 名の入所移行と 1 名の退所、入院等に伴う利用減も多く非常に厳しい状況が続きましたが、2 月以降に 2 名の新規利用者の受け入れができました。引き続き、新たなご利用者の確保に努めていきます。

ご利用者・ご家族の高齢化や状況の変化に伴い、ニーズも多様化しています。気持ちに寄り添い、柔軟に対応していくことで、ご利用者・ご家族の心の拠り所となる事業所を目指していきます。

1．事業概要

開設年月日：1996 年 5 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	25 名	身体・知的障害者	2006 年 10 月 1 日
老人ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ （第 2 種）	共生型通所介護		要介護高齢者 障害者	2018 年 9 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労継続支援 B 型	15 名	身体・知的障害者	2006 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	重心・生活介護	20 名	重症心身障害者	2012 年 4 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	短期入所	6 名	身体・知的障害者	2016 年 4 月 1 日
公益事業	日中一時支援		身体・知的障害者	2018 年 10 月 1 日

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
職員の知識・技術力に応じた人材育成	研修として必要なものを検討した上で、外部研修に参加	①職員の知識・技術力に応じて必要と考えられる研修を検討	ｱ)「自身の長所を活かすために受けたい研修」のアンケート実施(4 月) ｲ)「短所を補うために受けたい研修」のアンケート実施(5 月) ｳ) アンケート集計。まずは担当者の中で必要と考えられる研修を検討（6 月～8 月） ｴ) 必要な研修のテーマをカテゴリー別に分類を決定(11 月～1 月) ｵ) 決定した研修テーマのカテゴリーを基に各職員の振り分けを実施（2～3 月）	○
	各事業所における業務の課題を抽出・分析・還元（研修・マニュアル更新等）	①各事業所（インクルージョン・生活介護・就労 B)における業務課題を抽出 ②抽出した業務課題を分析し解決 ③解決した内容の研修やマニュアルの更新を実施	① ｱ) セクション共通の利用者の個別支援についての課題抽出(5 月、6 月) ｲ) 対象者を 2 名に決定(7 月) ② ｱ) 抽出した支援課題分析(7 月～9 月) ③ ｱ) 対象者 2 名の支援方法について確認全職員に共有できるよう紙面にまとめる作業を実施(11 月～2 月) ｲ) 支援内容をまとめた紙面の共有方法について検討し、各セクションにて回覧することが決定(3 月)	△

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
内部研修の充実（制度・知識・技術）	職員の知識と技術の向上	①内部研修の開催（年 4 回） ②勉強会の開催（年 8 回）	① ｱ）第 1 回「新着職員研修」（5 月） ※第 2 回「AED・心肺蘇生」は講師の都合で中止(次年度に延期) ｲ）第 3 回「虐待防止」（11 月） ｳ）第 4 回「理念研修」（1 月） ② ｱ）第 1 回「リフト操作」（5 月） ｲ）第 2 回「衣類の着脱」（6 月） ｳ）第 3 回「排泄・オムツ介助」（7 月） ｴ）第 4 回「てんかん」（8 月） ｵ）第 5 回「成年後見制度」（9 月） ｶ）第 6 回「感染症予防」（10 月） ｷ）第 7 回「移動介助」（12 月） ｸ）第 8 回「移乗介助」（3 月）	◎

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
ひょうごデイ全体で業務内容を見直し、業務改善を図る	ひょうごデイ全体で協力できる体制づくり	①ひょうごデイ全体で協力できる業務の洗い出し	ｱ）協力できそうな業務についてのアンケート実施(5 月) ｲ) 協力できる 2 項目（送迎到着時の迎え洗濯業務)について試行(7 月) ｳ）新たに協力できる業務についてアンケート実施(2 月) ｴ）次年度の取り組み決定(3 月)	○
誰もが取り組める ICT 化を目指し、業務の効率化を図る	DX 化への理解を深め、導入製品の検討を行う	①DX 化への理解を深めるための勉強会を開催 ②バリアフリー展等での情報収集	① ｱ) 勉強会のための資料を作成し、内容を共有・検討(6 月～8 月) ｲ）勉強会の日程を決定(9 月) ｳ) 勉強会の開催・理解度についてのアンケート実施(10・11 月) ② ｱ）バリアフリー展への参加(4 月) ｲ）収集した情報の共有(5 月) ｳ）次年度年間計画の確認(2 月) ｴ）神戸光生園にて記録ソフトについての情報収集を実施(3 月)	○

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
個別支援の質を上げる	ニーズを把握する	①各職員が自身の支援力の向上を目指せる研修プログラムを検討し、実施	ｱ) 過去の総合職員研修の発表から学びの題材を選定（5月～7月） ｲ) 各セクションの職員で発表作品を見てもらい、得た学びについてアンケート実施(8月～9月) ｳ) 2022年度総合職員研修の発表8作品から題材を選定(10月～12月) ｴ) 現状に沿った学びのテーマを検討し次年度の題材を選定	○
	各セクションの特色の見直し	①各セクションでの支援事例を共有し、多角的視点による検証	ｱ) 各事業所利用者の中から普段関わりが少ない利用者を選出(5月～6月) ｲ) 対象利用者への知識を深め、関わりの中からニーズを抽出(7月～9月) ｳ) 対象利用者の支援について各セクション取り組み内容を共有(10月) ｴ) センター全体で支援を実施 ｵ) 対象利用者のモニタリング実施（11月、3月）	○

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
新規利用者の確保に向けてのアプローチ	広報ツールの作成及び活用	①対象者及びツールの活用方法を検討 ②事業案内の広報ツールの作成	① ｱ) 対象者を相談支援事業所、支援学校等に決定(4月) ｲ) 活用方法(ツール作成後に各関係機関に持参し営業活動)を検討（4月～6月） ② ｱ) 事業所毎にパンフレットを作成することとし、まずは生活介護事業から作成(6月) ｲ) レイアウトを検討(8月) ｳ) 作成のための写真等を選定（10月～12月） ｴ) 原案を作成(2月)	△

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
新規利用者の確保に向けてのアプローチ	サービス内容の再考	①現状のサービス内容の確認 ②サービスの拡充等の可能性を検討	① ｱ）現状の確認（4月） ② ｱ）サービスの拡充について職員アンケートを実施（7月） ｲ）アンケート結果をまとめた資料作成（9月、10月） ｳ）資料を基に今後の取り組みについて再検討（2月）	△
収支バランスの健全化	曜日毎の適正な受け入れ	①利用者の受け入れ可能状況を可視化 ②曜日毎の適正な受け入れを促進	① ｱ）各曜日の利用状況（送迎･入浴･訓練･食事）を集約した表を作成（7月、8月） ｲ）表を基に各曜日の空き状況を確認（9月） ｳ）利用曜日増に向けて利用者毎の利用状況が把握できる表を作成（12月） ② ｱ）各曜日の空き状況を精査しセクションにて共有（1月）	○

（5）地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域と関わる機会を増やす	地域と関わる新たな機会を検討し取り組む	①新たな交流機会を検討 ②関連機関と連絡調整、関係性構築	① ｱ）キャナルタウンイースト自治会役員会に参加（4月、5月、7月） ② ｱ）自治会役員から現状の課題をヒアリング（6月） ｲ）ゴミ置き場の段ボール、古紙の整理について協議（7月） ｳ）自治会役員より整理方法のレクチャー（8月） ｴ）住宅段ボール庫の整理開始（毎月第1、3、5週の月曜日に実施） ｵ）地域担当メンバーに整理方法をレクチャー（1月～3月）	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域公益に対する知見を広げる	地域公益に対する理解を深める	①地域公益に関する資料等の準備 ②地域公益に関する勉強会の開催	① ｱ)厚生労働省の資料を基に担当者で勉強会を実施(5月) ｲ)地域公益活動の参考事例を共有(6月) ② ｱ)職員全体勉強会の開催(11月) ｲ)アンケート結果の共有(1月)	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷、表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0件	5件	4件	3件	0件	1件	5件	39件	57件	1件

※その他：返却漏れ11件、食事注文間違い5件など

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	転倒、滑落	誤配膳	送迎漏れ	誤薬	その他	計
ヒヤリ件数	2件	1件	1件	1件	6件	11件

4．出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　神戸市立自立センターひょうご
施設長　　大森　陽子

神戸市立自立センターひょうごの基本方針

1. 利用者の人権を尊重し、『心の声』に耳を傾け、寄り添い、共に歩みます。
2. 利用者が地域の中でその人らしく暮らすことを支えるため、『福祉のプロ』集団として個々の専門性を高め、チームワークによる質の高いサービス提供を目指します。
3. 地域の社会資源として、諸機関・諸団体と連携し、地域福祉の向上に努めます。

第 5 期中期計画のビジョン

利用者・家族・職員が自分らしい夢を持ち、チャレンジすることを応援できる自立センターとなります。

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画 1 年目の 2023 年度は、5 つの重点実施項目を中心に、視点ごとのチームによる取り組みを進めました。

1 つ目「職員育成の仕組みづくり」では、学習と成長の視点チームでリストアップしたものをもとに、必要と思われるスキルについての職員アンケートを実施し、「習得すべきスキルリスト」を完成させました。また、計画的な職員育成が行えるよう、職員育成プログラム運用委員会を設立し、運用の手引きも作成しました。今後はこれに沿って運用を進めます。

2 つ目「わかりやすいマニュアルの整備と活用」では、グループごとの業務マニュアルを完成させることができました。今後は必要に応じた更新、ブラッシュアップを重ねることで、積極的に活用していきます。

3 つ目「意思決定支援」では、顧客の視点チーム内で 5 回の勉強会を重ね、チームメンバーが講師となって全職員向けの勉強会とグループディスカッションを行いました。意思決定支援についての共通理解を持つことができましたので、今後もさらに学びを深めることにより、ご利用者の意思表出行動の背景にある思いにチューニングできる能力を高めていきます。

4 つ目「利用者・家族の将来の安心」では、グループホーム建設に向け、3 か所のグループホーム見学と情報収集を行いました。その後、チームのメンバーで自立センターのグループホームに求められることを検討し、コンセプトを定めました。また、建て貸し方式でのグループホーム建設実績がある住宅メーカーと面談し、土地探しを始めましたが、今年度は希望する地域での土地確保には至りませんでした。

5 つ目「福祉教育への参画」では、近隣の小中学校や支援学校のホームページを確認し、交流方法の検討を進めました。11 月に開催したハワイアンコンサートに近隣の放課後等デイサービスの方々が参加してくださり、交流が持てたことはうれしい成果でした。今後も継続した関係づくりに努め、地域との交流を深めていきたいと思います。

いずれの計画についても概ね予定通りに進捗し、達成に向けた土台作りができた 1 年となりました。ビジョンの実現に向け、これからも邁進していきます。

1．事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	60名	知的障害者	2007年4月1日
老人ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ　(第2種)	共生型通所介護		要介護高齢者	2018年9月1日

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
スキルの習得･向上	必要とされるスキルの明確化 リストアップと見直し	①職員にアンケートを実施 ②必要なスキルのリストアップと共有	① ｱ) アンケート用に必要とされるスキルをチーム内で選出。Googleフォームでのアンケートフォームの作成 ｲ)Googleフォームでのアンケートを実施（10月） ② ｱ) 集計結果よりスキルのリストアップ、「自立センターひょうご習得すべきスキルリスト」を作成(2月) ｲ) スキルリストについて、全体へ共有（3月）	◎
職員育成の仕組みづくり	職員育成プログラム（システム）の作成と運用	職員育成のプログラム（システム）の検討と構築	ｱ) 既存の職員育成プログラムの改善案のまとめ ｲ) スキルリストに沿った研修の検討、設定 ｳ) 職員育成プログラム運用の手引き作成（3月） ｴ) 職員育成プログラム運用委員会を設立（3月）	◎
介護技術向上	介護技術に関する研修の定期的な開催	理学療法士による内部研修の開催（年3回）	ｱ) 内部研修の内容検討、打合せ ｲ) 理学療法士による介護技術向上のための第1回内部研修を実施(9月) ｳ) 理学療法士による介護技術向上のための第2回内部研修を実施(12月) ｴ) 理学療法士による介護技術向上のための第3回内部研修を実施(2月)	◎

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
人材確保	福祉の仕事の魅力（仕事していて嬉しい、良かったこと）を SNS で発信	①自立新聞にコラム掲載 ②自立センターの SNS 開設 ③SNS の更新（月 1 回）	① ｱ) 自立新聞発行(6、11、1、3 月) ② ｱ) SNS（インスタグラム）開設(5 月) ③ ｱ) SNS の更新(週 3 回程度) ｲ) 職員 7 名のインタビュー記事を投稿。 ｳ) 職員研修の様子を投稿(3 月)	◎

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
業務内容の整理と効率化	業務の整理・業務改善の実施	①業務についてのアンケート実施 ②業務改善の実施	① ｱ) 業務についてのアンケート実施(5 月) ② ｱ) 業務改善の実施(10 月：倉庫内、車椅子整理、11 月：スロープの整理、3 グループ室内の棚整理、2 月：和室整理、2 グループ室内レイアウト変更、3 月：自立課題整理)	◎
わかりやすいマニュアルの整備と活用	各グループの業務マニュアルの作成・見直し	①1・2・3 グループの業務マニュアルの作成	ｱ) 1・2・3 グループの利用者個人マニュアルの完成 ｲ) 個人マニュアルをもとに業務マニュアルの完成	◎
	自立センターのマニュアルの整理	①現在ある各種マニュアルの確認と整理	ｱ) 法人の書式を使用しているマニュアルの確認と修正 ｲ) 自立センター独自のマニュアルの確認	◎
広報活動の充実	自立センターの活動を SNS で発信	①自立センターの SNS 開設 ②年 6 回以上更新	① ｱ) SNS（インスタグラム）開設(5 月) ② ｱ) 利用者の活動の様子などを週 2～3 回更新	◎

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
意思決定支援	利用者の意思決定支援の実施（思いを引き出す支援）	①意思決定支援の勉強会の開催 ②意思決定支援を実践していくための方法の検討	① ｱ) チームメンバーでの意思決定支援勉強会を5回実施(4～9月) ｲ) サポーターへの進捗報告(6、10月) ｳ) 意思決定支援の外部研修に参加 (9、11、2月) ｴ) 職員向けの意思決定支援勉強会の開催 (2月) ② ｱ) 意思決定支援についてのグループディスカッション(2月) ｲ) お茶会にてドリンクの選択機会の提供を試行。各利用者の意思決定方法の確認(3月)	◎
利用者・家族の将来の安心	グループホーム運営	①グループホーム見学 ②グループホーム建設に向けた情報収集	① ｱ)「ホーム佑友」見学(5月) ｲ) 家族会で「グループホームのぞみ」見学（8月） ｳ) チームメンバーで「グループホームのぞみ」「グループホームふくだ」見学 (12月) ② ｱ) 積水ハウスとの面談(6、7、2月) 11月に土地情報があったが、希望エリア外のため見送り ｲ) 職員向けアンケートの実施と集計結果の共有(6、7月) ｳ) 神戸市とグループホームについての意見交換(9月) ｴ) グループホームのコンセプト決定 (3月)	○
	未来ノートの内容の共有・見直し	①未来ノートの内容の共有・見直し（モニタリング時に未来ノートの「将来の目標」のページを確認）	ｱ) 未来ノート未提出者の確認(6月) ｲ) モニタリング時に家族との内容の確認 ｳ)「将来の目標」のページについて、未提出者向けに記入例を作成・配付 (11月)	○

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
高齢化への対応	高齢化に対応した環境整備・改修	①環境整備が必要な箇所の洗い出し ②1 箇所以上の整備	① ｱ) 職員向けアンケートの検討、完成 (4～6 月) ｲ) アンケート配付、集計(7 月) ｳ) アンケート結果共有(8 月) ② ｱ) 和室にスロープと手すりを設置(2 月)	◎

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
安定した収入の確保計画	人員配置計画の策定（増員）	①人員配置計画の策定	ｱ) 毎月の人員配置状況の確認 ｲ) 職員採用 ・看護師 1 名(5 月) ・生活支援員(パート)1 名(8 月) ・生活支援員(臨時)4 名 (9、11、12 月) ｳ) 常勤看護職員等配置加算取得(5 月～) ｴ) 人員配置体制加算Ⅱ(2：1)取得 (12 月～)	○
	利用希望調査の実施、利用率アップのための検討（営業日数増加等）	①利用希望調査の実施 ②利用率アップの検討	① ｱ) 利用希望調査（昨年度実施）の結果をもとに年間 5 回の土曜開所を決定。年間開所予定を案内(4 月) ｲ) 祝日・土曜日の利用アンケート実施 ② ｱ) 土曜日開所実施(年 6 回、うち 1 回は 8 月休業の振替開所) ｲ) 職員会議において、グループごとに利用率アップについて意見交換(9 月)	◎
長期的な新規利用者受け入れ計画	利用見込みの把握、グループの再編成を含めた新規利用者の受け入れ体制づくり	①新規利用者の受け入れ体制の検討と整備	ｱ) 毎月の各グループの利用状況の確認 ｲ) 施設紹介パンフレット更新(10 月) ｳ) 青陽須磨支援学校実習受入れ (6、10 月) ｴ) 盲学校実習受入れ(9 月) ｵ) 新規利用者受け入れ 4 名(5、2、3 月)	◎

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
支援学校との連携強化	連携方法の検討と実施	連携方法の検討	ｱ) 各支援学校の進路担当者の確認。 ｲ) 支援学校・相談支援センターへの空き状況の発信。 ｳ) 支援学校 3 校と相談支援センター 1 か所の訪問(6～7 月、11 月) ｴ) 友生支援学校、青陽須磨支援学校見学受入れ(8、2 月) ｵ) 友生支援学校職員研修に講師として参加(8 月) ｶ) 祝日プログラム（ハワイアンコンサート）のポスター・チラシ配付(11 月)	◎

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
地域交流行事の継続・発展	よつば寄席の実施	①よつば寄席の実施（年 2 回） ②神戸マツダでの寄席実施の検討	① ｱ) 第 8 回よつば寄席を開催し、地域の方 42 名が参加。利用者・職員による演奏を披露(7 月) ｲ) 第 9 回よつば寄席を開催し、地域の方 37 名が参加(11 月) ② ｱ) 神戸マツダでの寄席実施について検討	◎
地域企業との関係性の強化	地域清掃、地域交流の実施による地域への発信	①清掃以外の定期的な地域交流の検討	ｱ) 地域清掃実施(4、5、6、9、10、11、12、3 月)※7、8 月は猛暑月、1、2 月は寒冷月のため中止。 ｲ) 清掃以外での定期的な地域交流について検討 ｳ) 神戸マツダ前花壇の植え替え(12 月)	◎
福祉教育への参画	近隣小中学校との交流	①近隣小中学校との交流方法の検討	ｱ) 近隣小中学校、支援学校のホームページの確認 ｲ) 近隣中学校、支援学校対象にコンサートへの招待（ポスター・チラシ配付) ｳ) ハワイアンコンサートに近隣の放課後等デイサービスの利用者・職員 15 名が参加(11 月) ｴ) 水木小学校にペットボトルキャップ持参(3 月)	◎

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	1件	26件	1件	1件	0件	2件	0件	54件	85件	2件

※その他：利用者間の接触19件、書類の入れ間違い6件、歯ブラシの間違い3件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	利用者間の接触	転倒しそうになる	服薬関係	送迎関係	その他	計
ヒヤリ件数	8件	8件	3件	3件	19件	41件

※その他：物損2件、備品の返却忘れ2件

4．出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　ワークセンターわかまつ
施設長　岩本　康則

ワークセンターわかまつの基本方針

1. 法人の基本理念に基づき、ご利用者のニーズに即した支援を行います。
2. 個別支援計画に基づき、人権を尊重し支援を行います。
3. 就労継続支援施設として、働く喜び、社会人としての役割などを伝えていきます。
4. “人間力づくり”“こころづくり”“ものづくり”ができるよう支援します。

第 5 期中期計画のビジョン

1. **わかまつらしく地域に根を拡げていきます。**
2. **わかまつらしくそれぞれのステージに合わせ、つながる支援を行います。**

2023 年度の事業報告について

第 5 期中期計画の 1 年目は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、コロナとの本格的な共存の年となりました。これまでどおり感染対策をしっかり行うことで、外出機会や販売活動を増やすことができ、コロナ前の活動に近い状況にまでに戻ることができました。

次に、今年度の計画で掲げていたご利用者の年齢・障害特性・生活状況を踏まえた総合的な支援ですが、ご利用者の中には関係機関の協力により、新たな生活場所や日中活動場所への移行が順調に進んだ方も見られ、一定の成果がありました。しかし、家庭環境の変化により、新たに生活面に課題が出てきた方も複数おられ、引き続き関係機関と連携しながら、利用者の状況に合った支援を行っていきます。また、施設としては着実に高齢化を迎えつつあります。その現実を踏まえて、新規利用者の獲得に向けて、見学・実習受け入れなどの活動を行ってきましたが、新規利用者獲得には至りませんでした。次年度は、施設の持続可能な運営の観点からも、現在のご利用者への対応と同時に、新規利用者獲得にもよりいっそう注力していきます。

続いて作業ですが、平均月額工賃が前年度比で 616 円増となりました。背景には、焼き菓子販売と受注作業（タイガース需要含む）の売上が順調であったことがあります。焼き菓子については、外部販売の強化や「ふくぺこ（オフィスグリコの福祉版）」への新規参入により、売上拡大ができました。また、兵庫セルプの「障害者工賃向上支援アドバイザー等派遣事業」によりパティシエを派遣していただき、今後の商品改良に向けて始動できました。受注作業では、作業環境の整備等で折り合いがつかず、昨夏に大口の新規作業導入を断念しましたが、昨秋に新たに別の事業所と取引を始めることができました。その新規事業所と信頼関係構築をしていく中で、安定的な新規作業（箱作業）を得ることができました。次年度も春夏商品用の箱の話があり、今後もしっかりと関係構築を図り、作業確保に努めていきます。

最後に、「まつぼっくり」ですが、コロナ 5 類移行後、お客様も少しずつ戻ってきています。これまでは感染対策のため席数を減らして営業していましたが、2024 年の年明け以降、席数を元に戻し、売上増に向けた環境整備を行いました。今後、よりいっそうの売上増を目指します。また、大正筋商店街の活動（夜市、認知症見守り訓練など）にも参加し、地域への浸透を図りました。今後も様々な活動を通して、地域への浸透を図って行きます。

1. 事業概要

開設年月日：2004 年 10 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労継続支援 B 型	40 名	知的障害者

2.推進状況

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
WLB を推進し、働きやすい環境の整備	有給休暇の取得率の向上	①ノー残業デーの実施	ｱ) ノー残業デー週 2 日の曜日決定(4 月) ｲ) 朝礼でのノー残業デー周知(5～3 月) ｳ) 職員体制の問題から実施困難	×
		①有給休暇の取得促進	ｱ) 職員会議で、有給休暇の取得勧奨 (5～3 月)	○
専門性の向上	Web 研修を含めた研修に積極的に参加	①法人内･外の研修受講	ｱ) 内部研修： 6 研修 38 名 ｲ) 外部研修：計 6 研修 8 名参加	○
		①研修内容の共有	ｱ) 伝達研修：1 回（7 月） ｲ) 研修内容の回覧	△
積極的な実習の受け入れ	各種実習の受け入れ	①様々な実習の受入	ｱ) 相談援助実習:30 日延べ 3 名 ｲ) 歯科衛生実習：5 日計 6 名 ｳ) ワークキャンプ:3 日計 2 名 ｴ) 介護実習：8 日計 2 名 ｵ) 保育実習:11 日 1 名、10 日 1 名	○

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
各種マニュアル・BCP を定期的に更新	各種マニュアル・BCP の年 1 回以上の更新	マニュアル・BCP 更新	ｱ) 支援マニュアルの確認 (5 月) ｲ) 虐待防止、身体拘束、車両事故対応マニュアル等の確認及び周知(7 月) ｳ) BCP 内容更新（1 月）	○
リスクマネジメントの強化	防火・防災、防犯､虐待防止等のレベル強化	①防火･防災訓練の実施	ｱ) 消防設備点検（5,11 月） ｲ) 消防・防災訓練(6、11 月) ｳ) 防火防災管理者講習(8 月)	○
		②防犯､虐待防止等の研修の実施	ｱ) 防犯研修未実施 ｲ) 虐待防止研修(7 月)	△

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
定期的に第三者評価を受審	第三者評価の受審	①2024年度の第三者評価受審に向け、申し込み、事前準備	ｱ)はりま総合福祉評価センターに来年度受審に向けて申し込み方法等を確認（7月） ｲ) 第三者評価受診申込(3月)	○
広報活動の充実	定期的な広報活動の実施	①HP 更新・わかまつ通信定期発行	ｱ) ホームページの更新（4月） ｲ) ほっとかへんネット長田HPに地域貢献活動（まつぼっくり）投稿(7,1月) ｳ) わかまつ通信発行(7,11,3月)	○

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
個別ニーズに対応し、他機関との連携の強化	ご利用者のステージに合わせた支援の実施	①再アセスメントの実施	ｱ) 個別支援計画策定(4月) ｲ) 職能評価(5,6月) ｳ) モニタリング（8,9,2,3月）	○
作業種目の見直し・商品の改良等により、工賃収入増	新規作業を獲得､わかまつ商品の改良と販路を拡大	①5,054千円/年 10,800円/月（39名）	ｱ) 神戸女子大学オープンキャンパス納品（7,8,9,12月） ｲ) 神戸女子大学園祭(11月) ｳ) ふくぺこ/友生支援、いぶき明生（8、10、12、2月） ｴ) 新規作業（お菓子の箱組立）の獲得（9～3月） ｵ) 障害者工賃向上アドバイザー等派遣事業（11,3月） ｶ) 月額平均工賃11,635円（前年比616円増)	○
利用者自治会・家族会との連携	利用者自治会･家族会の継続 満足度調査の実施	①利用者自治会の継続	ｱ) 利用者自治会（4,6,8,10,12,2月）	○
		①家族会との協力	ｱ) 家族会(4,5,7,11,1,3月)	○
		満足度調査実施	ｱ) 満足度調査実施（11～12月） ｲ) 満足度調査報告（利用者：2月、家族：3月）	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
成年後見制度の推進	成年後見制度の利用者増	①ご利用者の優先順位を策定し推進	ｱ)モニタリング時に個別に制度について情報提供(9, 2 , 3 月) ｲ) 優先順位は未策定	×

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
利用率の向上による収入増	関係機関(相談支援センター,計画相談事業所,支援学校等)との連携	①新規ご利用者2名獲得 (40名)	ｱ) 新規利用者未確保 ｲ) 利用希望者見学対応(5,6,7月) ｳ) 新規利用希望者体験実習(6,1月) ｴ) 相談支援機関への営業活動と支援機関の見学受け入れ (5,6,11月) ｵ) 長田事業所フェア参加 (2月)	×
計画的にメンテナンスを実施	LED化、老朽箇所への対応	①LED改修計画・補助金の検討	ｱ) LED改修計画・補助金の検討未実施 ｲ) LED工事打ち合せ、再見積もり (5月) ｳ) 作業場空調設備入替工事(6月) ｴ) 女性ﾄｲﾚ電球工事(8月) ｵ) 作業場天井水漏れ工事 (8～9月) ｶ) 地下3階空調設備水漏れ補修工事 (9月)	×

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
まつぼっくりを地域貢献の拠点とする	認知症カフェの継続･地域イベントへの参加	①認知症カフェ継続	ｱ) 認知症カフェ(4～3月)	△
		①地域イベント参加	ｱ) 大正筋商店夜市(7月) ｲ) 認知症高齢者等声掛け訓練(2月)	○
関係機関との連携を強化	自立支援協議会、ほっとかへんネット長田との連携	①自立支援協・ほっとかへんネットとの連携	ｱ) 須磨区自立支援協議会総会(5月) ｲ) ほっとかへんネット長田総会(5月) ｳ) 長田区自立支援協議会総会(6月) ｴ) 新長田北地区防災訓練 (10月) ｵ) ほっとかへんネット長田広報活動 (10月) ｶ) 「にげよう！プロジェクト避難訓練」 (11月)	○

3. 事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	1件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	3件	4件	1件

※骨折：支援中の職員の怪我

※その他：車両事故、配薬

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	作業関係	所在確認	洗面	予定確認		
ヒヤリ件数	4件	2件	1件	2件	件	件

※洗面：うがいの際、ご利用者が口内炎患部に消毒液を指で付けた件

4. 出来した事案

（1）特にありません。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　せいれいやさかだい
施設長　岩井　誠一

せいれいやさかだいの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援・サービスを提供します。
2. 小集団において一人ひとりが主体性を発揮し、自己表現できる集団作りを目指します。
3. 企業内事業所としての与えられた仕事に責任を持って取り組み、社会参加の喜びを提供します。
4. 生活介護事業所(友が丘事業所)のプログラムのオープン活用と、地域に開かれたサービス提供を目指します。
5. 親なき後の安心、安全な生活実現を目指します。

第 5 期中期計画のビジョン

利用者の「やりがい・生きがい・働きがい」を叶える居場所となります。

2023 年度の事業報告について

せいれいやさかだいの事業課題は定員数の確保です。これまで関係機関や支援学校等に働きかけを続けてきましたが、思うような結果を出すことができず皆さんにご心配をおかけしています。11 月に新規利用者（就 B）1 名と契約。1 月(生活)・3 月(就 B)と続けて 2 名の新規契約をすることができました。2024 年 4 月には、新たに 1 名(就 B)の契約も決定したことで、生活介護 27 名・就労継続支援 B 型 15 名となり定員数が満たされました。ようやく他事業所と同じスタートラインに立てたと喜びを感じています。ですがご利用者の中には利用回数の少ない方も多く、生活介護では、発作による骨折から入院・リハビリと長期に渡り欠席されている方がいらっしゃるなど課題も多く、引き続き新規利用者の獲得が必要な状況は続いています。

新型コロナの 5 類移行を受けて、ボランティアの受入れ・地域交流イベントへの参加を徐々に増やしています。コロナ禍により地域のボランティアとの交流が断たれ、新たに関係性の構築が必要になりますが、焦らず関係性の構築を図りたいと思います。

今回の報酬改定では、就労継続支援 B 型の平均工賃支給額が 10,000 円以上を達成することが叶い、基本単価が 600 単位と増額になりました。これまでの企業以外からの作業受託について、引き続き積極的に受け入れを図り、ご利用者のやりがいと満足感の向上に努力してまいります。

1. 事業概要

開設年月日：1991 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	10 名	身体・知的障害者	1991 年 4 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	就労継続支援 B 型	15 名	身体・知的障害者	2005 年 4 月 1 日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	生活介護	15 名	身体・知的障害者	2021 年 1 月 4 日

2. 推進状況

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
職場の活性化	農福連携の作業参加と可能性の共有	①新農作業の内部連携と年間計画に沿った実行 (淡路島で農作業) ｱ)除草作業 ｲ)玉ねぎ収穫 ｳ)さつまいもの定植 ｴ)ジャガイモ、さつまいも収穫作業	ｱ) 玉ねぎ収穫作業時に除草作業を実施 ｲ) 玉ねぎ収穫作業と販売を実施 ｳ) 5 月定植作業に利用者 2 名参加 6 月の作業時に定植作業を実施 ｴ) ジャガイモの定植を 1 月に実施 6 月ジャガイモの収穫を実施 9 月･10 月にさつま芋収穫実施	◎
	職員の責任感と役割意識の向上	①職務分掌上での役割についての報告	ｱ) 職員会議内で共有、詳細は、職員面談で確認	○
人材育成と成長	Web 研修参加(一人 1 研修受講)の促進と活用	①一人一研修受講の推進と定着 ②学びの報告と共有の定着	① ｱ) 研修受講を推進するが、全職員の 1/2 に留まる ② ｲ) 職員会議にて研修報告を実施	△
	PDCA サイクルを意識した業務の推進と育成	①全職員対象に半期毎の面談を実施(7,8,12,1 月) ②報連相のし易い環境作り	① ｱ) 全職員年 2 回の実施には至らず ② ｲ) 職制の気付きにより職員個々に報連相を指導	△

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
業務内容の見直しと 簡略化	書類･記録の効率化と見直し	①見直しと書類のピックアップ (4,5 月) ②改善と効果の検証(7 項目)	① ｱ) 報酬改定を受け必要となるチェック表を新たに作成 ② ｱ) 改善の声は上がらず未実施	△

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
業務内容の見直しと簡略化	業務の効率化推進と効果の確認	①見直し書類のピックアップ ②送迎・掃除・作業準備・通常業務等の手順短縮を検討	① ｱ) 1月、行事計画に関する手順を検討、手順表を作成 ② ｱ) 各事業所で検討、残業時間の申請について再度周知	○
マニュアル整備	マニュアル作成・改訂の周知徹底	①改善を要するマニュアルの洗出し ②改善マニュアルの作成	① ｱ) BCP計画の作成・共有を実施（感染症、災害、事故） ② ｱ) 既存のマニュアルの改善は未実施	△
	利用者支援の全体周知と更新の徹底	①利用者対応・支援方法の具体的周知	ｱ) 利用者情報（緊急時の連絡先等）について次年度更新することを周知	○
事業所間の協働推進	せいれいやさかだい・GHのぞみの連携強化	①バックアップ機能・サポートの強化	ｱ) GHのぞみの人員体制が整わず、5月～12月まで不定期で職制が支援に入る	○
	年間を通した行事・活動・作業(農福連携・屋外作業)の3事業所間の連携による業務推進	①日常業務に必要な支援体制の構築と見直し ②ｗｅｂ環境を活用した情報共有の継続(終礼) ③事業所全体で農福連携・清掃等の屋外作業に従事	① ｱ) 週間予定表の作成等を通じ事業所間の役割・動きを確認 ② ｱ) Zoomを活用した終礼を実施、その日の情報共有等を実施 ③ ｱ) 清掃作業は事業所毎に交代で実施 ｲ) 農作業は収穫時に利用者・職員の大半が参加	○

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
権利擁護の実践	権利擁護に係る研修受講の促進と実践	①内部研修の開催（6月） ②外部研修の参加（8～1月）	① ｱ）内部研修（虐待防止）実施 ② ｱ）外部研修参加（5名）	◎
	利用者･家族への応援･支援の強化	①支援者による各家庭の課題共有 ②関係機関との連携強化	① ｱ）支援力低下のご家庭の状況に家庭訪問をその都度実施 ｲ）夕礼時に情報共有等を実施 ② ｱ）随時、支援センター・相談センター等の関係機関と連携	◎
利用者ファーストに立った支援の実践	月額工賃の支給額の向上	①新規作業獲得と安定供給 ②楽しんで取り組む環境整備	① ｱ）Vi-mailからの作業受託量を拡大 ｲ）市バスターミナル清掃を再受託 ｳ）ジャガイモ・さつま芋の生産量を1.5倍に拡大 ② ｱ）作業環境の工夫や部屋の配置換えなどを実施	◎
	利用者自治会（ぎんが会)の活動支援	①年間4回の自治会を開催（6,9,12,3月） ②会議進行・資料・記録作成の実施	① ｱ）年間3回(6,9,1月)のぎんが会を開催 ② ｱ）会議毎に進行・記録作成を実施	◎
	利用者･ご家族の満足度向上	①満足度調査の実施	ｱ）11月に満足度調査を実施、家族会・法人へ報告を実施	◎
安心と安全に基づくサービスの提供	専門職(OT・PT・調理師)らとの多職種連携と協力体制の構築	①法人内部への相談 ②外部有識者への相談	① ｱ）神戸愛生園PTへの相談を実施 ② ｱ）随時、看護師・薬剤師と連携を実施	◎

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
安心と安全に基づくサービスの提供	看護師配置時間の拡充	①看護師配置時間拡充の検討 ② 試算の実施	① ｱ) 看護業務と健康管理に係る業務時間について状況を確認 ② ｱ) 事業収入に余裕がないため見送る	△
	利用者・家族への定期的な情報提供・活動報告の実施	①月毎に活動の様子を発信	ｱ) 家族会、ＳＮＳ、機関誌、月間予定表にて情報提供、活動報告を実施 ｲ) 家族会にて活動写真を 2 回回覧	○

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	実施状況	達成度
定員数の確保	関係機関等への定期訪問の実施	①担当者との関係づくり ②事業所の活動アピール ③体験入所者の受け入れ	① ｱ) 毎月の訪問実施（18 回/年） ② ｱ) SNS への投稿、見学会の実施 ③ ｱ) 3 月・4 月に見学会を企画（2 名参加）	◎
	内外に向けての情報の発信	①活動内容等の情報発信 広報誌の発行 ②SNS などによる情報発信	① ｱ) 広報誌の発行（1 回） ② ｱ) Facebook 投稿（64 回）	△
2. 安定した経営	加算請求要件の見直し	①受給者証のチェックと更新の徹底(4,9,1 月) ②加算請求要件の熟読と確認の実施(4,9,1 月) ③研修申し込み	① ｱ) 受給者証チェックを実施（5・12 月） ② ｱ) 4 月・6 月・2 月・3 月に実施 ③ ｱ) 強度行動障害支援者養成研修への申し込み未実施	○
	開所日数・活動内容の拡充	①半期毎の活動内容の検討 ②年間 269 日の開所	① ｱ) 土曜活動・祝日開所について検討 ② ｱ) 270 日開所を実施	◎

（5）地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域連携・関係性強化	地域交流(すくすく・さくら・寿喫茶等)への参加	①感染対策を講じ、毎月開催の地域交流に参加（12回/年）	ｱ）年間開催の7割に参加（29回/年）	◎
	地域行事・活動へ積極的役割を果たす	①地域の大掃除へ参加（2回/年 6,11月） ②地域自治会で実施される行事へ参加	① ｱ）6月・12月に地域の大掃除に参加 ② ｱ）各種地域行事へ参加 ・ふる里まつり ・安心安全コミュニティー像の集い ・地蔵盆 ・こんにちはカーニバル ※梅見ハイキングは他行事と重なり断念	◎
地域貢献の具現化	地域清掃の実施	①バス停等の地域清掃の実施（1回/週） ②自治会館、福祉センターを訪問し交流、障害への理解促進	① ｱ）バス停清掃を実施（45回） ② ｱ）ふれあい喫茶・寿喫茶（19回） ｲ）福祉センター・卓球（46回）	◎
	高齢化する地域との共生に向けた取組み	①認知症サポーター研修開催 ②市民救命士講習開催	① ｱ）実施に至らず ② ｱ）実施に至らず	×

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	1件	2件	0件	1件	0件	0件	0件	3件	7件	1件

※その他：車両の接触（軽微な擦れ）2件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	転倒	打撲	その他			
ヒヤリ件数	1件	1件	1件	件	件	件

※その他：利用者に対する言葉づかい1件

4. 出来した事案

(1)「他害行動」についてご利用者家族からの訴え

ご利用者のご家族より、同事業所他利用者から右腕を引っ掻かれたのではないかとの訴えがありました。客観的に見て他害行為とは考えにくく、虫刺されをご自身で掻いた跡ではないかとお伝えしましたが納得は得られていません。今後はキズが確認された場合、速やかに情報共有することを約束しています。

(2) 職員からのメールについてご利用者家族からの訴え

当事業所クリスマス会（ホテルでの開催）を前に、職員からご利用者のご家族に対し「普段の服装、大荷物で来られた場合、周囲から浮いてしまう」とメールをしたところ、「極めて無礼なメールであった」とご指摘を受けました。ご家族に謝罪し、当該の職員には指摘内容を説明し注意しています。

2023 年度事業報告

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
施設名　グループホームのぞみ
施設長　岩井　誠一

グループホームのぞみの基本方針

1. 一人ひとりの基本的人権を尊重したサービスを提供します。
2. 利用者の障害特性を理解し「その人らしい暮らし」を共に考え支援します。
3. 一人ひとりが主体性を発揮し、生活の場面で生きがいを感じられるよう支援します。
4. 安心・安全な生活が送れる環境づくりと衛生面の提供を行います。
5. 地域の皆さんとの交流機会を求め､利用者の積極的な関わりと参加に努め地域に開かれた関係づくりをめざします。

第 5 期中期計画のビジョン

利用者一人一人に寄り添い、その人らしく生活できることを支える職員集団をめざします

2023 年度の事業報告について

2023 年度の GH のぞみは、職員配置の確保に苦慮した一年となりました。5 月からご利用者 1 名の週末利用が始まり、土曜日の日中及び夜間対応が必要な状況が発生しました。2 年間勤務していた職員の退職などから､人員体制が整わず職制が中心となり 12 月にかけて支援を継続しました。この間、職員募集を続けるも思うような人材が確保できず、他職員には負担を強いることとなりました。

高齢化したご家族にあっては親御さんが亡くなり、ご利用者の方が見送られるケースが 2 件ありました。ご家族は、親亡き後についての不安がより顕著なものと感じるきっかけになったと思います。また、ご利用者 1 名の生活レベルの後退により、日常の支援がこれまで以上に困難になり、排泄・入浴・食事・日中活動先への移動がままならず、女性職員では移動や更衣を含めた支援ができない状態に衰退されました。ご家族・日中活動先・計画相談と連携し、病院受診をはじめとする支援を行いましたが、微熱が続き経口摂取が困難な状況となり、ご家族も医療対応を決断し入院されましたが、入院後、数日を経て治療の甲斐なくご逝去されました。初めてご利用者を見送る経験をしました。親亡き後､利用者支援の限界など GH が抱える様々な課題について考えることになりました。

新型コロナの影響は数回に渡りありましたが、幸いクラスターには至らず、いずれも個人で治まっています。第 5 類への移行となりましたが、共同生活の場において感染症の発生は、利用者間・ご家族・日中活動先を含めた情報共有・連携が非常に重要となるため、今年度の反省を基に、被害の最小化のために一層の連携強化を目指します。

1. 事業概要

開設年月日：2021 年 4 月 1 日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第 2 種)	共同生活援助	8 名	身体・知的障害者	2021 年 4 月 1 日

2．推進状況

（1）学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
幅広い支援と視野の獲得	先進的取り組み先、事業所等の見学	①法人内グループホーム（ふくだ・たいのはた東）見学（1回/年）	ｱ）せいれいやまて見学実施、施設見学及び意見交換を実施（10月、職員3名参加）	○
	知的障害について理解を深める	①学習会の開催（1回/年間）	ｱ）障がいの理解（自閉症、ダウン症）について勉強会を実施（3月）	◎
外部研修を活用したスキルアップ	外部研修（セミナー等）への参加	①障害特性の理解に繋がる外部研修受講の推進	ｱ）研修案内は行ったが参加には至らず未実施	△
	専門性を伴う研修の受講	①専門性スキル向上に繋がる研修受講	ｱ）愛生園介護研修に参加　2回 ｲ）感染症、嚥下に関する資料の掲示	△

（2）業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
重度障害者対応グループホームとしての成長	支援及び専門知識の習得（資格取得含む）	①重度障害者支援に必要なスキルを含む研修への参加促進	ｱ）未実施	×
	建設的な提案と尊重し合う関係づくり	①職員会議の見直しと充実（1回/月）	ｱ）各月第3木曜日に実施、内部研修も不定期に実施	◎
支援者の役割と連携促進	業務マニュアルの作成と更新	①個別支援マニュアルの作成 ②マニュアルの共有	① ｱ）個別の服薬・排泄マニュアルをご家族と一緒に作成 ② ｱ）服薬支援について全職員に周知	◎

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
支援者の役割と連携促進	支援者間の報連相と連携	①ラインを活用した情報共有の定着 ②ホワイトボードを活用した情報伝達のマニュアル作成	① ｱ) 帰省変更、事故、ヒヤリハット、イベント等の情報についてタイムリーに共有 ｲ) 業務連絡は各職員が意識を持って発信できている ② ｱ) 個別のスケジュール・研修案内など掲示	○
職員・家族が共有する機会の創出	家族の集いを開催し利用者支援について共有を図る	①半期毎の家族の集いの開催（6月、11月）	ｱ) 家族の集いの開催を実施（10月・3月）	◎
	家族との交流行事の実施（茶話会・食事会　等）	①家族交流行事の年1回の開催（6,11月のいずれか）	ｱ) 5月・2月・3月と3名のご家族と茶話会を実施	◎

（3）顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
利用者の理解促進と支援の実施	日中活動先との連携強化	①日中先の見学と活動状況の把握（5事業所）	ｱ) 自立センターひょうごへの見学の実施（4名） ｲ) 聖生園への見学実施	◎
	利用者毎のケースワークの実施	①利用者毎のケースワークの実施と定着（職員会議にて実施）	ｱ) 新規利用者のアセスメント、職員会議にて情報共有を行う	△
健康・医療面のスキル向上	医療関係の専門職(看護師)の方と勉強会の実施	①健康に関する（発熱・ケガ等）対応についての共有（5月）	ｱ) 未実施	×
	利用者の服薬についての勉強会の実施	①薬の効能についての把握、情報共有	ｱ) 医療情報、処方箋について資料の整理を行った ｲ) 薬剤師との情報共有	△

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
居心地と安心の提供	食事の充実(リクエストメニュー・質向上)	①リクエストメニューの聞き取りと提供(誕生日メニュー) ②年間予定の提示(誕生月)	① ｱ) 誕生日カレンダーを作成、全利用者の誕生日会を実施 ｲ) 土日祝日についてはリクエストメニューを提供 ② ｱ) 各月の予定は個々に掲示	◎
	お楽しみイベントの定期開催	①希望イベントの聞取りと検討(ビデオ鑑賞会・レクリエーション等) ②年間予定の提示と案内	① ｱ) 毎月第3金曜日にお好み焼き、流しそうめん、デザート作りなどを利用者主体で実施 ｲ) 利用者にイベントのリクエスト聞き取りを実施 ② ｱ) イベント案内のプリントを配布	◎
環境整備と充足	週末送迎の拡大	①週末送迎の試行と定着(土曜朝、日曜午後：3名)	ｱ) 移動支援サービスを調整し新規で利用者2名の週末利用が定着	○
	衛生面に関する設備の充足	①汚物(汚染物)専用洗濯機の設置	ｱ) 未実施	×
	手摺り等の補助具の充足	①補助具等の検討・提案・設置(浴室の安全確保)	ｱ) 家族と相談の上、ベッド柵(落下防止)見守りカメラを設置	○

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
地域住民への周知	地域活動(大掃除)の参加	①地域の年間予定の把握 ②活動参加への勤務等の調整	① ｱ) 夏祭りに利用者1名が参加 ② ｱ) 大掃除の準備・当日の参加は職制が対応	○
	地域自治会への周知と掲示板の活用	①生活の様子を伝える簡易ペーパー作成と掲示	① ｱ) 3月機関紙にGHの記事を掲載し配布 ｲ) 自立センターひょうご家族会見学受入れ	○

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	実施状況	達成度
災害時の備えと地域への貢献	非常食の確保とフードサイクルの実施	①非常食の検討・追加購入 ②フードサイクル管理表の作成	① ｱ）5日分相当の非常食と水を確保 ② ｱ）フードサイクル管理表を作成し掲示	○
	災害を想定した訓練等の実施	①防災・火災訓練の実施（神戸聖隷オアシス合同）	ｱ）3月神戸聖隷オアシスを含めた合同避難訓練（通報）を実施	○

3．事故・ヒヤリ報告

種別	骨折	転倒、滑落	切傷､表皮剥離	打撲、捻挫	火傷	異食、誤嚥	誤薬	その他	計	行政報告件数
事故件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	4件	4件	0件

※その他：服薬の飲み忘れ確認(落下含む)ミス4件

ヒヤリハット報告

種別（多い順）	配薬	異食	その他			
ヒヤリ件数	2件	1件	3件	件	件	件

※その他：洗濯物の取り違え3件、服用後の吐き出し確認2件、
ケーキに巻いてあるフィルムを口にした1件

4．出来した事案

（1）特にありません。

2023年度　事業報告別表　１（事業実績）

（黄色）要入力　　※稼働日数が協定等で定められている事業以外は法定年間稼働日数で利用率を算出しています

特養・グループホーム・施設入所支援（入所型事業）		定員数	利用延べ人数（単位＝人） 2023年度目標	2023年度実績	利用率①（単位＝％） 2023年度目標	2023年度実績	地域生活移行（単位＝人） 2023年度目標	2023年度実績
特養	平生園	60	21,301	21,341	97.0	97.2		
〃	さくらの苑	29	10,454	10,220	98.5	96.3		
GH	わらしべ	18	6,456	6,513	98.0	98.9		
入所	恵生園	60	21,512	20,691	98.0	94.2	0	0
〃	真生園	60	21,349	19,487	97.2	88.7	0	0
〃	神戸愛生園	50	17,538	16,266	95.8	88.9	0	0
〃	神戸明生園	60	21,459	21,137	97.7	96.3	0	0
GH	グループホームもみの木	5	1,750	1,767	95.6	96.6		
〃	グループホームかしの木	7	2,377	2,273	92.8	88.7		
〃	グループホームかしの木Ⅱ	5	1,523	1,625	83.2	88.8		
〃	めぐみ	6	1,424	1,258	64.8	57.3		
〃	せいれいやまて	10	3,191	3,221	87.2	88.0		
〃	たいのはた東（定員5人＋体験1人）	5	1,648	2,191	90.1	119.7		
〃	南落合	5	1,648	1,733	90.1	94.7		
〃	アリエッタ北須磨	10	3,158	3,234	86.3	88.4		
〃	のぞみ	8	2,492	2,394	85.1	81.8		
〃	きたすま	5	1,802	1,788	98.5	97.7		
〃	みなみたもん	5	1,756	1,683	96.0	92.0		
〃	ふくだ	10	3,564	3,507	97.4	95.8		

短期入所支援事業		定員数	利用延べ人数（単位＝人） 2023年度目標	2023年度実績	利用率①（単位＝％） 2023年度目標	2023年度実績
高齢	さくらの苑	10	3,473	3,544	94.9	96.8
障害	恵生園	3	409	515	37.2	46.9
〃	真生園	4	120	99	8.2	6.8
〃	神戸愛生園	5	915	799	50.0	43.7
〃	神戸明生園	10	997	1,049	27.2	28.7
〃	アクシスひょうご	6	2,661	2,600	121.2	118.4

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等ﾃﾞｲ 重症心身障害者日中活動支援事業 日中一時支援事業 （日中型事業）		定員数	利用延べ人数（単位＝人） 2023年度目標	2023年度実績	利用率②（単位＝％） 2023年度目標	2023年度実績	
通所	さくらの苑	18	4,740	4,562	84.9	81.8	年間稼働日数 310日
〃	デイセンターひょうご（共生型）	25	546	444	8.1	6.6	
〃	神戸市立自立センターひょうご（共生型）	60	140	7	0.9	0.0	
生活	恵生園	60	16,447	15,660	101.5	96.7	
〃	真生園	60	15,919	14,651	98.3	90.4	
〃	神戸愛生園	60	15,766	15,050	97.3	92.9	
〃	神戸聖生園	60	14,278	13,613	88.1	84.0	
〃	せいれいやさかだい	25	6,010	5,732	89.0	84.9	
〃	神戸光生園	54	12,903	12,341	88.5	84.6	
〃	神戸明生園	80	19,442	21,137	90.0	97.9	
〃	デイセンターひょうご（多機能型）	25	4,992	4,463	74.0	66.1	
〃	自立センターひょうご	60	12,902	11,937	79.6	73.7	
〃	トゥモロー	8	1,477	1,196	76.6	62.0	市との協定日数 241日
〃	インクルージョンひょうご	20	2,590	2,333	48.0	43.2	
日中	真生園	5	12	2	0.7	0.1	
〃	神戸明生園	10	14	25	0.4	0.7	
〃	アクシスひょうご	6	0	0	0.0	0.0	
児童	すまいる	20	3,455	3,429	71.7	71.1	市との協定日数 241日
〃	らみい	10	1,690	1,703	64.3	64.8	市との協定日数 263日
〃	エスポワールこじか	10	2,009	1,975	84.1	82.6	市との協定日数 239日
〃	めぐみ	10	1,400	1,436	51.9	53.2	

就労移行支援事業・就労相談（日中型事業）		定員数	利用延べ人数（単位＝人）		利用率②（単位＝%）		就職者数（単位＝人）		就労定着支援 利用延べ人数（単位＝人）	
			2023年度 目標	2023年度 実績	2023年度 目標	2023年度 実績	2023年度 目標	2023年度 実績	2023年度 目標	2023年度 実績
移行	ワークセンターひょうご	30	4,483	5,296	55.3	65.4	12	10	356	374
定着	和生園	—	—	—	—	—	—	—	36	24
〃	神戸光生園	—	—	—	—	—	—	—	36	34
相談	しごとサポート中部	—	—	—	—	—	80	70	—	—
〃	神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—			—	—

就労継続支援B型（日中型事業）		定員数	利用延べ人数（単位＝人）		利用率②（単位＝%）		時間給工賃（平均）（単位＝円）		月配分額（平均）（単位＝円）	
			2023年度 目標	2023年度 実績	2023年度 目標	2023年度 実績	2023年度 目標	2023年度 実績	2023年度 目標	2023年度 実績
就B	和生園	40	8,748	8,497	81.0	78.7	191	206	16,000	24,842
〃	せいれいやさかだい	15	2,601	2,258	64.2	55.8	75	82	10,000	10,887
〃	神戸友生園	40	9,033	8,131	83.6	75.3	100	177	10,000	11,882
〃	神戸光生園	30	6,747	6,328	83.3	78.1	132	183	13,200	15,523
〃	デイセンターひょうご	15	2,570	2,401	63.5	59.3	150	150	3,100	2,816
〃	ワークセンターわかまつ	40	8,857	9,054	82.0	83.8	126	136	10,754	11,635

単位＝件

居宅介護支援・相談支援		支援内容・対象	支援件数 2023年度 目標	支援件数 2023年度 実績
居宅	居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	1,080	987
障害	ぴあほくたん	障害者	455	317
〃	発達障害者支援センター・ブランチ	発達障害者	440	392
〃	エスポワールこじか相談支援事業所	障害児	249	269
〃	恵生園相談支援事業所	障害者	211	225
〃	神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	7,200	7,328
〃	しごとサポート中部	障害者		
〃	ひょうご障害者相談支援センター（夜間支援含む）	相談・緊急対応	850	752
〃	神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	410	369
〃	きたすま障害者相談支援センター	相談・緊急対応	7,200	7,269
〃	神戸聖隷総合相談センター	相談	667	661

単位＝件

生活援助・介護予防・職場開拓		項目	件数 2023年度 目標	件数 2023年度 実績
障害	あったかプラザ（飲食店）	来店人数	4,393	4,368

単位＝人

診療所		診療延べ人数 2023年度 目標	診療延べ人数 2023年度 実績
医療	真生園診療所	1,068	880
〃	風クリニック	1,600	1,558
〃	神戸愛生園診療所	3,000	3,365

法定年間稼働日数	366日
法定年間稼働日数	270日

注意：利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所事業	利用延べ人数÷（定員数×366日）
②日中型事業	利用延べ人数÷｛定員数×（366日−8日×12ケ月）｝

※年度途中に開所・閉所の場合、上記計算方法を応用
【例】 定員20名の通所事業が1月に開所し、3月までの利用延べ人数が1250人の場合
利用率＝1250人÷（20人×（23日＋20日＋23日））＝94.7%

2023年度　事業報告別表　2（設備整備実績）

No.	施設名	施設件数No.	件名	内容概略	整備完了時期	事業金額（千円）	財源			
							サービス区分	財源科目	備考（補助金・助成金）	補助助成金（千円）
1	平生園	1	給湯器及び空調機械保全整備作業	給湯器及び空調室外機の保全整備	2023年4月	4,400	特別養護老人ホーム	修繕費		
2	平生園	2	エレベーター部品交換作業	経年劣化の各種部品交換	2023年11月	1,561	特別養護老人ホーム	修繕費		
3	神戸明生園	1	公用車（中古）	公用車を1台新規に整備すると共に、通所部の体制を見直し、効率化を進めることにより送迎体制も視野に入れる。	2024年3月	1,925	生活介護	備品積立金取崩収入		
4	神戸明生園	2	旧館カビ除去	天井、壁のカビ除去	2023年12月	2,486	生活介護	備品積立金取崩収入		